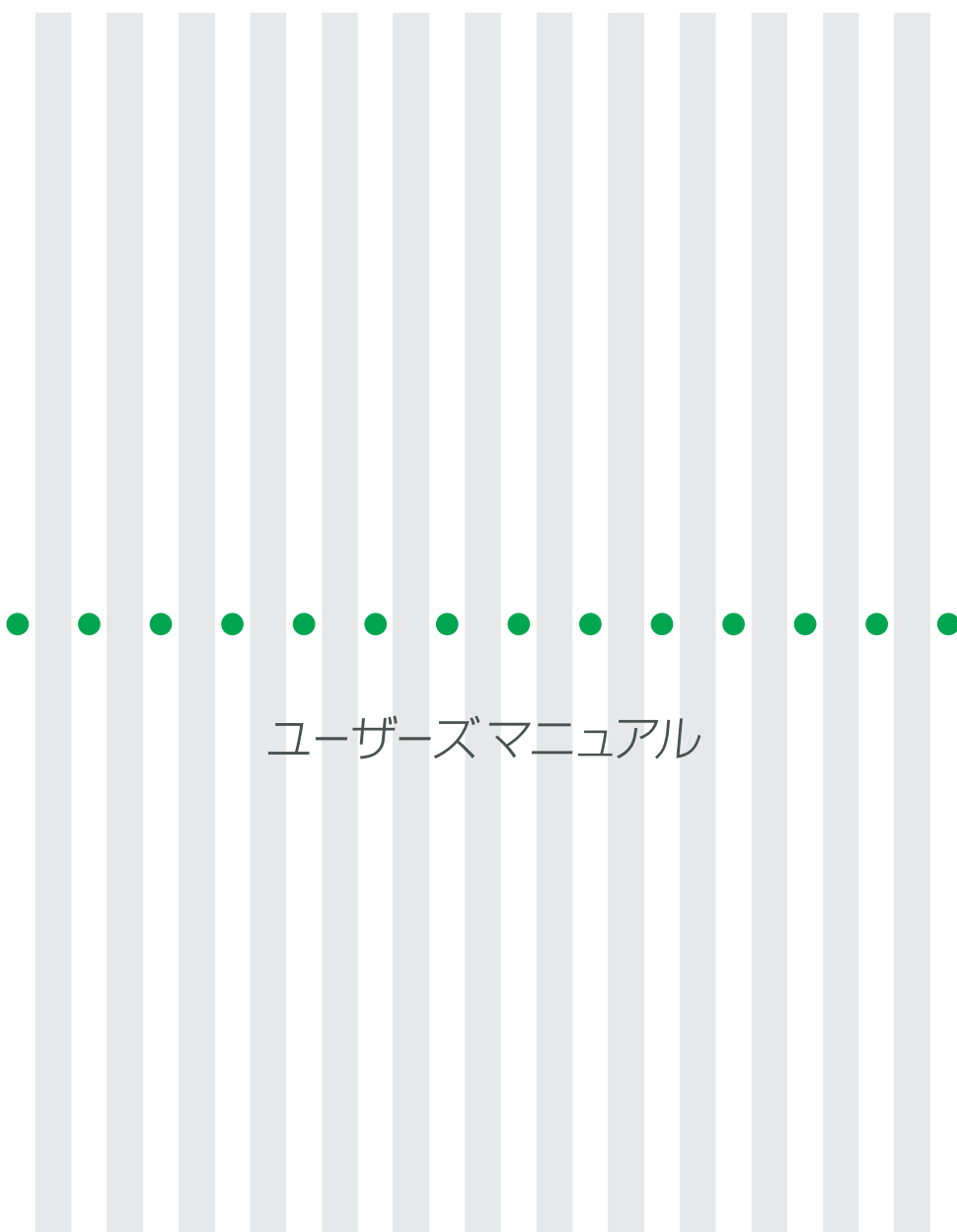


Endeavor

MR3100



ユーザーズマニュアル


ご使用前に


- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために


このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。




 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。
------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------











障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。
	アース端子を必ず接地（アース）して使用することを示しています。

⚠ 警告

 	<p>煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。</p> <p>すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。</p> <p>お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p>
 	<p>マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。 けがや感電・火災の原因となります。</p>
 	<p>交流100V以外では使用しないでください。 指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。</p>
 	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。</p>
 	<p>通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。</p>
 	<p>異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。</p> <p>すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。</p>
 	<p>破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 <p>電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。 カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。</p>
 	<p>電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。</p> <p>家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。</p>







警告

	<p>電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none">・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 <p>電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。</p>
 	<p>コンセントに電源プラグを接続したまま本体カバーを外して作業をしないでください。 感電・火傷の原因となります。</p>
 	<p>小さなお子様の手が届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。 飲み込むと化学物質による被害の原因となります。 万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。</p>
 	<p>雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>電源プラグのアース端子を接地（アース）してください。 接地しないで使用すると、感電の危険性があります。 アースは必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。また、アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。</p>
	<p>アース端子は、絶対にガス管に接続しないでください。 火災の原因となります。</p>
	<p>アース端子をコンセントに挿入または接触させないでください。 感電の危険があります。</p>

⚠ 注意

 	<p>小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。</p>
 	<p>不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。</p>
 	<p>湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。</p>
 	<p>本機の通風孔をふさがしないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 ・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。 ・じゅうたんや布団の上などに設置しない。 ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。</p>
	<p>連休や旅行などで長期間で使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>
 	<p>各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。</p>
 	<p>拡張ボードやメモリの交換・増設などは本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。</p>
	<p>本機を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。</p>
 	<p>ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。</p>
 	<p>長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。</p>
 	<p>光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れ、挟まれないようにしてください。 けがの原因になります。</p>

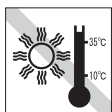
注意

 	光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。
 	マウス底面にある光学式センサーの光を直接見つめないでください。強い光により、視覚障害の原因となります。
 	本機を廃棄する場合は、法律に従って正しい処理をしてください。

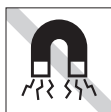
製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

本機（コンピュータ）は精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破損することがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。



電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



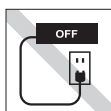
本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。汚れは、中性洗剤をしたたらない程度に染み込ませた柔らかい布で軽く拭き取ってください。



本機の上には重い物を載せないでください。重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



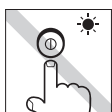
コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



アクセスランプ点灯中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

▶記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破損するおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

- FD** FD
- CD** 光ディスクメディア
- MC** メモリカード

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



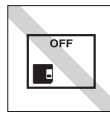
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用したり保管したりしないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

FD MC



磁性面あるいは金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。

FD MC



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD MC



何度も読み書きしたFDは使わないでください。磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。内側から外側に向かって拭いてください。

CD



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD

▶マウス

マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



持ち運びの際は、マウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。



レンズ部分に触れないでください。

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

第1章 使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

1

第2章 コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使い方など、本機の基本操作について説明します。

2

第3章 システムの拡張

本機に装置を装着して、機能を拡張する方法を説明します。

3

第4章 BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

4

第5章 ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

5

第6章 こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

6

付録

本機をご使用になる際に役立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

目次

製品保護上の注意	7
使用・保管時の注意	7
記録メディア	8
マウス	9

はじめに

マニュアル中の表記について	16
本製品の仕様とカスタマイズについて	20

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	22
コンピュータを使い始めるまでの手順 ...	22
ご使用前の確認事項	23
本機の特長	24
添付されているソフトウェア	25
各部の名称と働き	28
本体前面	28
フロントドア内部	29
本体背面	30
コンピュータの設置	32
電源の入れ方とWindowsのセットアップ	42
Windowsが使用できるようになるまでの作業 ...	42
電源を入れる前に	43
電源の入れ方とWindowsの起動	44
Windowsのセットアップ	45
セットアップ終了後の作業	48
Windows使用時の確認事項	50
2回目以降に電源を入れる	50
インフォメーションメニューを使う	51
復元ポイントを作成する	53
セキュリティ対策を行う	53
音量の調節	53
画面が消えたときは（省電力機能）	53
Windows CD-ROMを要求されたときは ...	54
コントロールパネルの表示	54
電源の切り方	55
Windowsの終了と電源の切り方	55
再起動	56
ハングアップしたときは	56

コンピュータの基本操作

キーボードを使う	58
キーの種類と役割	58
文字を入力するには	59
日本語を入力するには	59
キーロック表示ランプ	60
Fnキーと組み合わせて使うキー	60
ホットキーを使用する	61
Windowsキーとアプリケーションキー ...	62
マウスを使う	63
マウスの操作	63
マウスの設定変更	64
HDDを使う	65
データのバックアップ	65
購入時のHDD領域について	66
HDDを分割して使用する	67
HDDのフォーマット	67
RAID機能	68
RAIDの構成・削除	71
HDDが破損したら（RAID使用時）	74
光ディスク（CD/DVD）ドライブを使う	77
使用可能な光ディスクメディア	77
光ディスクメディアのセットと取り出し ...	78
CDメディアの読み込み・再生	81
DVDメディアの読み込み・再生	81
光ディスクメディアへの書き込み	82
Nero 7 Essentialsの使い方	83
マルチカードリーダを使う	85
使用可能なメモリカード	85
マルチカードリーダ使用時の注意	87
メモリカードのセットと取り出し	88
USB機器を使う	91
USB機器の接続と取り外し	91
画面表示機能を使う	93
表示に関する各種設定	93
解像度や表示色を変更するには	94
表示できる解像度と表示色	94
表示装置に関する設定	95
サウンド機能を使う	96
外部オーディオ機器などの接続	96
サウンドユーティリティを使う	99
音量の調節	99
音声の再生・録音	100
ネットワーク機能を使う	101
ネットワークの構築	101

インターネットへの接続	101
主な機能について	102
ネットワークボードを使用する	102
インターネットに接続するには	103
接続するまでの流れ	103
接続方法の選択とプロバイダとの契約	103
インターネットに接続する	104
インターネットを使う上での注意	105
インターネットを使用する際のセキュリティ対策	106
Windows Update	106
セキュリティソフトウェア	107
ファイアウォール	108
インターネットや電子メールを利用する	109
Internet Explorerの使い方	109
Outlook Expressの使い方	112
省電力機能を使う	115
省電力モードの種類	116
省電力モードに移行する	118
省電力モードから復帰する	120
スピードステップ機能	120
その他の機能	121
パラレルコネクタ	121
シリアルコネクタ (オプション)	121
IEEE1394コネクタ	121
ハイパー・スレディング機能	122
データ実行防止機能 (DEP機能)	122
セキュリティロックスロット	124

システムの拡張

拡張できる装置	126
作業時の注意	127
拡張時の準備作業	128
本体カバーとリンクカバーの 取り外し・取り付け	128
メモリの増設	132
メモリの仕様	132
メモリ装着の組み合わせと順番	133
メモリの取り付け・取り外し	133
メモリの増設・交換後の作業	138
拡張ボードの装着	139
拡張スロットの仕様	139
拡張ボードの取り付け・取り外し	140
拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業	142
ドライブ装置の接続	143
ドライブ装置の接続例	143

光ディスクドライブの接続	144
HDDの接続	145
ドライブベイへの装着	146
光ディスクドライブの交換	146
光ディスクドライブ交換後の作業	149
HDDの取り付け・取り外し	150
HDDの取り付け・取り外し後の作業	154

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	156
BIOS Setupユーティリティの操作	157
起動方法	157
操作方法	158
設定値をもとに戻すには	161
Passwordの設定	162
終了方法	165
BIOS Setupユーティリティの設定項目	166
Mainメニュー画面	166
Advancedメニュー画面	168
Powerメニュー画面	170
Bootメニュー画面	172
Exitメニュー画面	174
BIOSの設定値	174

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください	178
再インストールが必要な場合	178
重要事項	178
ソフトウェアの再インストールを行う	179
必要なメディア	179
インストールの順番	180
インストール作業における確認事項	181
Windowsのインストール	182
Windowsをインストールする	183
本体ドライバのインストール	187
各種ドライバのインストール	187
Adobe Readerのインストール	187
セキュリティソフトウェアのインストール	189
WinDVDのインストール	189
Nero 7 Essentialsのインストール	189
JWord Pluginのインストール	190
gooスティックのインストール	190
その他の作業	190

こんなときは

トラブルが発生したら	194
困ったときに	195
コンピュータが起動できない場合	196
システム診断ツール	198
コンピュータ本体の不具合 (CPU、メインボード)	199
インストール時の不具合	204
省電力機能に関する不具合	205
キーボードの不具合	206
マウスの不具合	207
ディスプレイ機能の不具合	207
HDDの不具合	209
光ディスクドライブの不具合	210
ネットワークの不具合	213
ソフトウェアの不具合	214
メモリの不具合	216
マルチカードリーダーの不具合	217
拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合 ...	217
スピーカ (サウンド) の不具合	218
セキュリティチップ (TPM) の セキュリティ機能の不具合	218
トラブル時に役立つ機能	219

セーフモードでの起動	219
システムの復元	219
警告メッセージが表示されたら	221

付録

お手入れ	224
本機のお手入れ	224
データのバックアップ	225
バックアップ方法	225
電子マニュアルのダウンロード	227
ダウンロードできるそのほかのデータ ...	227
セキュリティチップ (TPM) によるデータの暗号化 ...	228
HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成	229
HDD領域を分割して使用する (概要) ...	229
Cドライブを分割・変更する	230
Cドライブ以外のドライブを作成・変更する ...	233
Cドライブ以外のドライブを削除する ...	238
リチウム電池の交換	239
CMOS RAMの初期化	242
コンピュータ内部のケーブル接続	244
機能仕様一覧	245
用語集	246
索引	255

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

「マニュアル中の表記について」	16
「本製品の仕様とカスタマイズについて」	20

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。
例) 『梱包品の確認』: 本機に添付の『梱包品の確認』を示します。




参照先を示します。



1 2



操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。



 はEnterキーを表します。また、 は $N_{み}$ のことで、このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

＋の前のキーを押したまま＋の後のキーを押します。
この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディア、Blue-ray Discメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモ리카ード	メモリスティック、マルチメディアカード、 SDメモ리카ード、スマートメディア、 コンパクトフラッシュの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

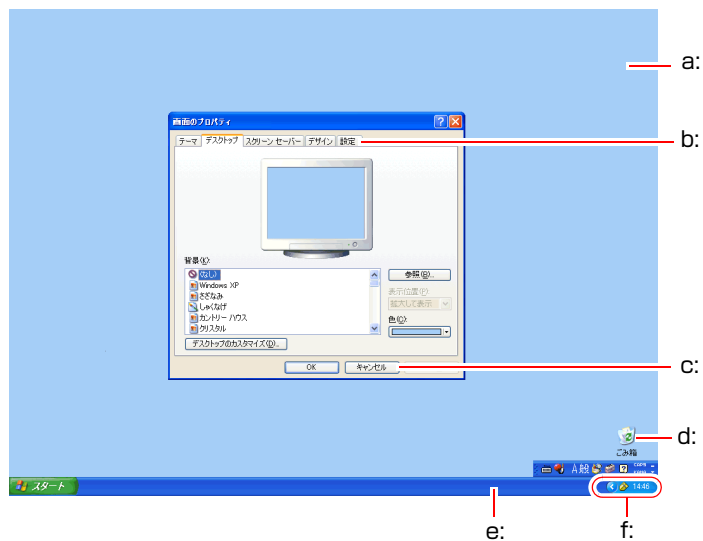
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition
------------	----------------------------------------------------------------------------

HDD 容量の記述

本書では、HDD 容量を1KByte=1000Byte として記載しています。

Windowsの画面表示に関する記載方法

本書では、Windowsの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



a: デスクトップ

Windowsが起動して、ディスプレイ
に表示される画面。

b: タブ

c: ボタン

d: アイコン

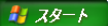
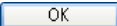
デスクトップ上やタスクトレイ内
の小さなイラスト。
機能などをイラストで表示してい
ます。

e: タスクバー

f: タスクトレイ

ボタンの記載方法

ボタンは [] で囲んで記載します。

例)  スタート : [スタート]、 : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windowsの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

- 記載例

[スタート] – 「すべてのプログラム」 – 「Internet Explorer」をクリックします。

- 実際の操作

(1) [スタート] をクリックします。

(2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

(3) 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



本製品の仕様とカスタマイズについて

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・ビデオボード・光ディスクドライブなど、選択された仕様にあわせて、お客様オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

本書で記載しているコンピュータの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバのインストール方法などは、購入時に選択された各装置に添付のマニュアルを参照してください。

メモリ	: 1セット (2枚)
HDD	: 1台
マルチカードリーダー	: 1台
光ディスクドライブ	: 1台
ディスプレイ機能	: メインボードの機能を使用
ネットワーク機能	: メインボードの機能を使用
サウンド機能	: メインボードの機能を使用
FAXモデム機能	: なし
キーボード	: 106 PS/2コンパクトキーボード (ホットキー付)
マウス	: ホイール付USBオプティカルマウス

仕様によって必要なマニュアルについて

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、ユーザーズマニュアル（本書）とは別に添付されている場合があります。お使いになる仕様によって、必要なマニュアルは下記のとおり、別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されています。ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに登録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに登録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

第1章 使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

「ご使用前に」	22
「各部の名称と働き」	28
「コンピュータの設置」	32
「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」	42
「Windows使用時の確認事項」	50
「電源の切り方」	55

ご使用前に

▶コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。

梱包品の確認

まず、梱包品に不足や不良がないかを確認します。


 『梱包品の確認』



安全にお使いいただくために・製品保護上の注意

本機を正しく安全にお使いいただくための情報を確認します。

必ずお読みください。


 p.2 「安全にお使いいただくために」

 p.7 「製品保護上の注意」



マニュアル中の表記について


本書で使用している記号や用語の表記方法について確認します。

 p.16 「マニュアル中の表記について」



本製品の仕様とカスタマイズについて


本機の仕様とカスタマイズについて確認します。

 p.20 「本製品の仕様とカスタマイズについて」



ご使用前に


本機を使用する前に必要な情報を確認します。

 p.22 「ご使用前に」



各部の名称と働き


各部の名称と働きを確認します。

 p.28 「各部の名称と働き」



コンピュータの設置


各機器の接続を行い、本機を使用可能な状態にします。

 p.32 「コンピュータの設置」



電源の入れ方とWindowsのセットアップ

電源を入れ、Windowsをはじめて起動したときに実行されるWindowsのセットアップを行います。

 p.42 「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

▶ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用前の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

- お問い合わせ情報シール

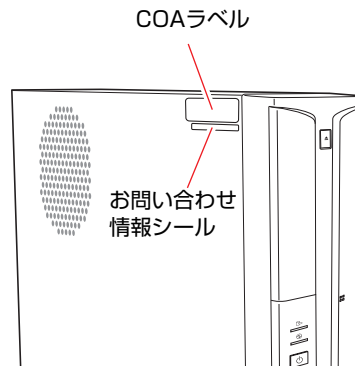
お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

COAラベル（Windows Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



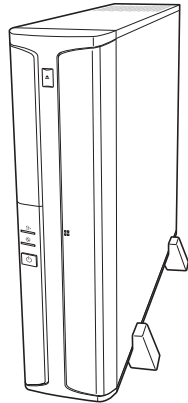
サポート・サービスのご案内

別冊子『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

▶本機の特長

本機の特長は、次のとおりです。



- CPU

インテルCore 2 Duo、Pentium D、Pentium 4、Celeron Dのいずれかのプロセッサを搭載しています。

Core 2 Duo、Pentium Dはデュアルコアプロセッサです。2つのコアを持っているため、異なる2つの命令を同時に実行することができます。

- チップセット

Intel G965 Express + ICH8Rチップセットを搭載しています。

- メモリ容量

PC2-5300 (DDR2-667 SDRAM) を使用して、最大3GBまで増設が可能です。

- ドライブベイ

次のドライブベイを装備しています。

- 5.25型ドライブベイ×1
- HDDベイ×2

- 拡張スロット

次の拡張スロットを装備しています。

- PCI Express x16 スロット×1本、PCI Express x4スロット×1本
- PCI スロット×2本

- オペレーティングシステム

Windows XPをインストール済みです。

- サウンド機能

インテル ハイ・デフィニション・オーディオのサウンド機能をメインボード上に搭載しています。

- ネットワーク機能

- 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応のLANコネクタを装備しています。



- そのほか

- マルチカードリーダを搭載しています。
- データの暗号化ができるセキュリティチップ (TPM) を搭載しています。

▶ 添付されているソフトウェア



本機に添付されているソフトウェアは、次のとおりです。購入時に選択された仕様によっては、この他にも添付されているソフトウェアがあります。

表中記号の見方

	購入時には、HDDにインストールされています。
	購入時には、HDDにインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。









Windows XPリカバリCDに登録されているソフトウェア












Windows XPリカバリCDは、Windowsの再インストールの際に使用します。

Windows XPリカバリCDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
<ul style="list-style-type: none"> ● Windows XP 本機の実行システム (OS) です。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● RAIDドライバ ICH8Rチップセットで「RAID」を使用するためのドライバです。 	

ドライバCDに登録されているソフトウェア



ドライバCDは、デバイスドライバやソフトウェアをインストールする際に使用します。

ドライバCDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
<ul style="list-style-type: none"> ● インテル G965 Expressチップセット用ドライバ メインボード上のデバイスを使用するためのドライバです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● Intel Matrix Storage Manager Windows上でRAIDの状態を確認するためのユーティリティです。 RAID構成時にのみインストールされます。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● ビデオドライバ メインボード上のディスプレイ機能を使用するためのドライバです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークドライバ メインボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● サウンドドライバ メインボード上のサウンド機能を使用するためのドライバです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティチップドライバ メインボード上のセキュリティチップを使用するためのドライバです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップのセキュリティ機能を使用するためのユーティリティです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● マルチカードリーダードライバ マルチカードリーダーの各ドライブに名前とアイコンを設定するためのドライバです。 	

ドライブCDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
<p>● インフォメーションメニュー 「マニュアルびゅーわ」や「とらぶる解決ナビ」などのマニュアル・サポートツールの一覧を表示するユーティリティです。</p>	
<p>● システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。</p>	
<p>● Windows Media Player 10 動画や音声を再生するためのソフトウェアです。</p>	
<p>● キーボードユーティリティ 106PS/2コンパクトキーボードのホットキーを使用するためのユーティリティです。</p>	
<p>● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのプログラムです。</p>	
<p>● Microsoft .NET Framework .NET Frameworkの開発環境で作成されたアプリケーションなどを使用するためのプログラムです。</p>	
<p>● Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。</p>	
<p>● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、スパムメール（迷惑メール）防止機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。</p>	
<p>● PhishWall フィッシング対策ソフトウェアです。</p>	
<p>● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。</p>	
<p>● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。</p>	

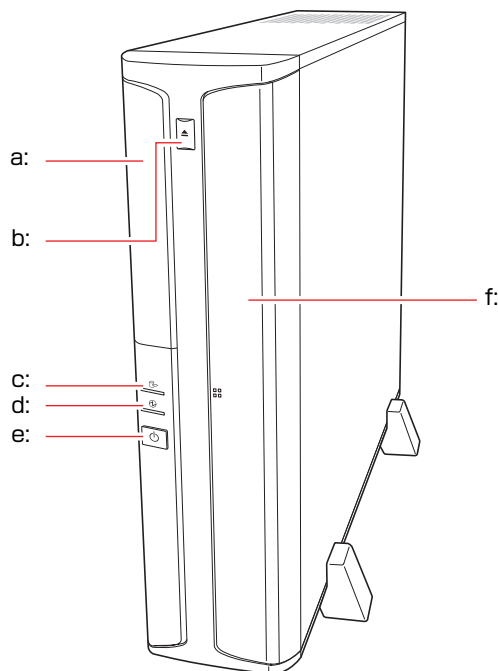
そのほかの添付CDに登録されているソフトウェア

そのほかの添付CDは、各ドライバやソフトウェアを再インストールする際に使用します。購入時に選択された仕様によっては、この他にも添付されているCDがあります。

そのほかの添付CDに登録されているソフトウェア	購入時の状態
<ul style="list-style-type: none">● WinDVD DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。 CD名：「WinDVD CD-ROM」	
<ul style="list-style-type: none">● Nero 7 Essentials (書き込み機能のある光ディスクドライブ選択時のみ) 光ディスクドライブの書き込み機能を使用するためのソフトウェアです。光ディスクメディアにデータ、音楽、画像などを書き込むことができます。 CD名：「Nero 7 Essentials CD-ROM」	

各部の名称と働き

▶ 本体前面



a: 光ディスクドライブ

光ディスクメディアの読み込み、書き込みを行います（お使いの光ディスクドライブにより使用できるメディア、機能は異なります）。

b: 光ディスクドライブイジェクトボタン ▲

ディスクトレイの開閉を行います。

c: HDD・光ディスクドライブアクセスランプ

HDD、光ディスクメディアへのアクセス中に点灯・点滅します。

d: 電源ランプ


電源を入れると点灯します。スタンバイ中は点滅します。

e: 電源スイッチ

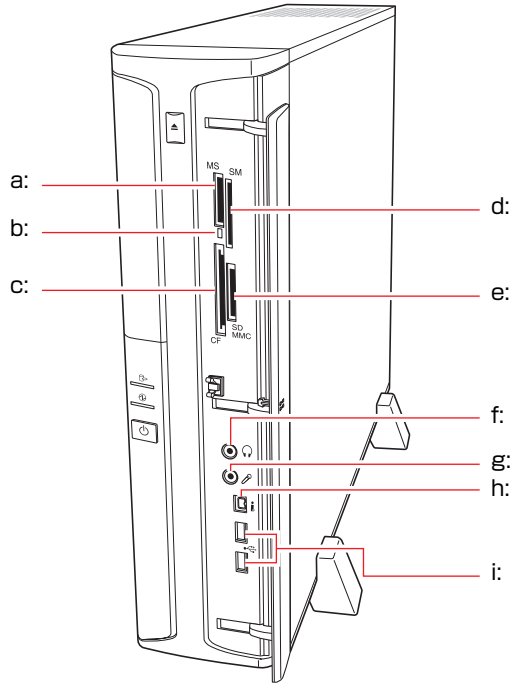
コンピュータ本体の電源の入/切を行います。

f: フロントドア

ドアの中央部を押すと、開きます。中にはマルチカードリーダーなどが装備されています。





 p.29 「フロントドア内部」

▶フロントドア内部

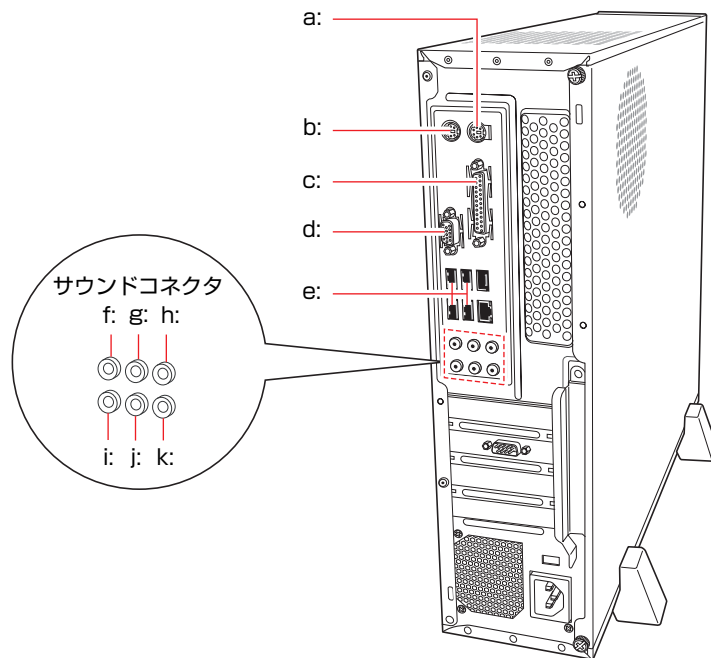













マルチカードリーダー (a:~e:)

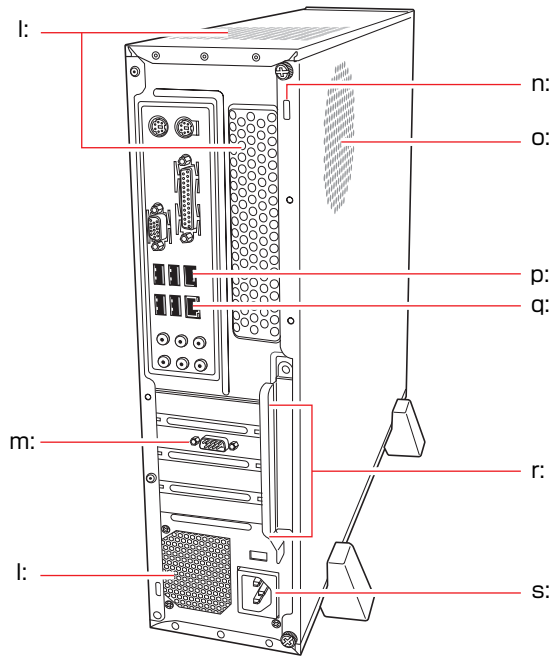
- a: メモリースティックスロット MS
メモリースティックをセットします。
- b: マルチカードリーダーアクセスランプ
ランプの点灯・点滅で、状態を表示します。
点灯：メモリカードセット時
点滅：メモリカードアクセス時
- c: コンパクトフラッシュスロット CF
コンパクトフラッシュをセットします。
- d: スマートメディアスロット SM
スマートメディアをセットします。

- e: SDカードスロット ^{SD}MMC
SDメモリーカード、またはマルチメディアカードをセットします。
- f: ヘッドフォン出力コネクタ 
ヘッドフォンやスピーカと接続して音声を出します。
- g: マイク入力コネクタ 
マイクを接続して音声を入力します。
- h: IEEE1394コネクタ 
IEEE1394対応の周辺機器を接続します。(4ピン)
- i: USB2.0コネクタ 
USB2.0対応の周辺機器を接続します。

▶ 本体背面




- a: マウスコネクタ (PS/2) 
PS/2対応のマウスを接続します。
- b: キーボードコネクタ (PS/2) 
キーボードを接続します。
- c: パラレルコネクタ 
プリンタや、スキャナなどパラレルコネクタに対応した装置を接続します。
- d: VGAコネクタ 
ディスプレイと、VGAケーブルで接続します。
- e: USB2.0コネクタ 
USB2.0対応の周辺機器を接続します。
- f: サイドスピーカ出力コネクタ 
サイドスピーカと接続して音声を出力します。
- g: リアスピーカ出力コネクタ 
リアスピーカと接続して音声を出力します。
- h: センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ 
センタースピーカ、サブウーファと接続して音声を出力します。
- i: マイク入力コネクタ 
マイクと接続して音声を入力します。
- j: フロントスピーカ/ライン出力コネクタ 
フロントスピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。通常、スピーカはこのコネクタに接続します。
- k: ライン入力コネクタ 
オーディオ機器と接続して音声を入力します。



l: 通風孔

本機内部で発生する熱を逃がします。

m: シリアルコネクタ (オプション) 


モデムなど、RS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。

n: セキュリティロックスロット


市販の盗難抑止用ケーブル (ワイヤー) を取り付けます。

o: 通風孔

本機内部に外気を取り入れます。

p: IEEE1394コネクタ 

IEEE1394対応の周辺機器を接続します。(6ピン)

q: LANコネクタ 

LANケーブルを接続します。

r: 拡張スロット

拡張ボードを装着します。購入時のシステム構成によっては、あらかじめ拡張ボードが装着されています。

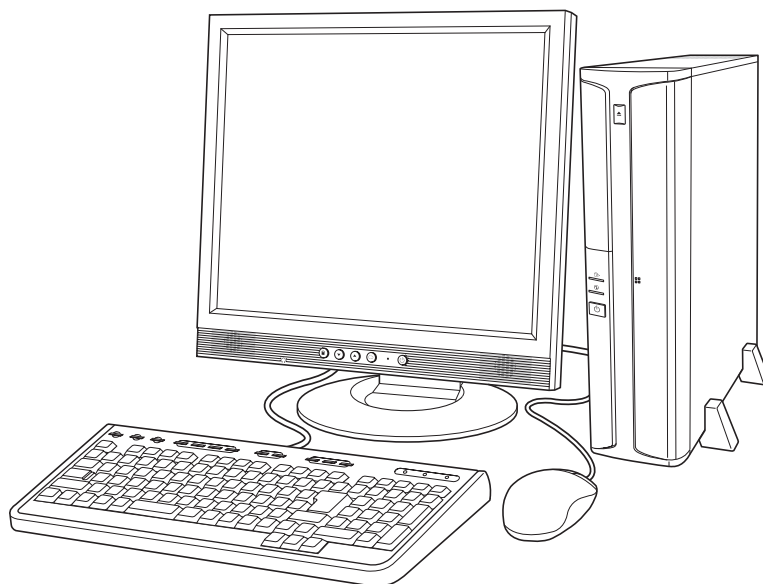
s: 電源コネクタ

添付の電源コードを接続して電気を供給します。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器は、Windowsのセットアップ終了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して接続してください。



設置における注意



注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p.7「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード（ケーブル）接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



- 各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカを使用するときは、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームが大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

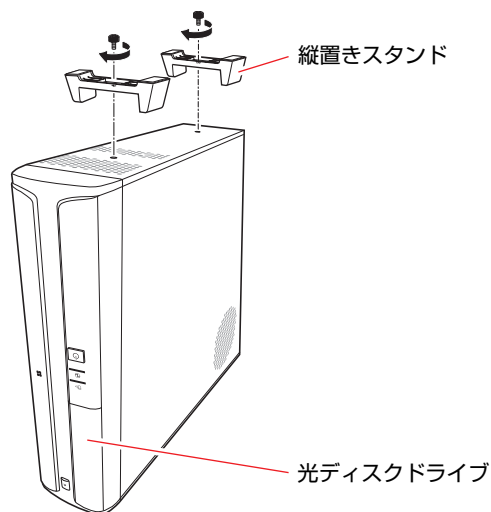
設置

- 1 設置場所に応じて、本機を縦置きまたは横置きのどちらにするか決め、設置準備を行います。

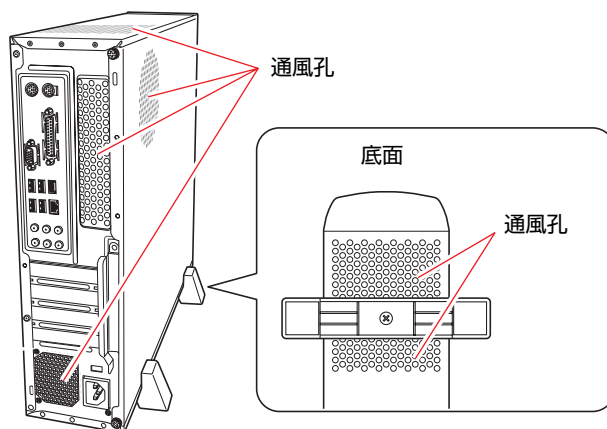
縦置きにする場合

転倒防止のため、必ず縦置きスタンドをセットしてください。

- (1) 光ディスクドライブ側を下にして置き、縦置きスタンド2個を添付のネジで留めます。

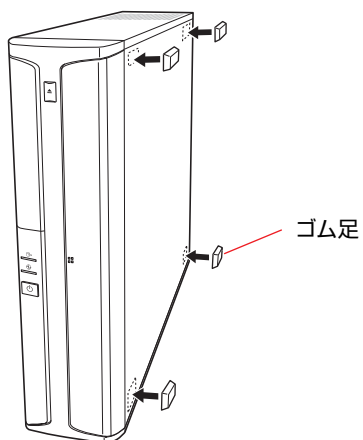


- (2) 縦置きスタンドを下にして置きます。設置した際に、通風孔をふさがないようにしてください。

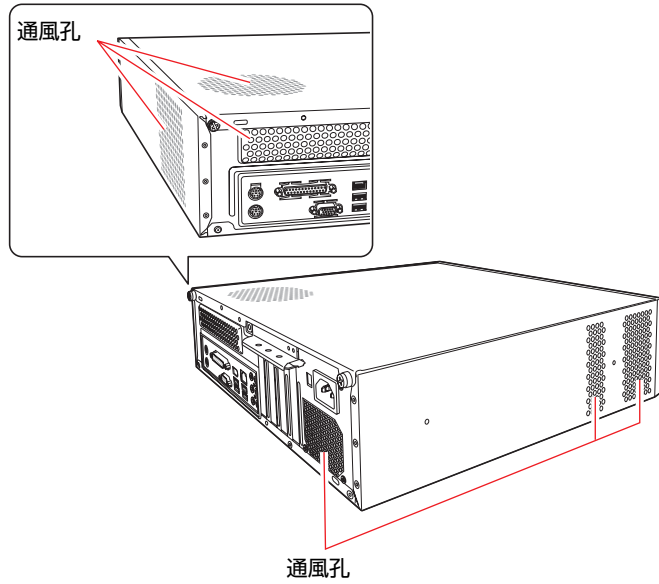


横置きにする場合

- (1) 添付のゴム足（4個）を通風孔のない面の4隅に付けます。



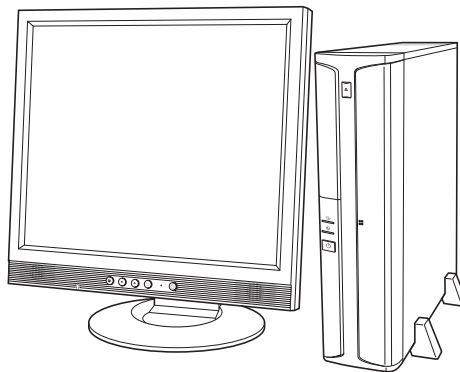
- (2) ゴム足を付けた面を底にして、横置きにします。設置した際に、通風孔をふさがないようにしてください。



制限

本機の上に載せられるディスプレイの重さは、18kg までです。
18kg より重いディスプレイは載せないでください。

- 2** 本機とディスプレイを設置場所（丈夫で水平な台の上など）に置きます。

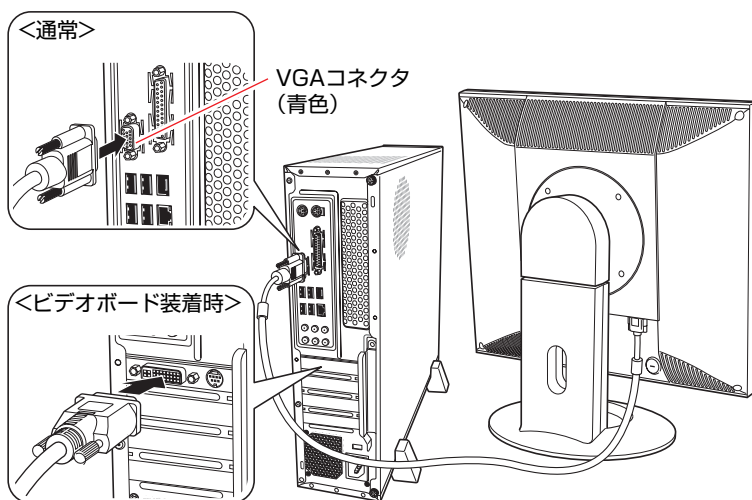


ディスプレイの接続

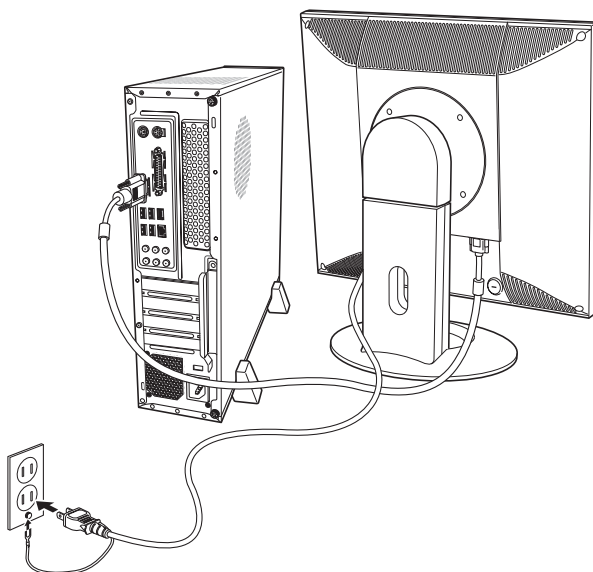
接続方法は、お使いになるディスプレイにより多少異なります。ディスプレイの取り扱い上の注意や詳しい使用方法は、お使いになるディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

3 ディスプレイのVGAケーブルを、本機背面のVGAコネクタ（青色）に接続します。

ビデオボードを装着している場合は、ディスプレイのケーブルをビデオボードのコネクタに接続します。



4 ディスプレイの電源コードを、家庭用電源コンセントに接続します。



スピーカの接続

本機にはスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、スピーカやスピーカが搭載されているディスプレイなどを接続してください。

ここでは一般的な接続方法を説明します。

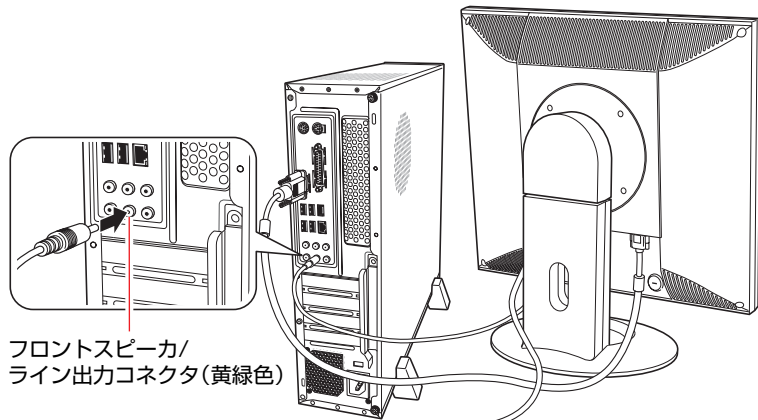
詳しくはスピーカやディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

5 ディスプレイやスピーカのオーディオケーブルを本機背面のサウンドコネクタに接続します。

オーディオケーブルが1本の場合は、フロントスピーカ/ライン出力コネクタ(黄緑色)に接続します。スピーカにより、接続するケーブルの数は異なります。

スピーカを接続したら、「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」でスピーカの種類の設定が必要です。Windowsのセットアップ後に設定を行ってください。

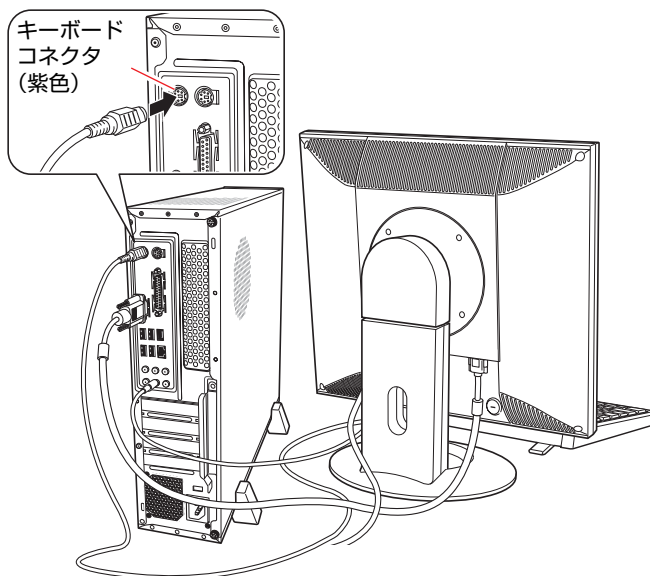
 p.98 「接続時の設定」



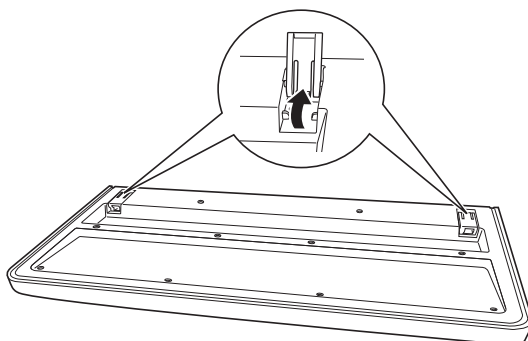
キーボードの接続

- 6** キーボードケーブルのPS/2コネクタを本機背面のキーボードコネクタ（紫色）に差し込みます。

日本語対応106 PS/2コンパクトキーボード以外を選択された場合、接続方法はキーボードに添付のマニュアルをご覧ください。



キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときは、両端の脚を起こします。




マウスの接続

7 マウスケーブルのコネクタを本機背面のコネクタに接続します。

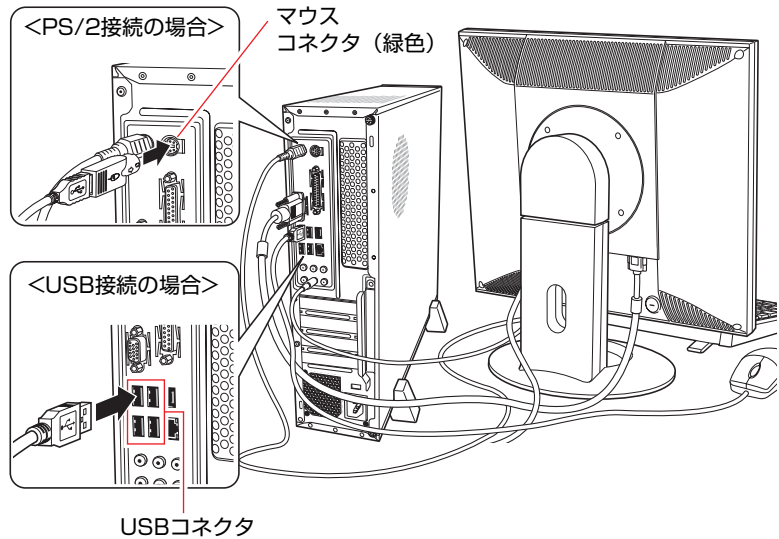
ホイール付USBオプティカルマウスは、USB接続またはPS/2接続（PS/2ポートアダプタ利用時）で使用できます。

マウスを左利き用で使用する場合は、Windowsのセットアップ終了後に設定してください。

 p.64 「マウスの設定変更」

<PS/2接続の場合>

PS/2接続で使用する場合は、マウスケーブルのコネクタにPS/2ポートアダプタを取り付けた状態で、マウスコネクタ（緑色）に接続します。

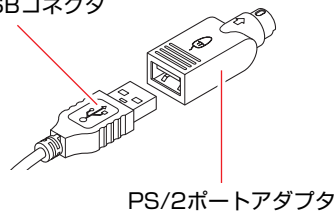


<USB接続の場合>

USB接続で使用する場合は、マウスケーブルのコネクタからPS/2ポートアダプタを取り外してください。

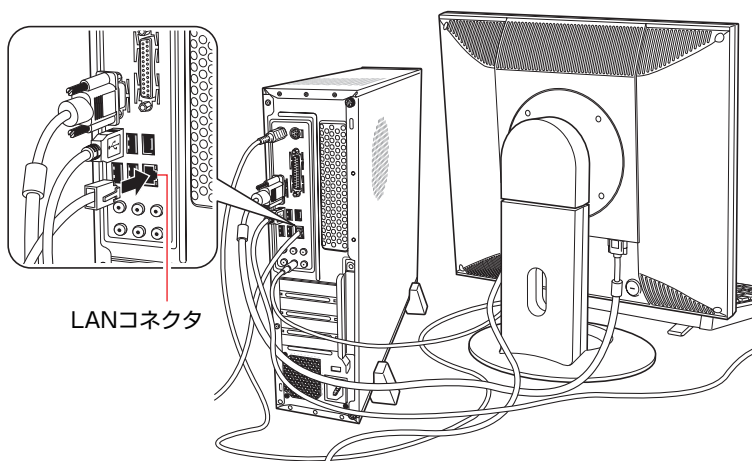
USBコネクタへの接続は、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

マウスのUSBコネクタ



ネットワークへの接続

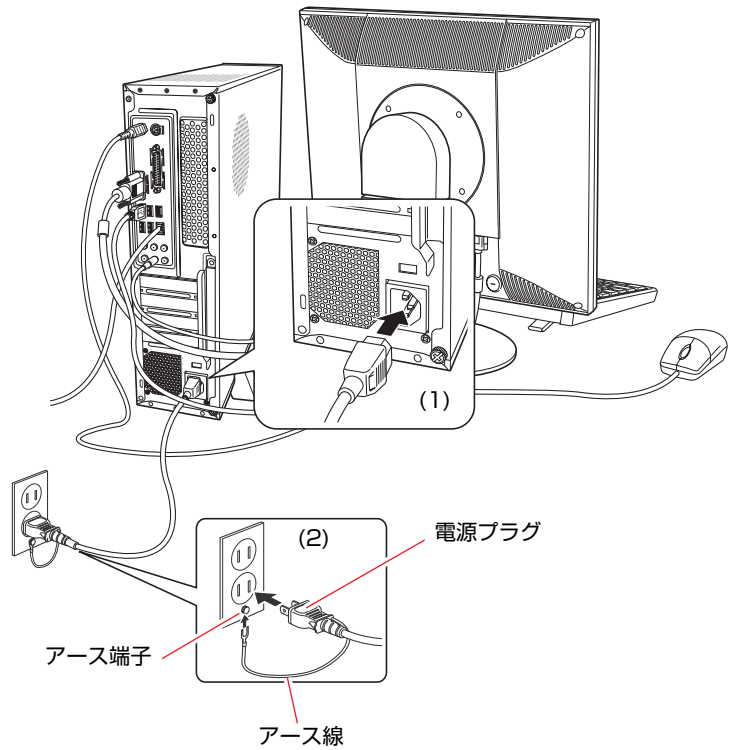
- 8** ネットワークに接続できる環境で、メインボード上のネットワーク機能を使用する場合は、市販のLANケーブルをLANコネクタに接続します。
ネットワークボード使用時は、ネットワークボード上のLANコネクタに接続します。
インターネットに接続する場合は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。



電源コードの接続

9 電源コードを接続します。

- (1) 電源コードを本機の電源コネクタに接続します。
- (2) 電源プラグを、家庭用電源コンセントに差し込みます。
アース線は、必ずコンセントのアース端子に接続してください。



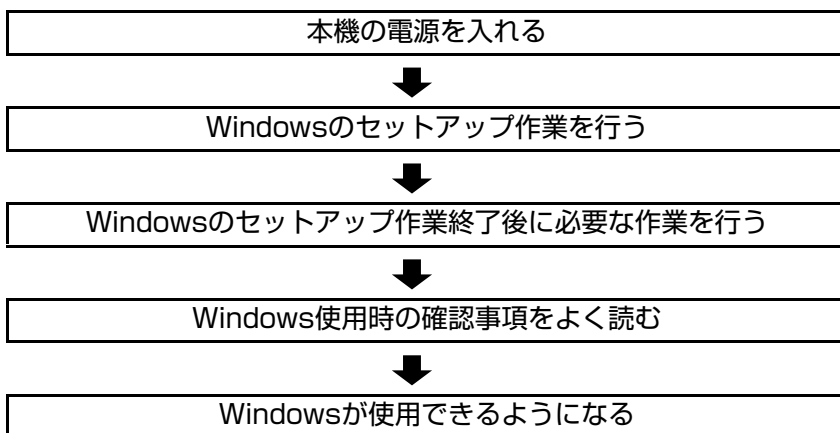
これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機購入後にはじめて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

▶Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。詳細は、p.43 「電源を入れる前に」以降の手順に従って作業を行ってください。



▶電源を入れる前に

Windowsのセットアップ

「Windowsのセットアップ」は、本機が届いてから、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。セットアップは画面に表示されるメッセージに従って簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスを使用して行います。セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

●マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタもマウスを動かした方向に動きます。



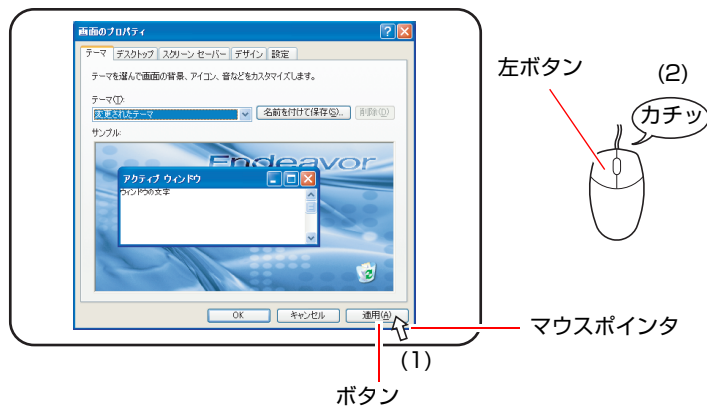
●ボタンをクリックする

(1) マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。

(2) マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押しつけて離します。



この動作を「クリック」と言います。

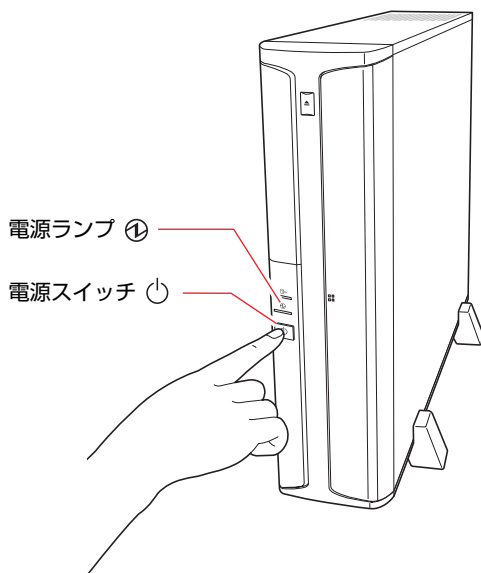
ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



▶電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1 ディスプレイやスピーカなど周辺機器の電源を入れます。
- 2 本機の電源スイッチ（）を押します。
電源ランプ（）が点灯します。



- 3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は、下記の内容を確認してください。

- 電源ランプが点灯しない場合
電源コードが正しく接続されているか確認してください。
- 画面に何も表示されない場合
ディスプレイが正しく接続されているか、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

続けてWindowsのセットアップを行います。

 p.45 「Windowsのセットアップ」

▶Windowsのセットアップ

セットアップ中に入力する項目について

Windowsのセットアップ中に入力する項目の中で、特に注意が必要な項目について記載しています。入力の際に参考にしてください。

● コンピュータ名

「コンピュータ名」は、本機をネットワークに接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

● ネットワークに接続しない場合

セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。

● ネットワークに接続する場合

ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を入力します。

● パスワード (Windows XP Professionalのみ)

本機を個人で使用/管理する場合は、任意のパスワードを設定します（設定しなくても問題はありません）。企業などで、使用者とは別に本機を管理する方がいる場合は、管理者の指示に従って入力します。

このパスワードは、「Administrator」（アカウント）のパスワードです。「Administrator」（アカウント）でログオンする際に、このパスワードを入力しログオンします。

パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

● ユーザー名

ユーザー名は少なくとも1つ入力します。本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザー名をいくつか入力すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で使用することができます。

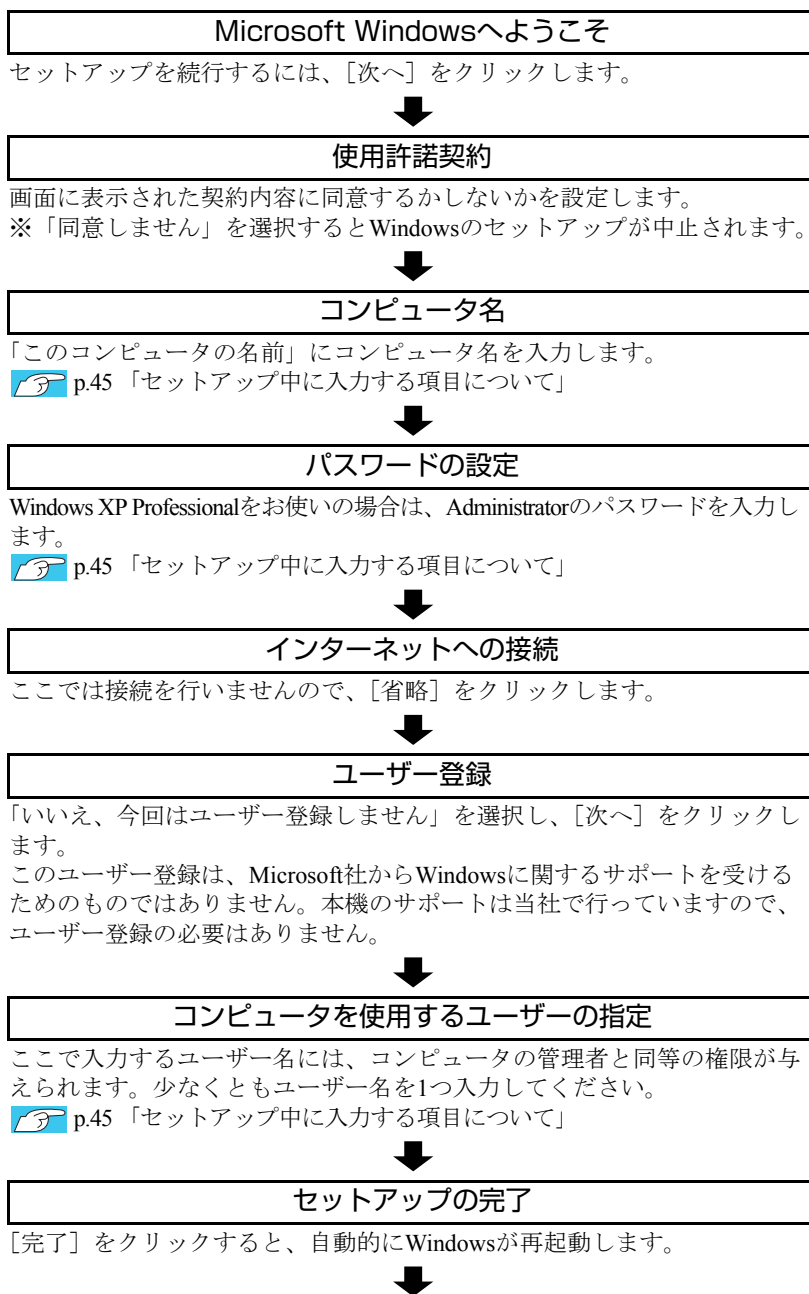


「Administrator」（アカウント）について

「Administrator」（アカウント）とは、すべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウント権限のことです。

Windows XPのセットアップ

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。
セットアップの流れは、次のとおりです。



デスクトップ画面の表示

Windowsが再起動すると、Windowsのデスクトップ画面が表示されます。

セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windowsの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。使用するユーザー名をクリックすると、デスクトップ画面が表示されます。



<壁紙は予告なく変更する場合があります>

これで「Windows XPセットアップ」は終了です。

続けて、p.48 「セットアップ終了後の作業」を行います。

参考

ユーザー登録とライセンス認証（アクティベーション）について

- セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、[スタート] - 「ファイル名を指定して実行」 - 「REGWIZ □/R」（□はスペース）を実行します。ウィザード画面の指示に従ってください。
- 当社より提供されたWindows XP（購入時にコンピュータにインストールされているもの、および「Windows XPリカバリCD」より再インストールを行ったもの）は、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶セットアップ終了後の作業

Windows のセットアップが終了したら、次の作業を行います。

初期設定ツール

Windowsのセットアップが終了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。「初期設定ツール」は、本機を使用する前に必要な設定を行うためのツールです。画面に従って設定を行ってください。

セキュリティソフトウェアのインストール

購入時、本機にセキュリティソフトウェアはインストールされていません。セキュリティソフトウェアは、「初期設定ツール」の「セキュリティ設定」画面の指示に従ってインストールしてください。

<通常の場合>

通常は、本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。インストール方法は、本機に添付の『セキュリティソフトウェアをご使用前に』をご覧ください。

<セキュリティソフトウェアをオプション購入された場合>

本機購入時にオプション選択でセキュリティソフトウェアの製品版を購入された場合は、「セキュリティ設定」画面で製品版を選択してインストールしてください。

セキュリティソフトウェアによっては、「初期設定ツール」からインストールができない場合があります。初期設定ツールの終了後、セキュリティソフトウェアのCDからインストールを行ってください。

ネットワークに接続する

ネットワークへの接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

Windows Updateを行う

はじめてインターネットに接続する場合は、はじめに「Windows Update」を行ってください。「Windows Update」を行うと、本機の状態を診断して、コンピュータウイルスに感染することを防ぐためのプログラムや最新の機能などがインストールされ、Windowsを快適に使用することができるようになります。


購入時、「Windows Update」は定期的に行われるように設定されていますが、はじめてインターネットに接続する場合は、手動で「Windows Update」を行ってください。



p.106 「Windows Update」


Adobe Readerのセットアップ

PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアAdobe Readerのセットアップを行います。セットアップ方法は、次をご覧ください。

 p.187 「Adobe Readerのインストール」－「セットアップ」


マニュアルびゅーわのバックアップ

「マニュアルびゅーわ」とは、本機に添付されているマニュアルやお知らせをコンピュータの画面上で見ることができるソフトウェアです。「マニュアルびゅーわ」は、インフォメーションメニューから起動することができます。

 p.51 「インフォメーションメニューを使う」

「マニュアルびゅーわ」は、Windowsを再インストールすると削除されてしまいます。「マニュアルびゅーわ」のデータは、Cドライブの「お知らせ」フォルダに入っています。あらかじめバックアップを取っておいてください。

バックアップの方法は、次を参照してください。

 p.225 「データのバックアップ」

そのほかの設定

購入時にFAXモデムボードなどを選択している場合は、設定や接続を行います。詳しくは各機器に添付のマニュアルをご覧ください。

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用前に次の事項を確認してください。


Windowsの使用方法は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

▶2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータの電源を入れる際は、次の点に注意してください。

- 電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。

Windowsが省電力モードに移行すると、コンピュータが動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうないように注意してください。

 p.115 「省電力機能を使う」

- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れる。

電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

- 周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。



制限


- メモリカードをセットした状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。電源を入れる際は、メモリカードを取り出した状態で行い、Windows起動後にセットしてください。
- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続した状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB記憶装置を取り外した状態で行い、Windows起動後に接続してください。


▶インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

「インフォメーションメニュー」は、次の方法で起動します。

- キーボードのInformationキー () を押す。

 p.58 「キーボードを使う」

- デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックする。




「インフォメーションメニュー」が起動すると次の画面が表示されます。



マニュアルびゅうわをご使用前に

はじめて「マニュアルびゅうわ」を起動する場合は、起動前に「Adobe Reader」のセットアップを行ってください。

 p.187 「Adobe Readerのインストール」－「セットアップ」


インフォメーションメニューの項目

「インフォメーションメニュー」の各項目の内容は次のとおりです。

- マニュアルびゅうわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブの取扱説明書、本機に添付されているソフトウェアのPDFマニュアルなどを画面上で見ることができます。

「マニュアルびゅうわ」は、Windowsを再インストールすると削除されてしまいます。Windowsの再インストールを行う際は、必ずマニュアルびゅうわのバックアップを行ってください。

 p.225 「データのバックアップ」



「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとする時、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう・・・」と警告が表示される場合があります。

この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

- PCお役立ち情報

コンピュータに関するちょっと便利で役立つ情報を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

- とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

 p.194 「トラブルが発生したら」

- ユーザーサポートページ (Web)

技術的な情報やトラブルの解決方法、保証サービスなどについてご案内しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。

「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

- サポート情報検索 (Web)

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。「とらぶる解決ナビ」で本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。

「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。


- トラブルが解決しなかったら

技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先、メールサポートの方法などを掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。

▶ 復元ポイントを作成する

「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくことで、本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」機能を使用して、作成しておいた「復元ポイント」までシステムの状態を戻すことができます。


「復元ポイント」は通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。「復元ポイント」の作成方法は次をご覧ください。

 p.220 「復元ポイントを手動で作成する」

▶ セキュリティ対策を行う

コンピュータを外部と接続することで高まる危険から、コンピュータを守るための設定や確認を行います。

インターネットなどに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。

 p.106 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」


▶ 音量の調節

スピーカを接続していて、Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合には、音量を調節します。

 p.99 「音量の調節」

▶ 画面が消えたときは (省電力機能)

本機は、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています (購入時の設定)。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。

 p.120 「省電力モードから復帰する」

▶Windows CD-ROMを要求されたときは

本体ドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、添付の「Windows XPリカバリCD」をセットしてください。

▶コントロールパネルの表示

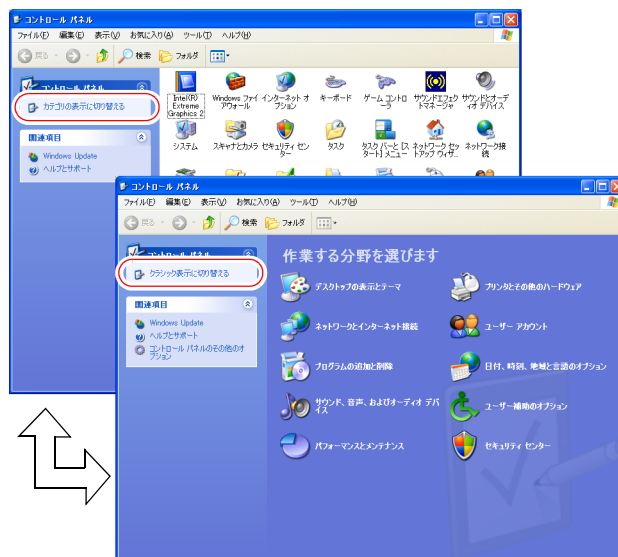
コントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

- 「カテゴリの表示」：項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。
- 「クラシック表示」：項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリの表示に切り替える」をクリックして行います。

本書では、「カテゴリの表示」形式を前提に記載しています。

<クラシック表示>



<カテゴリの表示>

電源の切り方

ここでは、電源の切り方について説明します。



- 電源を切って、もう一度入れなおす場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- HDDなどのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、登録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

1

▶ Windowsの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsを終了させてから電源を切ります。
基本的なWindowsの終了方法と電源を切る手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - [終了オプション] をクリックします。
- 2 「コンピュータの電源を切る」画面で [電源を切る] をクリックします。
Windowsが終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 3 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を切ります。

キーボードで電源を切る

106 PS/2コンパクトキーボードをお使いの場合、キーボードを操作してWindowsを終了させることもできます。

- 1 キーボード上のPowerキー (⏻) を押します。
Windowsが終了し、自動的に本機の電源が切れます。
- 2 ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows終了時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、[いいえ] をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってから、電源を切ってください。

▶再起動

電源が入っている状態で、Windowsを起動しなおすことを「再起動」といいます。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は、次のとおりです。

【スタート】 - 【終了オプション】 - 【再起動】をクリック

次のような場合には、Windowsを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから再度電源を入れなおしてみてください。

▶ハングアップしたときは

アプリケーションやWindowsがキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態をハングアップといいます。

ハングアップした場合は、強制終了を行います。強制終了の方法は、アプリケーションの場合とWindowsの場合で異なります。

アプリケーションの強制終了

アプリケーションの強制終了は、次の手順で行います。

- 1 **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押し、「Windows タスクマネージャ」を起動します。
- 2 「アプリケーション」タブからハングアップしているアプリケーションを選択して【タスクの終了】をクリックします。
- 3 「プログラムの終了」画面が表示されたら、【すぐに終了】をクリックします。

Windowsの強制終了

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しでも反応がない場合は、Windowsを強制終了します。

本機の電源スイッチを押す

本機の電源が切れないときは...



本機の電源スイッチを5秒以上押し続ける

これで本機の電源が切れます。

第2章 コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使い方など、本機の基本
的な操作方法について説明します。

「キーボードを使う」	58
「マウスを使う」	63
「HDDを使う」	65
「RAID機能」	68
「光ディスク（CD/DVD）ドライブを使う」	77
「マルチカードリーダーを使う」	85
「USB機器を使う」	91
「画面表示機能を使う」	93
「サウンド機能を使う」	96
「ネットワーク機能を使う」	101
「インターネットに接続するには」	103
「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」	106
「インターネットや電子メールを利用する」	109
「省電力機能を使う」	115
「その他の機能」	121

キーボードを使う

ここでは、12個のホットキーを搭載した日本語対応106 PS/2 コンパクトキーボードを例に、キーボードの基本的な使い方を説明します。

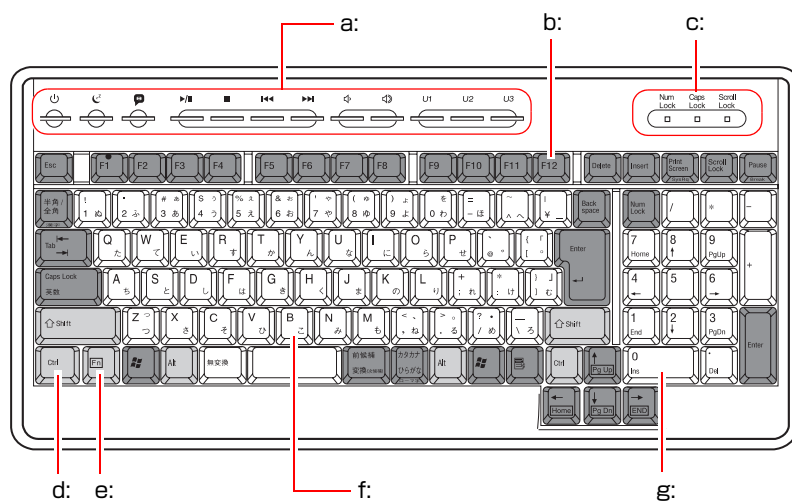
キーボードの接続方法は、p.32 「コンピュータの設置」をご覧ください。

このほかのキーボードを選択され、別冊でキーボードのマニュアルが添付されている場合は、本書と合わせて別冊のマニュアルで使用方法などをご確認ください。


▶キーの種類と役割

それぞれのキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。

入力キー




a: ホットキー

 p.61 「ホットキーを使用する」

b: 機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。具体的な働きなどについては、使用するソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

c: キーロック表示ランプ


 p.60 「キーロック表示ランプ」

d: 制御キー

文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

e: Fnキー

制御キーの1つです。


 p.60 「Fnキーと組み合わせて使うキー」

f: 文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

g: 数値キー

数字、演算子などを入力します。


 の状態によりキーの機能が変わります。

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。入力モードによって入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え

を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード

入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ

MS-IMEの詳細な説明を見ることができます。

c: かなキーロック

日本語入力モードの切り替えを行います。








ボタンが押されていない状態：ローマ字入力

ボタンが押されている状態：かな入力


MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。













▶キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの太文字/小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

▶Fnキーと組み合わせて使うキー

次のキーは、 と組み合わせると、次のように使用することができます。













 + 	 (Page Up) の役割をします。
 + 	 (ページの先頭へ移動) の役割をします。
 + 	 (Page Down) の役割をします。
 + 	 (ページの最後へ移動) の役割をします。

▶ホットキーを使用する

各ホットキーには、Windowsの終了、インフォメーションメニューの起動などの機能が割り当てられており、ホットキーを押すだけで、割り当てられた機能を実行することができます。

ホットキーの機能

各ホットキーに割り当てられた機能は、次のとおりです。

ホットキー	機能
Powerキー 	Windowsの起動/終了を行います。スタンバイ状態で押すと、スタンバイから復帰します。
Sleepキー 	本機がスタンバイモードに入ります。  p.115 「省電力機能を使う」
Informationキー 	インフォメーションメニューが起動します。  p.51 「インフォメーションメニューを使う」
Play/Pauseキー 	光ディスクの停止中に押すと再生、再生中に押すと一時停止になります。
Stopキー 	光ディスクの再生中に押すと、再生を停止します。
Previous Trackキー 	前のトラックへ戻ります。
Next Trackキー 	次のトラックへ進みます。
Volume Downキー 	音量を小さくします。
Volume Upキー 	音量を大きくします。
U1キー	割り当てたアプリケーションを起動します。  p.61 「ホットキー (U1、U2、U3) の設定」
U2キー	
U3キー	

ホットキー (U1、U2、U3) の設定

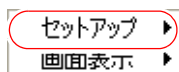
ホットキーのU1、U2、U3キーには、Internet ExplorerやOutlook Expressなど、起動したいアプリケーションを割り当てることができます。

ここでは、Internet Explorerを例にして、起動したいアプリケーションの割り当て方法を説明します。

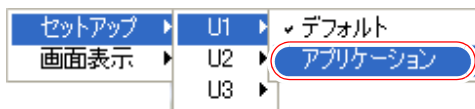
- 1 タスクバーの「キーボードユーティリティ」アイコンを右クリックします。



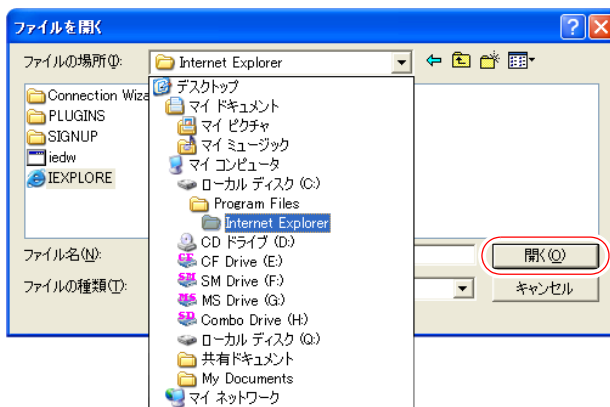
- 2 画面中央に表示されたメニューから「セットアップ」を選択します。



- 3 「セットアップ」のサブメニューから、割り当てるホットキーを選択し、「アプリケーション」をクリックします。





- 4 「ファイルを開く」画面が表示されたら、Internet Explorerを選択し、「開く」をクリックします。



これでInternet Explorerの割り当ては完了です。割り当てたホットキーを押すと、Internet Explorerが起動します。
そのほかのアプリケーションの場合も同様に割り当てることができます。

▶ Windowsキーとアプリケーションキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

キー	機能
 (Windowsキー)	画面左下の [スタート] をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。(ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。)

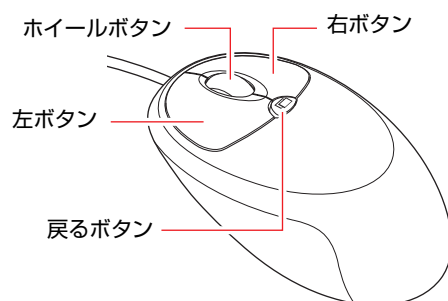
マウスを使う

ここでは、ホイール付USBオプティカルマウスを例に、マウスの基本的な使い方を説明します。

マウスの接続方法は、p.32 「コンピュータの設置」をご覧ください。

このほかのマウスを選択され、別冊でマウスのマニュアルが添付されている場合は、別冊のマニュアルで使用方法をご確認ください。

▶マウスの操作



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

操作名	操作方法と用途
クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。メニューの選択や選択したボタン操作の実行ができます。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。プログラムを起動したり、ファイルやフォルダを開いたりできます。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。操作可能なメニューの表示ができます。
ドラッグ・アンド・ドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。ファイルやフォルダの場所を移動することができます。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かします。ページを上下に移動する縦スクロールができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かした方向にページを移動するオートスクロールもできます。
戻る	戻るボタンを押すと、Internet Explorerやエクスプローラなどで「戻る」の操作を行うことができます。



- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッド上で使用しないでください。マウスの動きがコンピュータに伝わりません。
- アプリケーションソフトによっては、ホイールボタン、戻るボタンが使用できない場合があります。

▶マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとその他のハードウェア」 - 「マウス」をクリックし、「マウスのプロパティ」で設定変更します。詳しくは、ヘルプをご覧ください。

HDDを使う

HDD（ハードディスクドライブ）は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

本機には、Serial ATA（以降S-ATA）仕様のHDDが内蔵されています。




- 誤った操作で重要なデータが破損しないように次の点に注意してください。
 - ・ HDDを分解しないでください。
 - ・ HDD アクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDDに保存されているデータが破損するおそれがあります。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破損するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- 本機ではUltra ATA仕様のHDDは使用できません。

2

▶データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、光ディスクメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップの方法は、次の場所で紹介しています。

 p.225 「データのバックアップ」

▶購入時のHDD領域について

購入時のHDD領域は、お客様の選択により、次のようになっています。

<通常>

HDDの台数	ドライブ	領域の容量
1台	Cドライブ	1台すべて
2台	Cドライブ	1台目すべて
	Dドライブ	2台目すべて
2台 (RAIDモデル)	Cドライブ	RAID内すべて

<HDD設定変更サービスを選択した場合>

HDDの台数		ドライブ	領域の容量
1台		Cドライブ	購入時に選択された容量
		Dドライブ	残り
2台	1台目	Cドライブ	購入時に選択された容量
		Dドライブ	残り
	2台目	Eドライブ	すべて
2台 (RAIDモデル)	RAID内	Cドライブ	購入時に選択された容量
		Dドライブ	残り

すべてのドライブはNTFSファイルシステムでフォーマットされています。



参考

HDD設定変更サービス

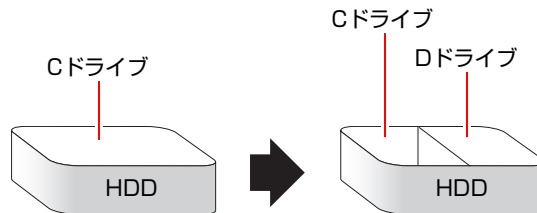
HDD設定変更サービスとは、1台目のHDD領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態で本機をお届けするサービスのことです。

▶HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつかに分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

<1台のHDDを分割する>


例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。



Cドライブを分割する場合は、Windowsの再インストールが必要です。詳しくは、p.230 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

▶HDDのフォーマット

HDDを増設・交換するなどして初めて使用する場合には、そのHDDの領域作成とフォーマットが必要です。また、HDDに登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットを行います。

 p.233 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

購入時に内蔵されているHDDは、フォーマットの必要はありません。また、RAIDを構成する場合も、増設・交換したHDDのフォーマットは不要です。



すでにデータが登録されているHDDをフォーマットすると、そのHDDに登録されていたすべてのデータが消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

RAID機能

本機ではRAID機能を使用することができます。RAIDとは、複数のHDDを組み合わせて使用するシステムのことです。

ここでは、RAIDの種類やRAIDの構成・削除方法などについて説明します。本機購入時にRAIDモデルを選択された場合は、搭載のHDDであらかじめRAIDが構成されています。

RAIDの種類

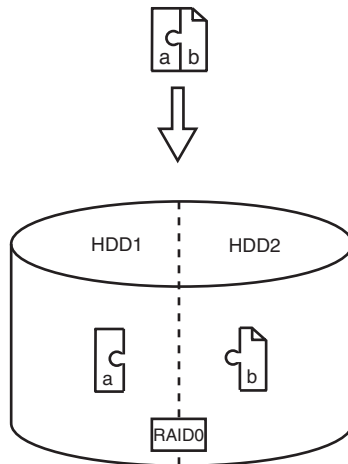
本機で使用できるRAIDは、RAID0、RAID1の2種類です。

種類	別名	HDD 必要台数	特徴
RAID0	ストライピング	2台	2台のHDDを1つに結合して使用。大容量のデータを高速に書き込んだり、読み込んだりすることができる。
RAID1	ミラーリング	2台	一方のHDDに書き込んだデータがもう一方のHDDにも書き込まれる。一方のHDDが破損しても、もう一方のHDDからデータを復旧することができる。

RAID0 (ストライピング)

RAID0は、複数のHDDを1つに結合し、高速かつ大容量な1台のHDDとして使用するシステムです。ストライピングともいいます。

たとえば500GBのHDD2台でRAID0を作成すると、500GBのHDD2台を約1TB(1000GB)のHDD1台として使用することができます。このHDDにデータを書き込むと、データは2台のHDDに分散して書き込まれます。そのため、容量の大きいデータでも高速に書き込みが可能です。



HDD1とHDD2にデータを分散して記録する

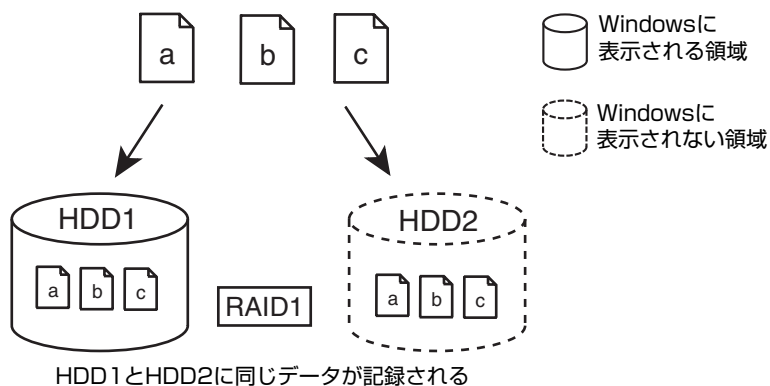
HDDが破損した場合

RAID0では、結合したHDDのうちどれか1台が破損すると、そのほかのHDDに保存されているデータも破損してしまい、データの復旧は不可能となります。万一の場合に備え、HDDのデータは光ディスクメディアなどのほかのメディアに定期的にバックアップしておくことをおすすめします。

RAID1 (ミラーリング)

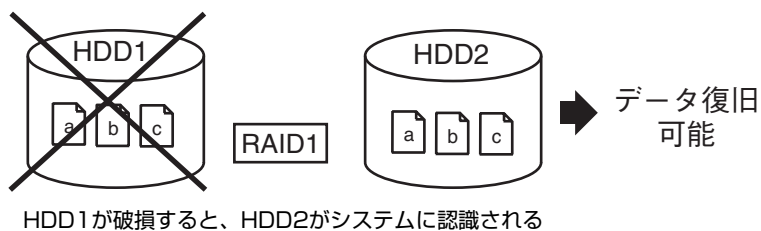
RAID1は、2台のHDDを使用します。片方のHDD (HDD1) にデータを書き込むと、同時にもう片方のHDD (HDD2) にも同じデータが書き込まれるシステムです。ミラーリングともいいます。

データが2台のHDDに保存されるため、片方のHDDが破損しても、もう片方のHDDからデータを復旧することができます。RAID1では2台のHDDのうち1台 (HDD1) だけがWindowsに表示されます。



HDDが破損した場合

RAID1では、Windowsに表示されているHDDが破損すると、Windowsで表示されていなかったもう1台のHDDが自動的にWindowsに表示され、データを復旧することができます。



HDD2が破損した場合は、HDD1のみにデータが書き込まれることになります。2台のHDDが同時に破損しないかぎり、データの復旧は可能です。

▶RAIDの構成・削除

RAIDの構成・削除方法を説明します。

RAIDの構成や削除は、「RAID Configuration Utility」を使用して行います。




制限

RAID を構成・削除すると、HDD に登録されているデータはすべて消失します。RAID を構成・削除する前に、重要なデータはバックアップしてください。

BIOSの設定

RAIDを構成する場合は、BIOSの設定値を次のように変更してください。

「Main」メニュー画面－「SATA Configuration」－「Configure SATA as」を「RAID」に設定する。

 p.166 「Mainメニュー画面」－「SATA Configuration」

RAIDモデルの場合は、購入時にあらかじめ「RAID」に設定されています。

RAID Configuration Utilityの起動と終了

「RAID Configuration Utility」はメインボード上にROMとして搭載されています。

「RAID Configuration Utility」の起動、終了方法は次のとおりです。

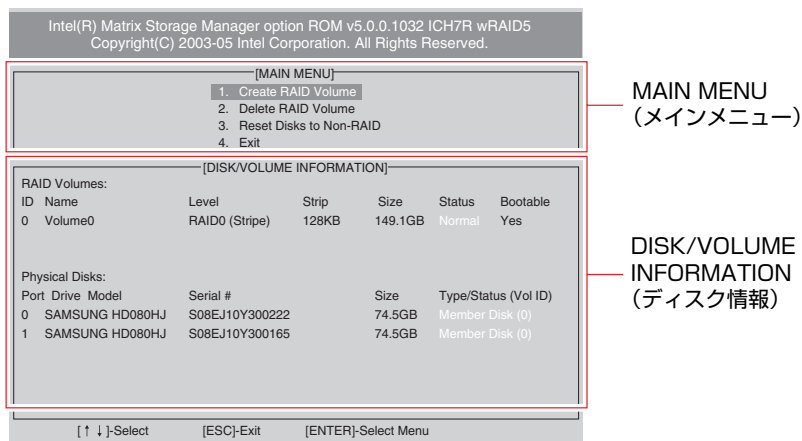
起動

- 1 キーボードの **Tab**、**Ctrl**、**I** の位置を確認します。
手順3では **Tab** を、手順4では **Ctrl** + **I** を、すばやく押す必要があります。
- 2 本機の電源を入れます。すでに電源が入っている場合は、再起動します。
- 3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐに **Tab** を押します。
Windowsが起動した場合は、再起動してやりなおしてください。

- 4** 黒い画面の中央に、「Press <CTRL-I> to enter Configuration…」と表示されたら、すぐに **Ctrl** + **I** を押します。

「RAID Configuration Utility」が起動します。

Windowsが起動した場合は、再起動して手順3からやりなおしてください。



<画面はイメージです>

- 5** 必要に応じて、RAIDの状態を確認したり、RAIDの構成や削除を行います。

項目の移動は **↑** **↓** で行います。

p.72 「RAIDを構成する」

p.74 「RAIDを削除する」

終了

- 1** 「MAIN MENU」項目で「4.Exit」を選択し、**←**を押します。

項目の移動は **↑** **↓** で行います。

- 2** 次の確認メッセージが表示されたら、**Y**を押します。

Are you sure you want to exit ? (Y/N)

「RAID Configuration Utility」が終了します。

RAIDを構成する

本機で構成できるRAIDはRAID0、RAID1です。

RAIDを構成する手順は、次のとおりです。



RAID を構成すると、HDD に登録されているデータはすべて消失します。RAID を構成する前に、重要なデータはバックアップしてください。

- 1** 「RAID Configuration Utility」を起動します。

p.71 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」

- 2 「MAIN MENU」項目で「1.Create RAID Volume」を選択し、を押します。
- 3 「CREATE VOLUME MENU」画面が表示されたら、[Name] に任意の名前を入力し、を押します。
入力した名前は「BIOS Setupユーティリティ」で表示されます。
RAIDの名前を変更しない場合は、そのままを押します。
- 4 「RAID Level」で「RAID0 (Stripe)」、 「RAID1 (Mirror)」のいずれかを選択し、を押します。
- 5 「Strip Size」でを押します。
RAIDの種類によっては、この手順はありません。
- 6 「Capacity」でを押します。
- 7 「Create Volume」が選択されている状態でを押します。
- 8 次の確認メッセージが表示されたら、を押します。
Are you sure you want to create this volume? (Y/N)
RAIDが構成され、「MAIN MENU」画面が表示されます。構成したRAIDの情報を「DISK/VOLUME INFORMATION」で確認することができます。
- 9 「RAID Configuration Utility」を終了します。
 p.71 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」
- 10  +  + を押して再起動し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
 p.158 「操作方法」
- 11 「BIOS Setup ユーティリティ」が表示されたら、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で、「Boot Device」の1つが「RAID: Intel XXXX*」になっていることを確認します。
* XXXXは、手順3で設定した名前です。
- 12 を押し、「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」で「Ok」を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
これでRAIDの構成は完了です。
続けてWindowsのインストール、または、HDD領域の作成を行います。
 p.182 「Windowsのインストール」
 p.233 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」


RAIDを削除する

RAIDを構成しないうちの場合や、RAID機能を使用しない場合は、RAIDを削除します。

RAIDを削除する手順は、次のとおりです。




RAIDを削除すると、HDDに登録されているデータはすべて消失します。RAIDを削除する前に、重要なデータはバックアップしてください。

- 1 「RAID Configuration Utility」を起動します。
 p.71 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」
- 2 「MAIN MENU」項目で「2.Delete RAID Volume」を選択し、 を押します。
- 3 「DELETE VOLUME MENU」画面で、削除したいRAIDを選択し、 を押します。
- 4 次の確認メッセージが表示されたら、 を押します。
Are you sure you want to delete volume "XXXX" ? (Y/N)
RAIDが削除され、「MAIN MENU」画面が表示されます。「DISK/VOLUME INFORMATION」の「RAID Volumes:」でRAIDが削除されたことを確認します。
- 5 「RAID Configuration Utility」を終了します。
 p.71 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」
これで、RAIDの削除は終了です。

RAIDの削除後、RAID機能を使用しない場合は、BIOSの設定値を次のように変更してください。

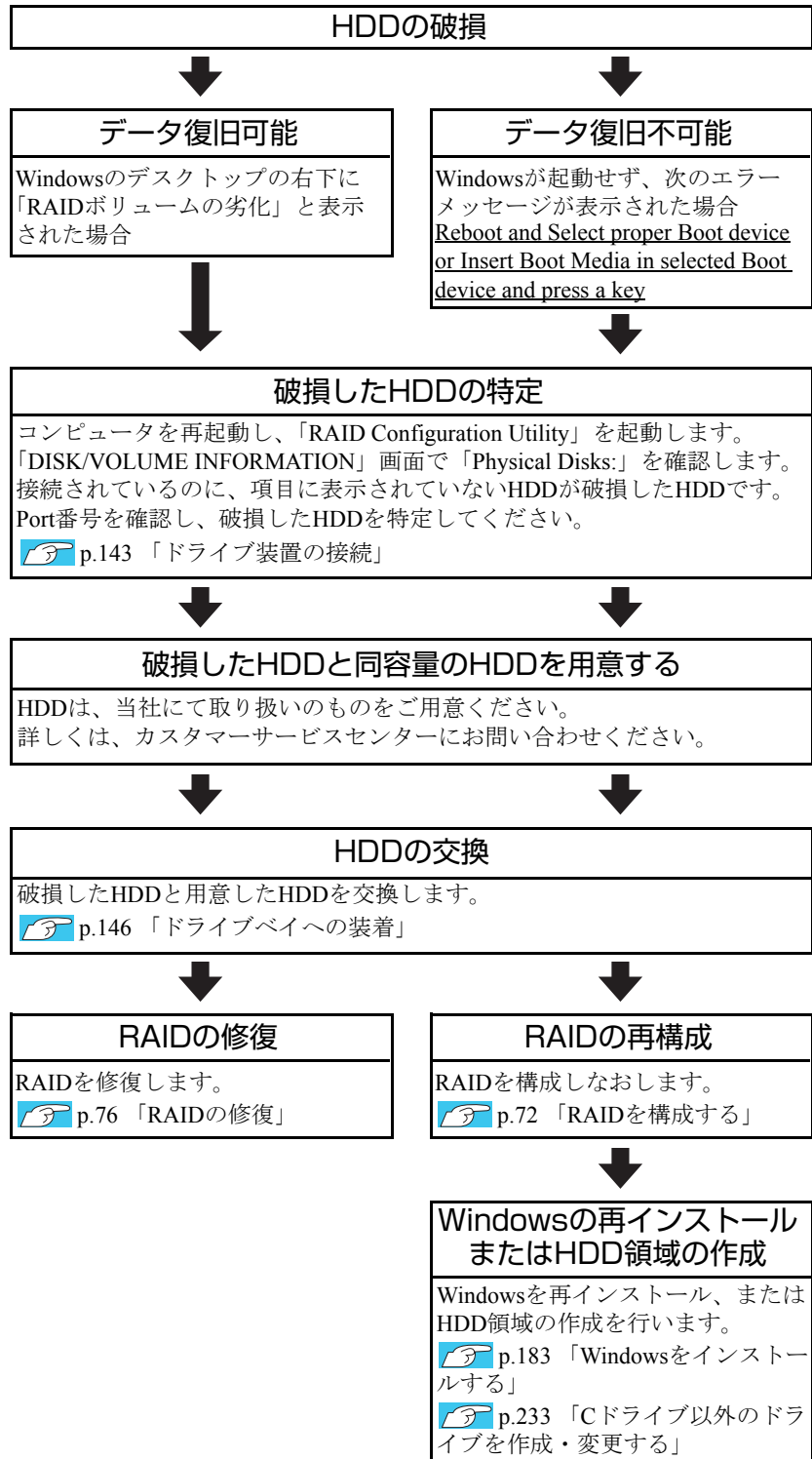
「Main」メニュー画面－「SATA Configuration」－「Configure SATA as」を「Standard IDE」に設定する。

 p.166 「Mainメニュー画面」－「SATA Configuration」

▶HDDが破損したら（RAID使用時）




RAID機能使用時にHDDが破損した場合は、データの復旧状態によってRAIDの修復、または再構成が必要です。

次の流れに従って、RAIDを修復、または再構成してください。



RAIDの修復

RAIDの修復は、「RAID Configuration Utility」で行います。RAIDの修復方法は、次のとおりです。

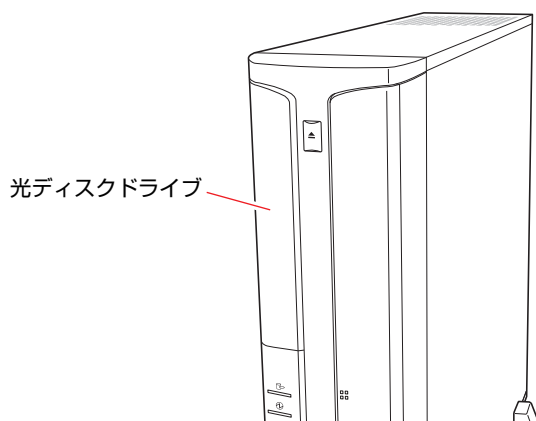
- 1** 「RAID Configuration Utility」を起動します。
 p.71 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」
- 2** 「DEGRADED VOLUME DETECTED」画面が表示されたら、新しく接続したHDDを選択し、を押します。
- 3** 「DISK/VOLUME INFORMATION」項目で、「RAID Volumes :」の「Status」項目が「Rebuild」になっていることを確認します。
- 4** 「RAID Configuration Utility」を終了します。
 p.71 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」

これでRAIDの修復は完了です。Windowsが起動すると、画面右下に「RAIDボリュームの復元」と表示されます。

光ディスク (CD/DVD) ドライブを使う

光ディスクドライブは、光ディスクメディアを再生したり、光ディスクメディアに書き込みを行ったりするための機器です。購入時に選択された光ディスクドライブにより、機能や使用できるメディアは異なります。

ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



注意

- 光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れないでください。はさまれると、けがの原因になります。
- 光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。




制限

本機では、CD (コンパクトディスク) の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクについては、動作保証していません。本機にて動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶使用可能な光ディスクメディア

選択された光ディスクドライブで使用できるメディアは、次のマニュアルでご確認ください。

 「マニュアルびゅうわ」 - 『光ディスクドライブ取扱説明書』

各光ディスクメディアの簡単な説明は、「用語集」をご覧ください。

 p.246 「用語集」

▶光ディスクメディアのセットと取り出し

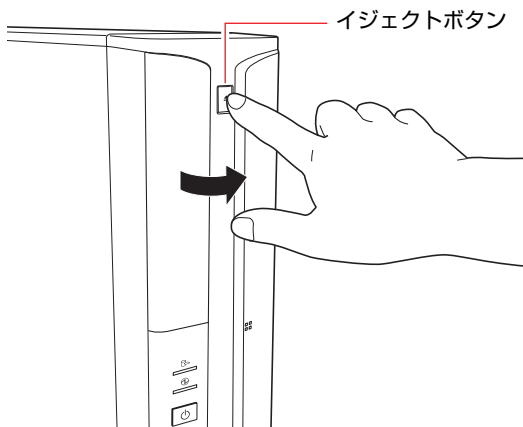
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。



- 光ディスクドライブアクセスランプ点灯中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機を縦置きで使用している場合、8cmのメディアは使用できません。また、縦置き横置きに関係なく、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

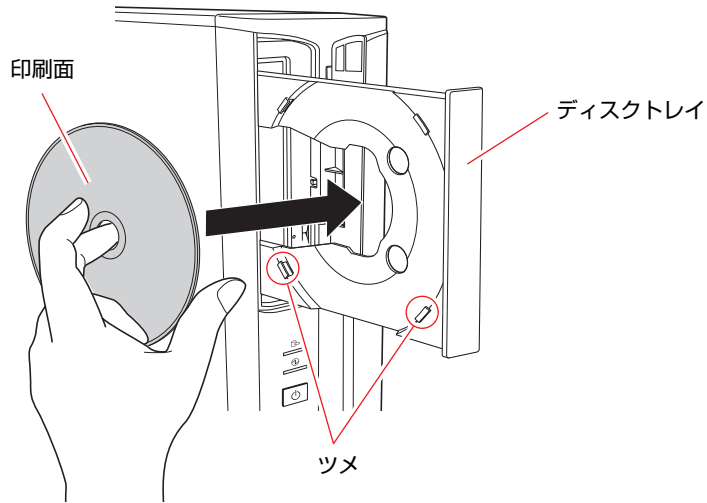
セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2** メディアの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにある落下防止用のツメ（下側2箇所）にセットします。

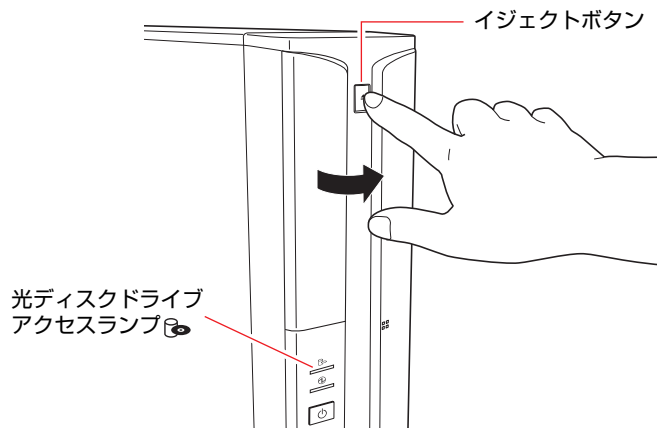
本機が横置きの場合は、メディアの印刷面を上側に向けてセットします。



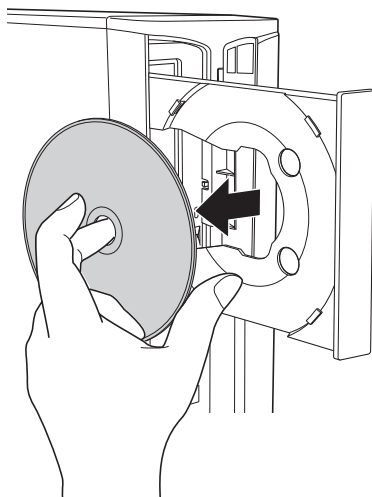
- 3** ディスクトレイを閉じるには、イジェクトボタンを押すか、ディスクトレイを軽く押します。

取り出し方法

- 1** アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2 メディアをディスクトレイから取り出します。



3 ディスクトレイを閉じるには、イジェクトボタンを押すか、ディスクトレイを軽く押します。



イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

セットした光ディスクメディアをソフトウェアで使用した場合、ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。



参考

メディアの再生

本機に装着されている光ディスクドライブは、メディアの認識に時間がかかることがあります。不具合ではありません。

また、メディアの種類によっては、再生中に振動することがありますが、故障ではありません。

▶DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが登録されたDVDメディアを読み込めるほかに、ビデオ編集ソフトで作成したDVDなどの再生ができます。再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

本機には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェア「WinDVD」がインストールされています。WinDVDの詳細な使用方法は、次のマニュアルをご覧ください。



「マニュアルびゅーわ」 - 『WinDVDユーザーズマニュアル』

DVD VIDEO再生時の不具合

「WinDVD」でDVD VIDEOの再生をする場合、解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。

DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。




p.94 「解像度や表示色を変更するには」



p.95 「リフレッシュレートの設定」

▶光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。書き込み可能なメディアは、選択された光ディスクドライブにより異なります。お使いの光ディスクドライブで書き込み可能なメディアについては、次のマニュアルをご覧ください。


 「マニュアルびゅーわ」 – 『光ディスクドライブ取扱説明書』



作成した DVD VIDEO は、市販の DVD プレイヤーで再生できますが、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。


 p.83 「Nero 7 Essentialsの使い方」

書き込み時の注意

- 省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.118 「時間経過で移行させない」

- 速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、光ディスクドライブのPDFマニュアルで確認できます。

▶ Nero 7 Essentialsの使い方

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

使い方

Nero 7 Essentialsの起動方法は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の次のアイコンをダブルクリックします。



- 2 Nero 7 Essentials画面が表示されます。



Nero 7 Essentialsの詳しい使い方は、「マニュアルびゅーわ」に登録されている『Nero ユーザーガイド』をご覧ください。

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。

パケットライトでメディアに書き込むには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。

「InCD」の詳しい使い方は、「マニュアルびゅう」に登録されている『InCD ユーザーマニュアル』をご覧ください。



制限

- 「InCD」で使用できる光ディスクメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- 「InCD」でフォーマットしたメディアは「Nero 7 Essentials」で書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。

有償アップデートについて

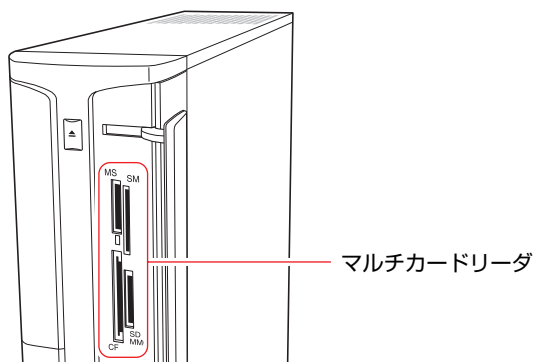
本機にインストールされている「Nero 7 Essentials」は、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップの「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。



Neroオンライン
アップグレード

マルチカードリーダーを使う

本機前面のフロントドアを開くと、マルチカードリーダーが装備されています。本機のマルチカードリーダーでは、5種類のメモリーカードを使用することができます。

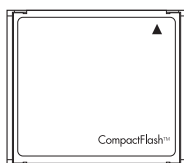


2

▶使用可能なメモリーカード

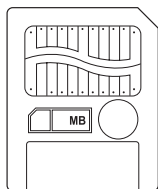
本機で使用できるメモリーカードは次の5種類です。イラストはイメージです。

- コンパクトフラッシュ (Compact Flash)



モデム、LAN、PHS カードなどのI/Oカードは使用できません。

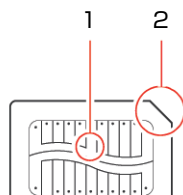
- スマートメディア (Smart Media)



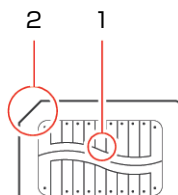
3.3Vタイプ (3Vと表示されているのも可) のみサポートしています。5Vタイプのカードは使用できません。

使用できるスマートメディアの見分け方

- 1 端子の様様に、一部切れているところがある。
- 2 切り欠きが右にある。



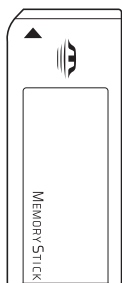
<使用できるメディア>



<使用不可の5Vタイプ>

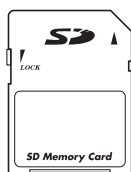
- スマートメディアの端子部が汚れていると、読み取りエラーが発生する原因になります。端子部を指で触れたりしないようにしてください。
- ID付きのスマートメディアも使用できますが、ID機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- ROMカードには対応していません。

●メモリースティック (Memory Stick)



- マジックゲート付きのカード (白色) も使用できますが、マジックゲート機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- メモリ以外のI/Oカード (GPS用など) は使用できません。

●SDメモリーカード (SD Memory Card)



- Secure Digital 機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- SD I/OカードおよびSD Comboカードは使用できません。
- SDHCメモリーカードは使用できません。

- マルチメディアカード (Multi Media Card)




- Keitaide-Music対応カードも使用できますが、Keitaide-Music機能 (UDAC-MBプロトコル) には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- マルチメディアカードは、読み取り速度や書き込み速度が、ほかのカードに比べて遅くなります。これはカードの規格による制限です。

▶マルチカードリーダ使用時の注意

マルチカードリーダを使用する場合は、次の点に注意して正しく使用してください。

- マルチカードリーダアクセスランプ点滅中にメモリカードを取り出したり、コンピュータ本体の電源を切ったり、再起動したりしないでください。メモリカード内のデータが破損する恐れがあります。
コンピュータの電源を切る場合やコンピュータを再起動する場合は、必ずメモリカードを取り出してから行ってください。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- データをメモリカードに書き込み途中で、コンピュータが省電力モードに移行するなどして電源の供給が停止すると、メモリカードに不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力機能を無効に設定してください。

 p.118 「時間経過で移行させない」

メモ리카ードのフォーマット

メモ리카ードのフォーマットは必ず、メモ리카ードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモ리카ードが認識されなくなる場合があります。

フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

▶メモ리카ードのセットと取り出し

メモ리카ードのセットと取り出し方法、割り当てられるドライブについて説明します。

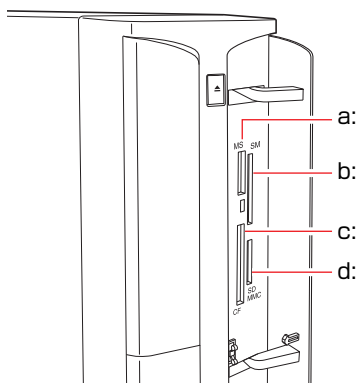


- 本機にメモ리카ードをセットした状態で電源を入れたり、再起動したりすると、Windows が起動しないことがあります。メモ리카ードはWindows 起動後にセットしてください。
- Windows が起動した状態でのメモ리카ードの取り出しは、「マイコンピュータ」から行ってください。タスクトレイの「取り外し」アイコンから停止処理を行うと、Windowsを再起動するまでマルチカードリーダーが認識されなくなります。

セット方法

メモ리카ードのセット方法は次のとおりです。

1 使用するメモ리카ードのスロット位置を確認します。

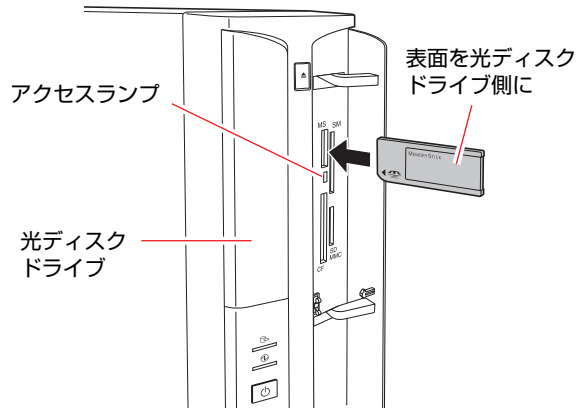


- a: メモリースティックスロット MS
- b: スマートメディアスロット SM
- c: コンパクトフラッシュスロット CF
- d: SDカードスロット ^{SD}/_{MMC}
SDメモリーカードとマルチメディア
カード用スロットです。

2 メモリカードの表面を光ディスクドライブ側に向け、対応するスロットにカードが止まるまで押し込みます。

メモリカードの表面は、p.85 「使用可能なメモリカード」で確認してください。

正しくセットされるとアクセスランプが点灯します。



メモリカードによっては、正しくセットされていてもスロットから数cm出たままのものもあります。

各スロットのドライブ割り当て

各スロットには、次のドライブが割り当てられます。(光ディスクドライブがDドライブの場合)

スロット	メモリカード	ドライブ
a	メモリースティック	Gドライブ
b	スマートメディア	Fドライブ
c	コンパクトフラッシュ	Eドライブ
d	SDメモリーカード	Hドライブ
d	マルチメディアカード	Hドライブ

「マイコンピュータ」には、次のように表示されます。

リムーバブル記憶域があるデバイス



DVD-RAM ドライブ (D)



CF Drive (E)



SM Drive (F)



MS Drive (G)

メモリカードをセットするとアイコンに色が付きます。

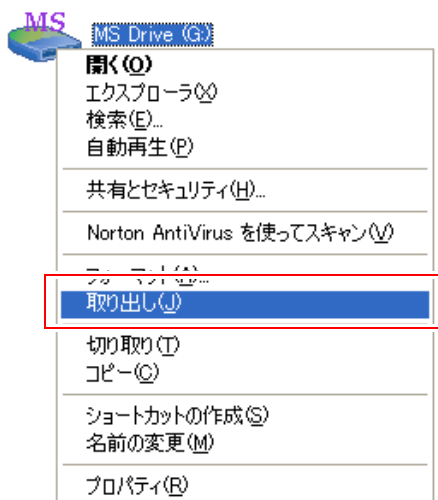


SD Drive (H)

取り出し方法

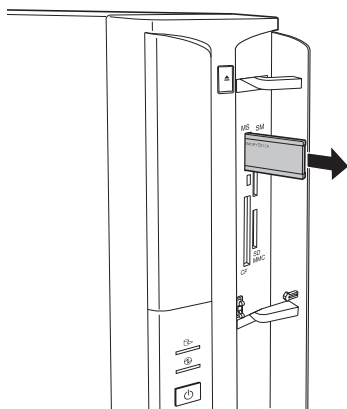
メモ리카ードの取り出し方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「メモ리카ードアイコン (リムーバブルディスク)」を右クリックし、「取り出し」をクリックします。



取り出し処理が完了すると、アイコンの色が消えます。

- 2 アイコンの色が消えたことを確認し、メモ리카ードを引き抜きます。



USB機器を使う

本機には、USB2.0に対応したUSBコネクタが、前面に2個、背面に4個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。6個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。

USB2.0の転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

▶USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

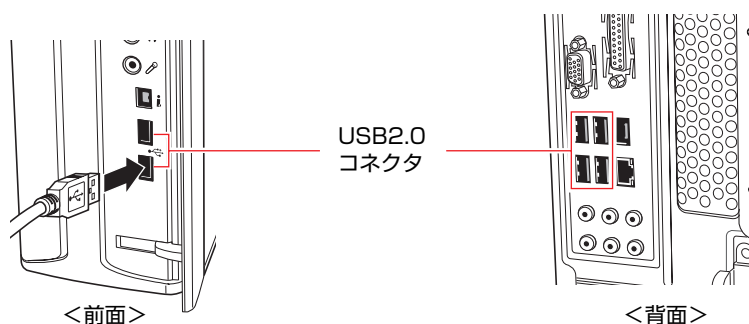


USB フラッシュメモリや USB HDD などの USB 記憶装置を接続した状態で本機の電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。USB 記憶装置は、Windows 起動後に接続してください。

接続

USB機器は、次のように接続します。

- 1 USB機器のUSBコネクタを、本機のUSB2.0コネクタに接続します。



取り外し

USB機器の取り外しは、一般的に次の2つの方法で行います。

- Windows上でUSB機器終了処理をした後に取り外す。
- 本機の電源を切った後に取り外す。

USB機器終了処理は、次の手順で行います。

1 タスクトレイの「取り外し」アイコンをクリックします。



<取り外しアイコン>

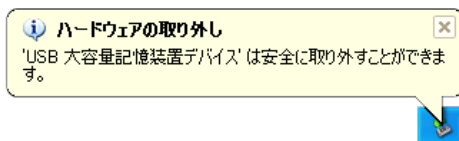
2 表示されるメニューから、取り外したいUSB機器のデバイス名をクリックします。

USB機器のデバイス名が表示されない場合、この方法での取り外しはできません。



本機では、誤ってマルチカードリーダーを停止させないように注意してください。マルチカードリーダーを停止させた場合、本機を再起動しないとマルチカードリーダーが使用できません。

3 次のメッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。



画面表示機能を使う

本機のメインボード上には画面表示機能が搭載されています。


ここでは、メインボード上の画面表示機能に関する各種設定方法について説明します。

オプションでADD2ボードやビデオボードを購入された場合は、ボードに添付のマニュアルをご覧ください。



セーフモードでの起動

接続しているディスプレイの設定が正しくない場合や、本機のディスプレイ機能では表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで再起動して再設定を行ってください。

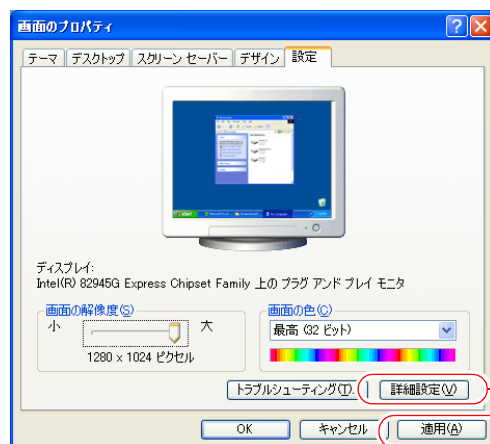
 p.219 「セーフモードでの起動」

2

▶表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は「画面のプロパティ」の「設定」タブで行います。「画面のプロパティ」は次の場所にあります。

【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【デスクトップの表示とテーマ】
- 【画面解像度を変更する】

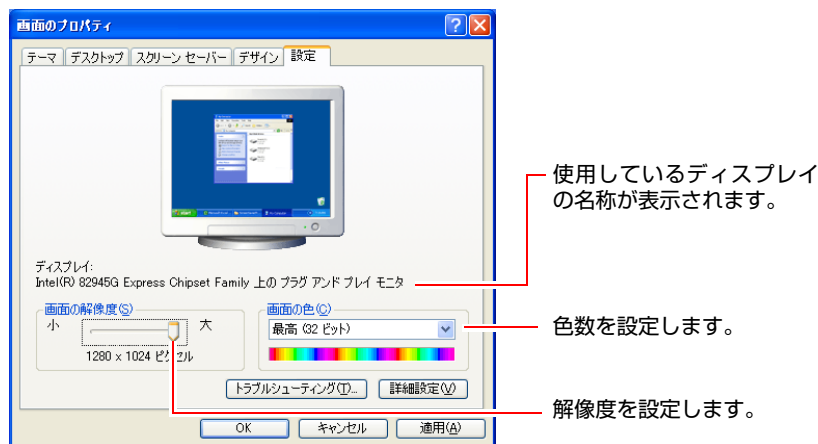


表示装置に関する設定を行います。

設定値変更後にクリックします。確認のメッセージが表示されます。

▶解像度や表示色を変更するには

解像度と表示色は「設定」タブで変更します。



▶表示できる解像度と表示色

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。



制限

- 接続しているディスプレイによっては正常に表示できない解像度や表示色もあります。
- 解像度や、表示色が高いと、動画ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。
- ワイドディスプレイをお使いの場合は、画面の解像度を1280×768ピクセルに設定してください。ワイドディスプレイは画面の縦横比が通常のディスプレイと異なるため、1280×768ピクセル以外の解像度に設定すると、画像が正常に表示されません。
- 本機では、次の解像度以外の解像度を選択することもできますが、それらの設定に関しては保証していません。

解像度 (ピクセル)

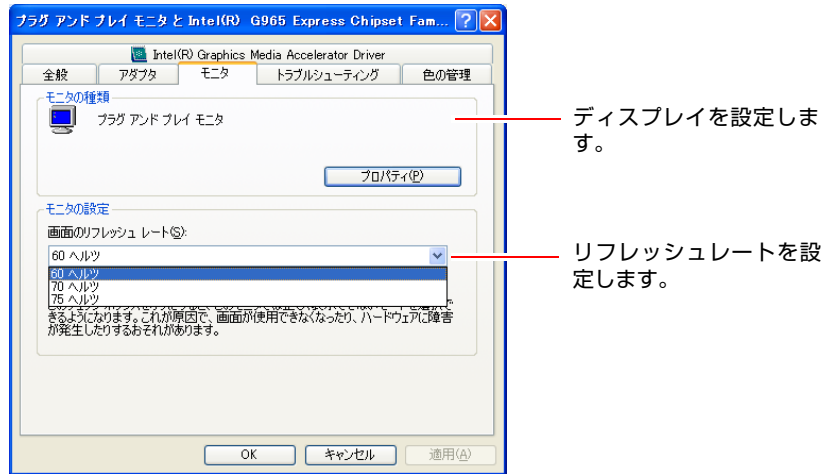
- 800×600
- 1024×768
- 1280×768 (ワイドディスプレイ接続時のみ)
- 1280×1024
- 1600×1200 (アナログディスプレイ接続時のみ)

表示色

- 中 (16ビット)
- 最高 (32ビット)

▶表示装置に関する設定

画面のプロパティの「設定」タブー [詳細設定] - 「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては正しく設定されない場合があります。その場合は [プロパティ] をクリックして設定を行ってください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートの設定

画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起こるときは、リフレッシュレートの設定を変更できるディスプレイの場合、リフレッシュレートを調節すると問題が解決することがあります。

サウンド機能を使う

本機のメインボード上には、7.1chサラウンド対応のサウンド機能が搭載されています。7.1chに対応したスピーカを接続すると、臨場感のあるサウンドを楽しむことができます。


本機にスピーカは内蔵されていません。本機からの音声を出力するには、スピーカを接続する必要があります。

▶外部オーディオ機器などの接続

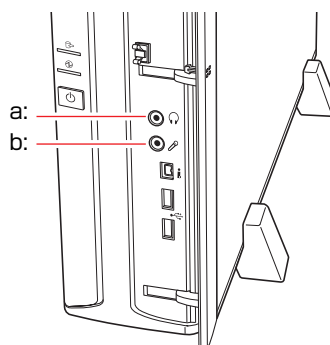
本機には、スピーカやマイクなどのオーディオ機器を接続するためのサウンドコネクタが装備されています。各コネクタの位置は、次のとおりです。


オーディオ機器の接続方法については、オーディオ機器に添付されているマニュアルをご覧ください。


オーディオ機器を接続したら、「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」で接続した機器の種類の設定が必要です。

 p.98 「接続時の設定」

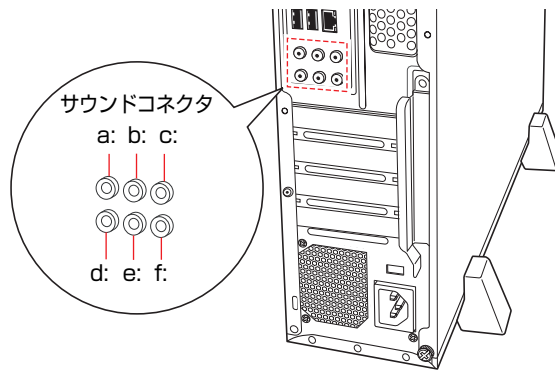
前面側









a: ヘッドフォン出力コネクタ 
スピーカやヘッドフォンと接続して音声を出力します。

b: マイク入力コネクタ 
マイクを接続して音声を入力します。

背面側



- a: サイドスピーカ出力コネクタ**  サイドスピーカと接続して音声を出力します。
- b: リアスピーカ出力コネクタ**  リアスピーカと接続して音声を出力します。
- c: センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ**  センタースピーカやサブウーファスピーカと接続して音声を出力します。
- d: マイク入力コネクタ**  マイクと接続して音声を入力します。
- e: フロントスピーカ/ライン出力コネクタ**  フロントスピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。通常のスピーカは、このコネクタに接続します。
- f: ライン入力コネクタ**  オーディオ機器と接続して音声を入力します。

参考

使用できるマイク

マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、電源を必要とするコンデンサーマイクです。

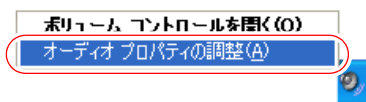
コンデンサーマイクには、次の2種類があります。

- コンセントなどから、電源供給するタイプ
- 乾電池やコンピュータから、電源供給するタイプ

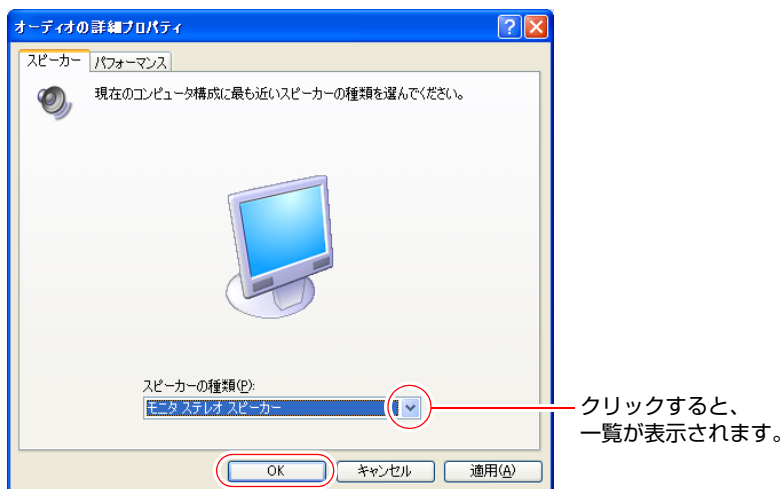
接続時の設定

サウンドコネクタにオーディオ機器を接続したら、『サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ』で接続した機器の種類を設定してください。『サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ』の設定方法は、次のとおりです。

- 1 タスクトレイの「スピーカ」アイコンを右クリックして、「オーディオプロパティの調整」をクリックします。



- 2 「サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ」画面が表示されたら、「スピーカーの設定」項目にある「[詳細設定]」をクリックします。
- 3 「オーディオの詳細プロパティ」画面が表示されたら、「スピーカーの種類」で、一覧から機器の種類を選択し、[OK] をクリックします。



これで接続時の設定は終了です。

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、音響効果の設定ができます。サウンドユーティリティを起動するには、タスクトレイの次のアイコンをクリックします。

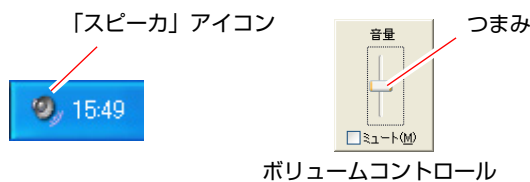


次の画面が表示されます。
詳しい使用方法は、「ヘルプ」をご覧ください。



▶音量の調節

スピーカを接続していて、Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。画面右下のタスクトレイに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



▶音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は、「Windows Media Player」を使用します。「Windows Media Player」は、次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は、「サウンドレコーダー」を使用します。「サウンドレコーダー」は、次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「エンターテイメント」 - 「サウンドレコーダー」



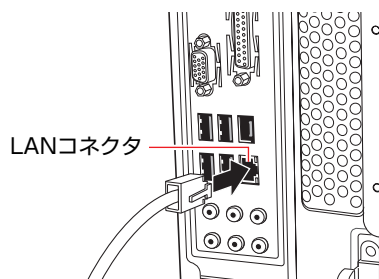
「サウンドレコーダー」では、最長 60 秒しか録音できません。
長時間の録音を行うには、別途アプリケーションが必要です。

ネットワーク機能を使う

本機のメインボード上には、1000Base-T/100Base-TX/10Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。



2

▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほか、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定などが必要になります。

ネットワークの構築方法は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。



制限

- NetWareサーバを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。


このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。（NetWareのみ）
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

▶インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、次をご覧ください。

 p.103 「インターネットに接続するには」

▶主な機能について

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、WakeUp On LANやリモートブートなどの機能を使用できます。

WakeUp On LAN

WakeUp On LANとは、電源切断時にネットワークからの信号により本機を復帰させることができる機能です。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。

リモートブート


リモートブートを使用すると、コンピュータ側のHDDにWindowsがインストールされていなくても、ネットワークを介して、サーバー上からWindowsを起動することができます。

RAID構成時は、リモートブートを使用できません。

▶ネットワークボードを使用する

メインボード上のネットワーク機能ではなく、ネットワークボードを装着して使用することができます。ネットワークボードを使用する場合は、「BIOS Setupユーティリティ」でメインボード上のネットワーク機能を「Disabled」（無効）に設定してください。

ネットワークボードを本機と同時購入された場合は、あらかじめ「Disabled」（無効）に設定されています。

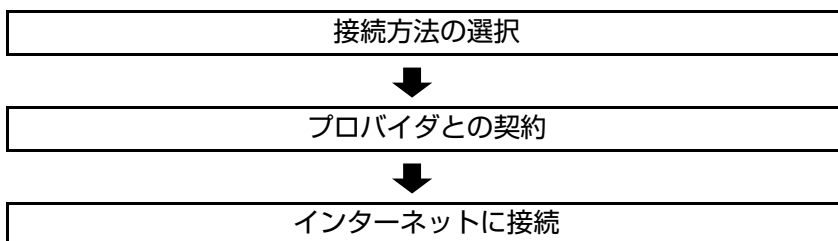
 p.168 「Advancedメニュー画面」－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard PCIE GbE LAN」

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続方法やインターネットを利用する上での注意事項について説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネットに接続するまでの流れは、次のとおりです。



2

▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットに接続するには、接続方法を決め、その接続サービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じような接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳細は、各プロバイダに確認してください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと呼び、光ファイバー、ADSL、CATVなどでの接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと呼びます。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		

遅い 速い

インターネットへの主な接続方法は、次のとおりです。

- 光ファイバー

ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。

ただし、非対応の地域があります。

- ADSL

電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。

利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまいますので、事前に速さの確認をする必要があります。

- CATV

ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。

- そのほかの接続方法（ナローバンド）

アナログ電話回線やISDN回線を使った低速な接続方法があります。

参考

ダイヤルアップ接続

ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と呼びます。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は、接続方法によって異なります。詳しくは、各プロバイダにお問い合わせください。

▶インターネットに接続する

プロバイダとの契約を完了すると、メールアドレスやパスワードなどのインターネット接続に必要な情報と、接続手順を記載した説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

参考

再インストール後のインターネット接続

Windowsを再インストールした場合は、インターネットへの接続作業が再度必要になります。プロバイダからの情報や説明書は、失くさないように大切に保管してください。

▶インターネットを使う上での注意

インターネットを利用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。

次の点に気をつけてインターネットを使用してください。

- 電子メールは、途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは、世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかを充分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、コンピュータが障害を被ることがあります。
- コンピュータウイルスに感染すると、コンピュータが障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。

ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。

- ・ ウイルスが添付されたメールを受信する
- ・ 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

ウイルス感染から本機を守る方法については、p.106 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、コンピュータウイルス感染や不正アクセスなど、インターネットに接続した場合の危険に対するセキュリティ機能が備えられています。

ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶ Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を診断し、更新が必要な内容があった場合、インターネット上から更新内容をインストールし、本機を最新の状態にする機能です。

はじめてインターネットに接続したときは

はじめてインターネットに接続した場合や、Windowsの再インストールをした場合は、まず、次の場所から手動で「Windows Update」を実行してください。

【スタート】－【すべてのプログラム】－【Windows Update】

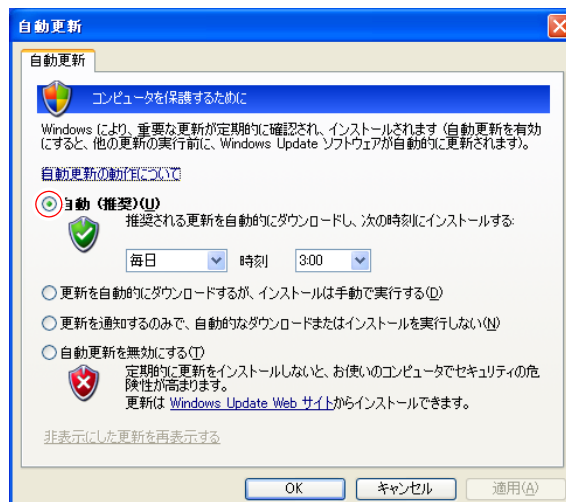
その後は、定期的にWindows Updateを自動で実行してください。

定期的に自動でWindows Updateを実行する

本機の状態を最新に保ち、安全に使用するため、「Windows Update」は必ず定期的に実行してください。

定期的に自動でWindows Updateを実行する方法は、次のとおりです。

【スタート】－【コントロールパネル】－【セキュリティセンター】－【自動更新】－【自動（推奨）】にチェック



購入時、「自動更新」は有効に設定されています。本機のセキュリティを最新に保つため、有効のままお使いください。

▶セキュリティソフトウェア

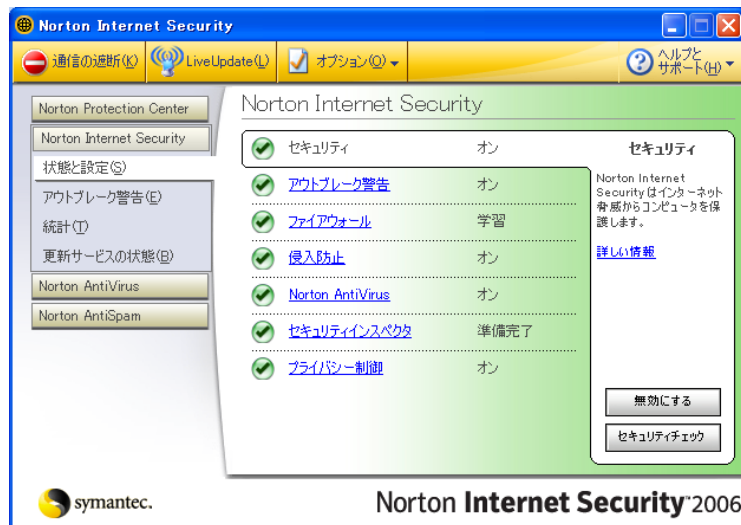
コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。

コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。

ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。「Norton Internet Security 90日版」の使い方は、本機に添付の『セキュリティソフトウェアをご使用前に』をご覧ください。



更新サービスの有効期限

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」は、製品版ではありません。ウイルス定義ファイルの更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスについての詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用前に』をご覧ください。

市販のウイルス対策ソフトウェア（セキュリティソフトウェア）を使う

市販のウイルス対策ソフトウェア（セキュリティソフトウェア）を使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールしないでください。

インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法については、本機に添付の『セキュリティソフトウェアをご使用前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんや破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」をインストールした後にセットアップを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になります。そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

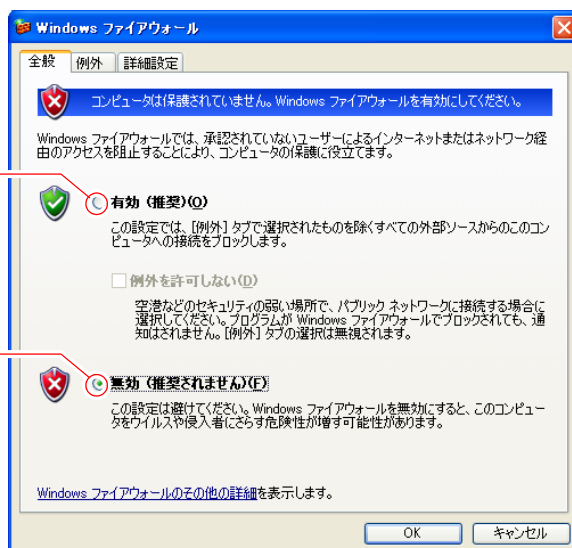
本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」を使用している場合は、ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールは自動で「無効」に設定されています。ファイアウォール機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「セキュリティセンター」 - 「Windowsファイアウォール」

ファイアウォールソフトを使用しない場合にチェック

ファイアウォールソフトを使用する場合にチェック




インターネットや電子メールを利用する

ここでは、インターネットを利用するための、次のソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

- Internet Explorer (インターネットエクスプローラ)
インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。
- Outlook Express (アウトルックエクスプレス)
電子メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

Internet Explorer、Outlook Expressを使用するには、インターネットへの接続が必要です。インターネットに接続するために、プロバイダと契約し、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行ってください。

 p.103 「インターネットに接続するには」

2

▶ Internet Explorerの使い方

起動と終了


起動と終了の方法は、次のとおりです。
ダイヤルアップ接続の場合は、接続/切断の確認画面が表示されます。

起動

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」をクリックします。

Internet Explorerが起動します。

終了


画面右上の  をクリックします。

Internet Explorerが終了します。




画面の説明



※画面の内容は予告なく変更する場合があります。

- 見たいホームページを開くには
 - ・ アドレスバーにアドレス（URL）を入力して  を押します。
 - ・ キーワードを使って検索します。[検索] をクリックして、検索画面でキーワードを入力します。
- 「お気に入り」にページを登録する

よく見るページは「お気に入り」に登録しておくと、すぐにアクセスできます。「お気に入り」－「お気に入りに追加」をクリックして登録します。
- リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でマウスポインタが  から  に変わる場所があります。 に変わる場所をクリックすると、リンク先のページ（ステータスバーに表示されているアドレス）にアクセスできます。
- 以前に見たページを開く

[履歴] をクリックすると、以前に見たページの一覧が表示されます。
- 起動時に表示されるページを設定する

Internet Explorerを起動した際に表示されるページ（ホームページ）を設定するには、「ツール」－「インターネットオプション」－「全般」タブ－「ホームページ」で、表示したいページのアドレスを入力し、設定します。


- 文字のサイズを変更する

表示される文字のサイズを変更する場合は、「表示」－「文字のサイズ」から変更します。初期設定は「中」になっています。

参考

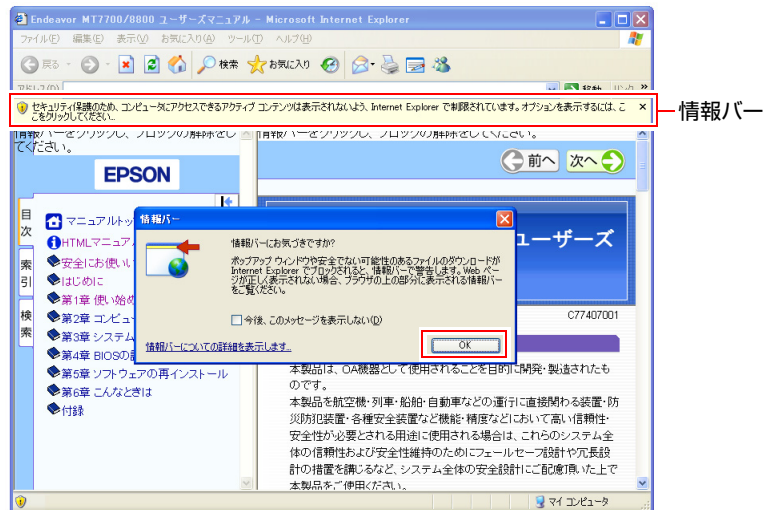
「お気に入り」のバックアップ

Windowsを再インストールする場合は、必要に応じて「お気に入り」のバックアップを行ってください。

 p.225 「データのバックアップ」

情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」（情報バー）が表示されたら、[OK]をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



便利な追加機能について

- JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。

JWordの詳しい使い方については、デスクトップ上にあるアイコンをダブルクリックしてください。



- gooスティック

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されています。「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。

▶ Outlook Expressの使い方

起動と終了

起動、終了方法は次のとおりです。


ダイヤルアップ接続の場合は、接続/切断の確認画面が表示されます。

起動

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Outlook Express」をクリックします。

Outlook Expressが起動します。

終了

画面右上のをクリックします。

Outlook Expressが終了します。



参考

ダイヤルアップ接続時の電子メールの送受信

電子メールの送受信には、インターネット接続が必要ですが、電子メール作成時や、受信した電子メールを読むときは、インターネット接続の必要はありません。

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際に「インターネット接続ウィザード」画面が表示された場合は、初期設定が必要です。

初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Outlook Express」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して [次へ] をクリックします。

- 3 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して [次へ] をクリックします。
- 4 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して [次へ] をクリックします。
- 5 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して [次へ] をクリックします。
- 6 「設定完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。



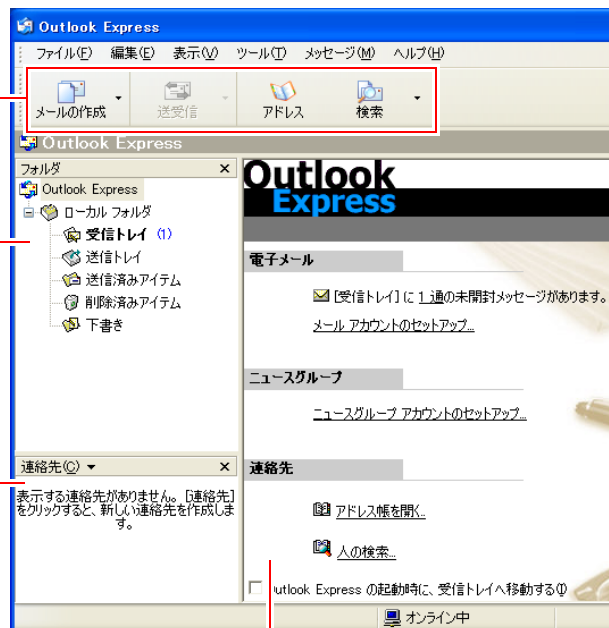
初期設定の画面を表示するには
「Outlook Express」の次の場所から「インターネット接続ウィザード」画面を表示することができます。
「ツール」メニュー - 「アカウント」 - [追加] - 「メール」

画面の説明

ボタン類
表示されるボタンは作業によって異なります。

メールトレイ
電子メールが保存されています。

アドレス帳
登録したアドレスが表示されます。



各メールトレイをクリックすると、電子メールの一覧が表示されます。



参考

プレビュー表示

電子メールの一覧を表示すると、画面の下部に電子メールの内容が表示（プレビュー表示）されますが、受信トレイをプレビュー表示で使用するとウイルスに感染する危険があるので、無効にすることをおすすめします。

設定変更は「表示」メニュー「レイアウト」で行います。

● 電子メールを受信する

Outlook Expressを起動時にインターネットに接続すると、自動的に電子メールを受信します。

受信していない場合や、再度受信したい場合は、[送受信]を押します。

● 受信した電子メールを見る

「受信トレイ」をクリックして電子メールの一覧を表示し、見たい電子メールを開きます。

● 電子メールを作成する

[メールの作成]を押すと、メッセージ作成画面が表示されます。

● 電子メールを送信する

メッセージ作成画面の[送信]を押すと、指定した「宛先」に電子メールが送信されます。

送信されずに、「送信トレイ」に一時保存される場合は、[送受信]を押します。

● メールアドレスを登録する


[アドレス]を押して[新規作成]で登録します。



参考

「アドレス帳」「メールデータ」のバックアップ

Windowsを再インストールする場合は、必要に応じて「アドレス帳」や「メールデータ」のバックアップを行ってください。


 p.225 「データのバックアップ」

省電力機能を使う

省電力機能を使うと、本機を使用していない間、本機が省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。

ここでは、Windowsの省電力機能について説明します。



- NetWare サーバを利用している場合や、NetBEUI を使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
このような場合には、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
 - ・ 再起動する。
 - ・ 省電力モードを無効にする。
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。
- 光ディスクメディアやメモ리카ードなどへの書き込み中に省電力モードに移行すると、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを行う場合は、省電力モードを無効にしてください。
 p.118 「時間経過で移行させない」
- 省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- サウンド機能を使って録音・再生している場合に省電力モードに移行すると、サウンド機能が正常に動作しない可能性があります。
- 周辺機器を接続している場合や、アプリケーションを起動している場合などに、省電力機能が動作しないことがあります。
- 省電力モード時にメモ리카ードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。

▶省電力モードの種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

- HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

- スタンバイ

作業内容をメモリに保存した状態でコンピュータの動作を中断します。BIOSの設定（Suspend to RAM）により、消費する電力量は異なります。

「Enabled」設定時：メモリ以外の電源が切れるため、電力消費はほとんどありません。購入時は「Enabled」に設定されています。

「Disabled」設定時：不必要な電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。


スタンバイが正常に動作しない場合は、相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。その場合は、「BIOS Setupユーティリティ」の「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」を「Disabled」に設定してください。

 p.170 「Power メニュー画面」

- 休止状態

作業内容をHDDに保存して、電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に、電力を消費しません。通常モードへの復帰には、多少時間がかかります。

休止状態を有効にするためには、設定が必要です。

 p.117 「休止状態を有効にする」



スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに、正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切ってから、もう一度入れ直してください。

電源ランプの表示

省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

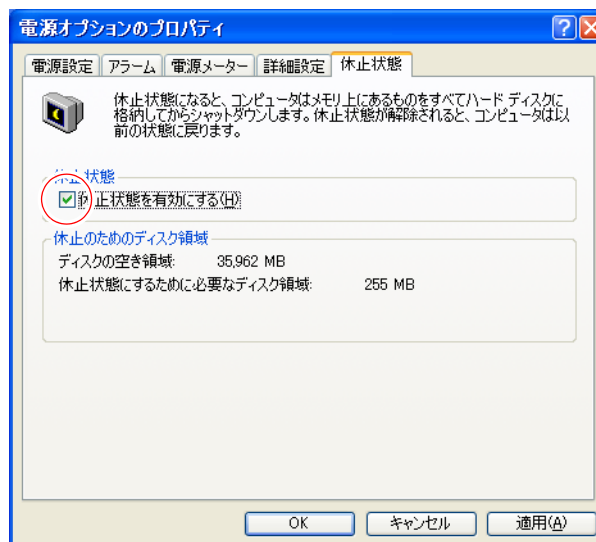
動作状態	電源ランプの表示
通常モード	点灯（黄緑色）
HDD/ディスプレイの電源を切る	点灯（黄緑色）
スタンバイ	点滅（黄緑色）
休止状態	消灯
電源切断時	消灯

休止状態を有効にする

省電力モードの「休止状態」を有効にすると、電源スイッチを切った状態と同様に、電力の消費を抑えることができます。

「休止状態」を有効にする方法は、次のとおりです。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」
- 「電源オプション」 - 「休止状態」タブ - 「休止状態を有効にする」に
チェック



▶省電力モードに移行する

省電力モードに移行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書など）を保存しておくことをおすすめします。

- 時間経過で移行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと、省電力モードに移行します。

- 直ちに移行

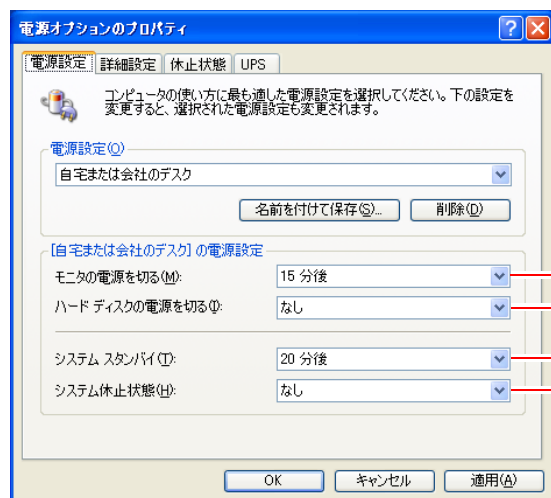
席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」
- 「電源オプション」

時間経過で移行する

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、各省電力モードに移行します。

時間経過で移行させない

光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過による省電力モードへの移行を無効に設定します。

時間経過による省電力モードへの移行を無効にするには、時間設定をするすべての項目で「なし」を選択します。

直ちに移行する

次の方法で、スタンバイ、または休止状態に強制的に移行します。

- キーボードのSleepキー（ Z ）を押して移行する

Sleepキーを押すと、「スタンバイ」になります。

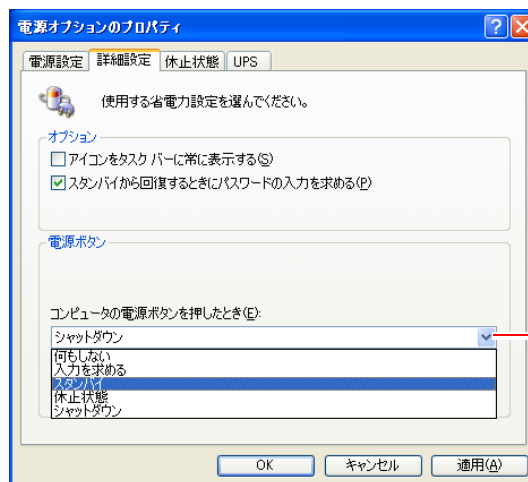
- スタートボタンから移行する

[スタート] - 「終了オプション」から選択、移行します。

休止状態を有効に設定した状態で、「コンピュータの電源を切る」画面で **[Shift]** を押すと、「スタンバイ」ではなく「休止状態」を選択できるようになります。

- 電源スイッチを押して移行する

電源スイッチを押したときにどのモードに入るかを、あらかじめ「詳細設定」タブで設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

▶省電力モードから復帰する

省電力モードから復帰して、通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	点灯 (黄緑色)	キーボードやマウスを操作する（誤って電源スイッチを押さないください）。
スタンバイ (Suspend to RAM : Enabled)	点滅 (黄緑色)	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源スイッチを押す。 ● キーボードのPowerキーを押す。
スタンバイ (Suspend to RAM : Disabled)	点滅 (黄緑色)	<ul style="list-style-type: none"> ● キーボードやマウスを操作する。 ● キーボードのPowerキーを押す。
休止状態	消灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源スイッチを押す。 ● キーボードのPowerキーを押す。

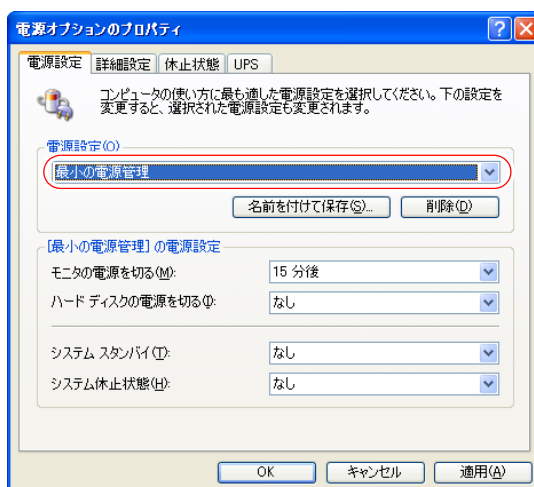
▶スピードステップ機能

スピードステップ機能「EIST」に対応したプロセッサを搭載しているCPUの場合、スピードステップ機能「EIST」を使用することができます。

「EIST」とは、Enhanced Intel SpeedStep Technologyの略で、使用時のCPUの使用率にあわせて、自動的にCPUの処理速度を調整し、本機を省電力で動作させる機能です。

EISTを使用するには、次の設定を行います。

「電源設定」タブの「電源設定」を「有効（最小の電源管理）」に設定する




購入時は「無効（自宅または会社のデスク）」に設定されています。

そのほかの機能

▶パラレルコネクタ

本機背面には、パラレルコネクタが1個用意されています。パラレルコネクタには、パラレルコネクタに対応した機器（プリンタやスキャナなど）を接続します。


本機では、パラレルポートの機能や、使用するアドレスを変更することができます。通常は、パラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.168 「Advancedメニュー画面」－「Onboard Devices Configuration」－「Parallel Port Adress」

▶シリアルコネクタ（オプション）

本機購入時にオプション選択された場合、本機背面にはシリアルコネクタが1個用意されています。シリアルコネクタには、シリアルコネクタに対応したシリアルマウスや外付けのFAXモデム、TA（ターミナルアダプタ）などを接続します。本機では、シリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

シリアルコネクタを選択された場合は、あらかじめ「3F8/IRQ4」に設定されています。

 p.168 「Advancedメニュー画面」－「Onboard Devices Configuration」－「Serial Port1 Adress」

▶IEEE 1394コネクタ

本機には、IEEE1394コネクタが前面に1個（4ピン）、背面に1個（6ピン）用意されています。IEEE1394コネクタには、IEEE1394対応の機器を接続します。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続、取り外しは、電源が入った状態で行うことができます。タスクトレイに「取り外し」アイコンが表示された場合は、Windows上での終了処理が必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。




<取り外しアイコン>

▶ハイパー・スレッディング機能

ハイパースレッディング機能を持つプロセッサを搭載している場合、Windows にひとつのコア（CPU）を仮想的に2つに見せかけることで、異なる2つの命令を同時に実行することができます。ハイパースレッディング機能に対応したアプリケーションでは、処理性能が向上します。

購入時、ハイパースレッディング機能は、「Enabled (有効)」に設定されています。

 p.168 「Advancedメニュー画面」－「CPU Configuration」－「Hyper Threading Technology」

▶データ実行防止機能（DEP機能）

本機は、データ実行防止機能（以降、DEP機能）に対応しています。DEP機能とは、メモリを利用して拡大する種類のコンピュータウイルスに感染してしまったアプリケーションやプログラムを停止する機能です。

DEP機能は、ウイルスの活動を阻止するもので、検索・駆除を行うものではありません。ウイルスの検索・駆除は、セキュリティソフトウェアで行ってください。

DEP機能がウイルスを検出した場合、感染してしまったアプリケーションやプログラムの実行が停止され、次の画面が表示されます。



上の画面が表示された場合は、セキュリティソフトウェアでウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

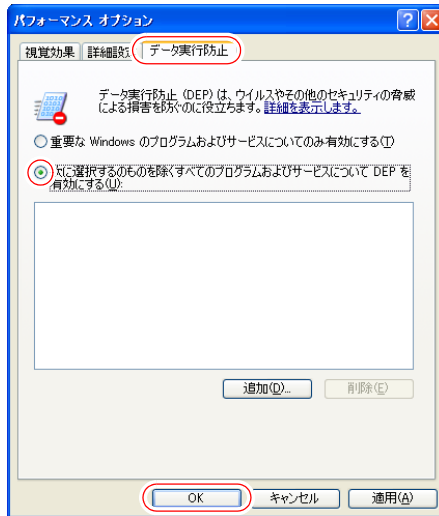
安全なアプリケーションでエラーが表示された場合

DEP機能が安全なアプリケーションを実行した場合でも、メモリの状態によっては、アプリケーションを停止してしまう場合があります。このような場合は、アプリケーションの製造元へお問い合わせください。

さらにセキュリティを強化する

DEP機能を次のように設定すると、セキュリティがさらに強化されます。

- 1 「スタート」－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」をクリックします。
- 2 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」欄にある「設定」をクリックします。
- 3 「データ実行防止」タブをクリックし、「次に選択するものを除く・・・」にチェックを付けて「OK」をクリックします。

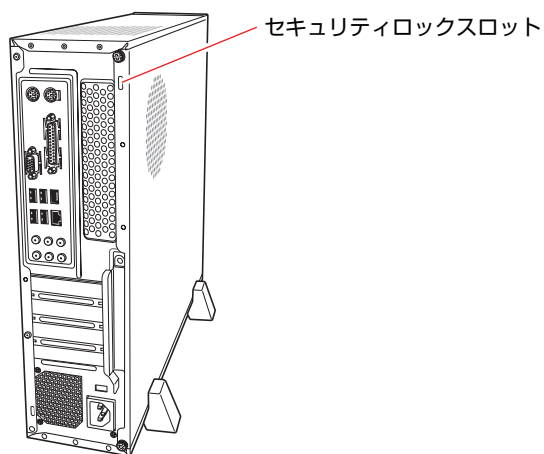


- 4 「コントロールパネルの [システム]」画面が表示されたら、「OK」をクリックします。
- 5 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、「OK」をクリックします。
- 6 「スタート」－「終了オプション」－「再起動」をクリックし、コンピュータを再起動します。
コンピュータが再起動したら、設定は終了です。

▶セキュリティロックスロット

本機背面には、「セキュリティロックスロット」が装備されています。ここには、専用の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。専用の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）は、当社ホームページで購入することができます。

<http://epsdirect.jp>



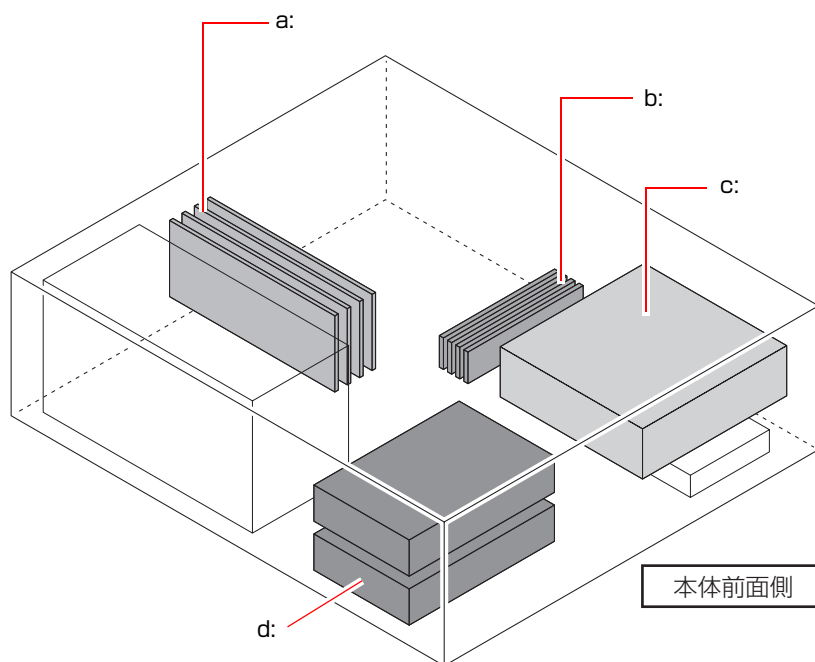
第3章 システムの拡張

本機に装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

「拡張できる装置」	126
「作業時の注意」	127
「拡張時の準備作業」	128
「メモリの増設」	132
「拡張ボードの装着」	139
「ドライブ装置の接続」	143
「ドライブベイへの装着」	146

拡張できる装置


本機は、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。購入時の選択により、すでにいくつかの装置が装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。



a: 拡張スロット


拡張スロットには、次の拡張ボードを装着することができます。

- ・ PCI Express x16ボード 1枚
- ・ PCIボード 2枚
- ・ PCI Express x4ボード 1枚

 p.139 「拡張ボードの装着」


b: メモリスロット

メモリスロットには、メモリを4枚、最大3GBまで装着できます。

 p.132 「メモリの増設」


c: 5.25型ドライブベイ

5.25型ドライブベイに装着されている光ディスクドライブは、交換することができます。

 p.146 「光ディスクドライブの交換」

d: HDDベイ

HDDベイには、S-ATA仕様の3.5型HDDを2台まで装着することができます。

 p.150 「HDDの取り付け・取り外し」

作業時の注意

本機の内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 拡張ボードやメモリの交換、増設は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 本機の電源を切っても電源プラグがコンセントに接続されていると微少な電流が流れています。作業を始める前に必ずコンセントから電源プラグを外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
- 本機および接続している周辺機器の電源は必ず切ってください。電源を切ったら、本機から周辺機器を取り外してください。
- 本機の内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや拡張ボード、コンピュータ本体に静電気が流れると、基板上の部品が壊れるおそれがあります。
- 本機の内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリや拡張ボードが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリや拡張ボードは落とさないように注意してください。強い衝撃を与えると、破損の原因になります。
- メモリや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

拡張時の準備作業

ここでは、装置の拡張を行う場合の作業について説明します。各装置の拡張手順に従って作業を行ってください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

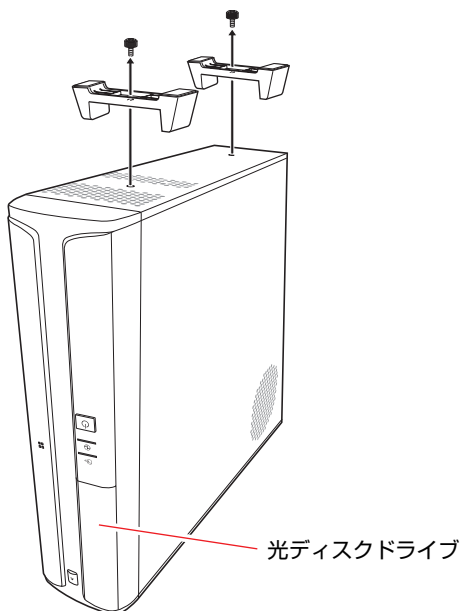
▶本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着するには、まず本体カバーとリンクバーを外す必要があります。

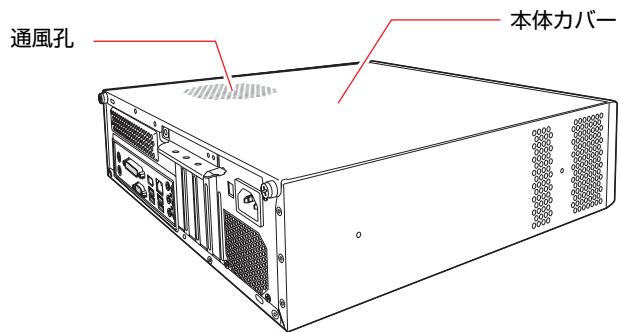
取り外し

本体カバーとリンクバーを取り外す手順は、次のとおりです。

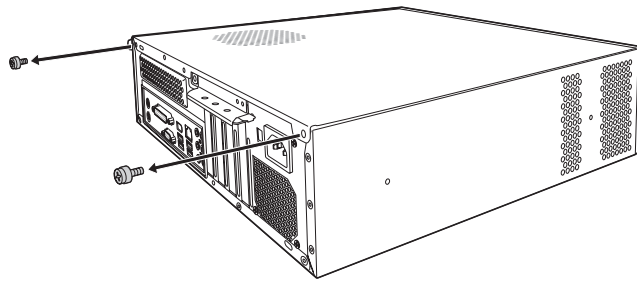
- 1 本機の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 本機に接続しているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。**
- 3 本機を縦置きで使用している場合は、光ディスクドライブを下にして、縦置きスタンドを取り外します。**



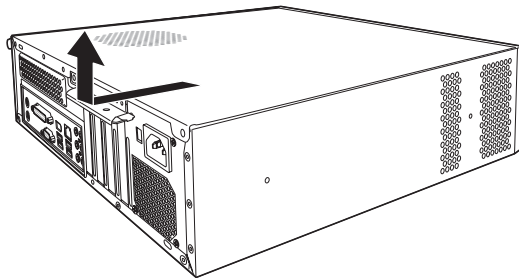
- 4** 通風孔がある側面が上になるように、本体を横置きします。



- 5** 本機背面のネジ（2本）を外します。

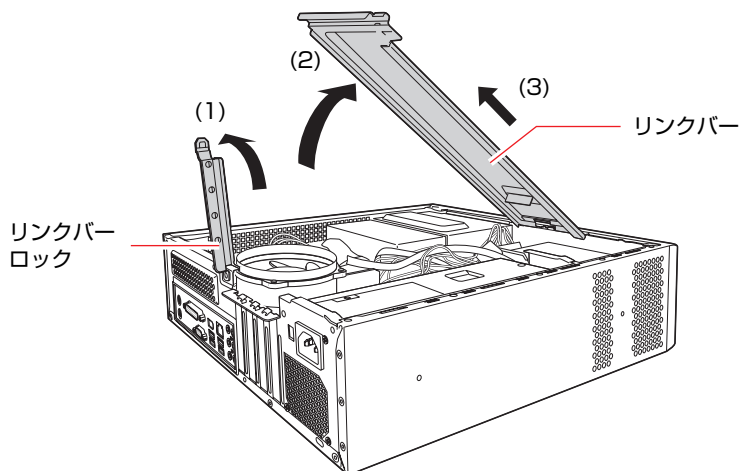


- 6** 本体カバーを背面側へスライドさせ、上へ持ち上げて取り外します。



7 リンクバーを取り外します。

- (1) リンクバーロックを矢印の方向へ開きます。
- (2) リンクバーを矢印の方向へ開きます。
- (3) リンクバーを引き抜きます。

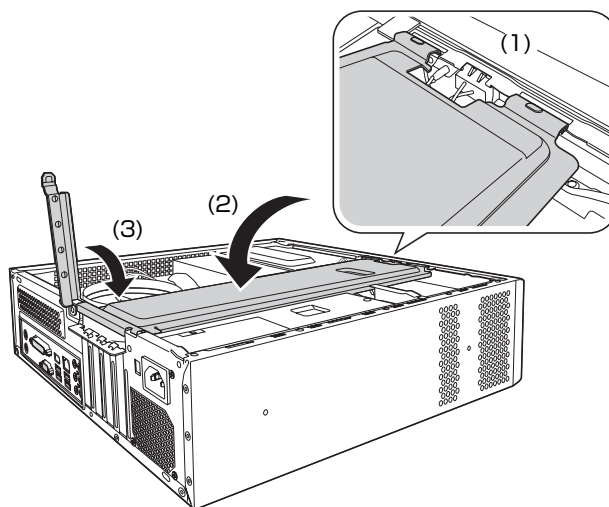


取り付け

リンクバーと本体カバーを取り付ける手順は、次のとおりです。

1 リンクバーを取り付けます。

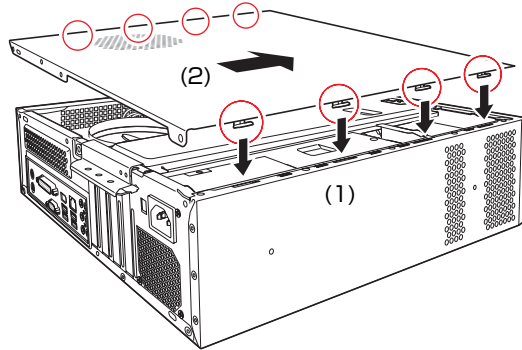
- (1) リンクバーを本体の穴へ差し込みます。
- (2) リンクバーを矢印の方向へ閉じます。
- (3) リンクバーロックを閉じます。



2 本体カバーを取り付けます。

(1) 本体カバーのツメ（上下で8箇所）を、本体の穴にはめ込みます。

(2) 本体背面から前側に向けてスライドします。

**3** ネジ（2本）で本機背面と本体カバーを固定します。**4** 縦置きで使用する場合は、光ディスクドライブを下にして、縦置きスタンドを取り付けます。

縦置きスタンドを取り付けたら、スタンドを下にして置きます。

5 取り外したケーブル類を本機に接続します。

メモリの増設

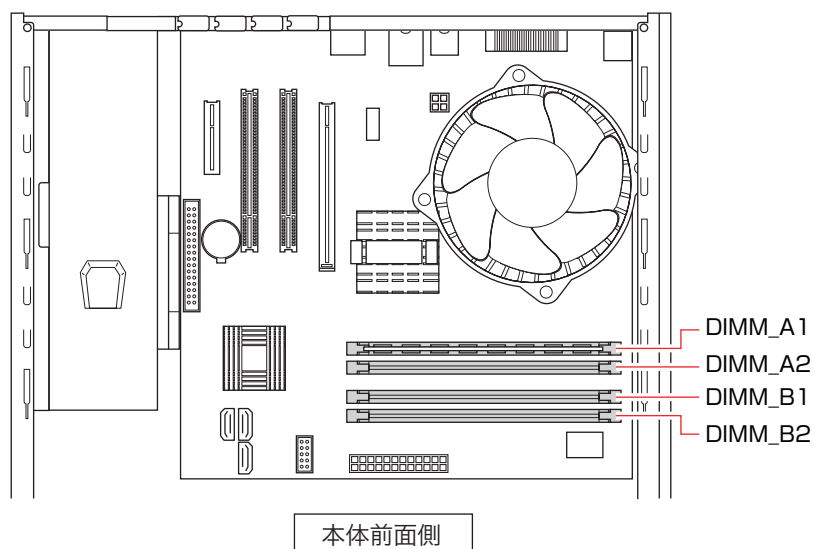
本機で使用可能なメモリの仕様と取り付け方法について説明します。

▶メモリの仕様

本機には4本のメモリスロットが用意されており、メモリを最大3GB（1024MB×2+512MB×2）まで拡張することができます。

本機は、同一容量のメモリを2枚1組で使用することにより、高速なメモリ転送速度を実現します。

メインボード上のメモリスロットの位置は、次のとおりです。



メモリは、DIMM_A1、DIMM_B1スロットから取り付けます。

購入時、DIMM_A1とDIMM_B1スロットには、メモリが取り付けられています（購入時の選択により、メモリの容量は異なります）。

本機で使用可能なメモリの仕様は、次のとおりです。

- PC2-5300 DIMM（DDR2-667 SDRAM使用、240ピン）
- メモリ容量：256MB、512MB、1024MB
- Non ECC
- CL=5



Celeron Dプロセッサでのメモリ動作について

Celeron Dプロセッサ搭載の場合、メモリの動作はPC2-4200（DDR2-533）になります。

最新メモリ情報

今後、本書に記載した仕様以外の新しいメモリを取り扱う場合があります。本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページでご確認ください。

<http://epsondirect.jp>

▶メモリ装着の組み合わせと順番

本機のメモリスロットにメモリを装着する場合は、次の点に注意してください。

- 同一容量のメモリを2枚1組で装着してください。
なお、メモリを4枚装着する場合、1組目と2組目の容量が異なっていても問題はありません。
- メモリを2枚以上装着する場合の組み合わせと順番は、次のとおりです。



メモリ装着順	メモリスロット
1組目	DIMM_A1 スロット+DIMM_B1 スロット
2組目	DIMM_A2 スロット+DIMM_B2 スロット

▶メモリの取り付け・取り外し

作業を始める前にp.127 「作業時の注意」を必ずお読みください。
作業を行う場合は、本体を横置きにして行ってください。

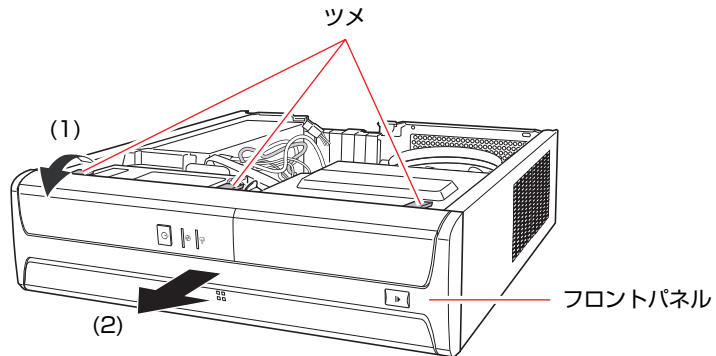
取り付け

メモリを取り付ける手順は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 本機に接続しているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。**
- 3 本体カバー、リンクバーを取り外します。**
 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」
- 4 PCI Express x16スロットに拡張ボードが装着されている場合は、拡張ボードを外します。**
 p.140 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

5 フロントパネルを取り外します。

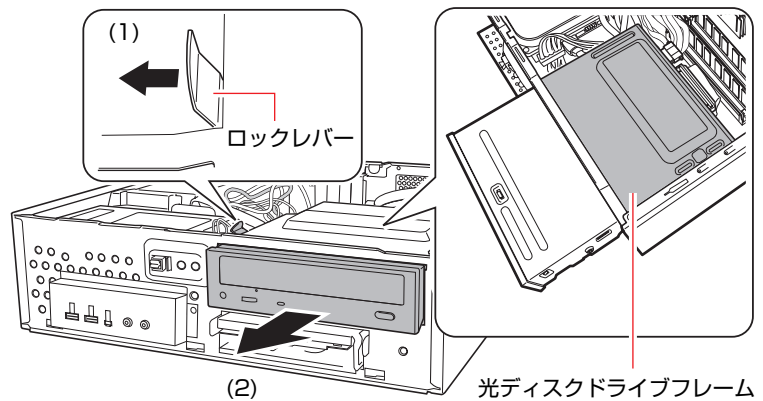
- (1) フロントパネルの3つのツメを、本体フレームから外します。
- (2) フロントパネルを、矢印の方向へ取り外します。



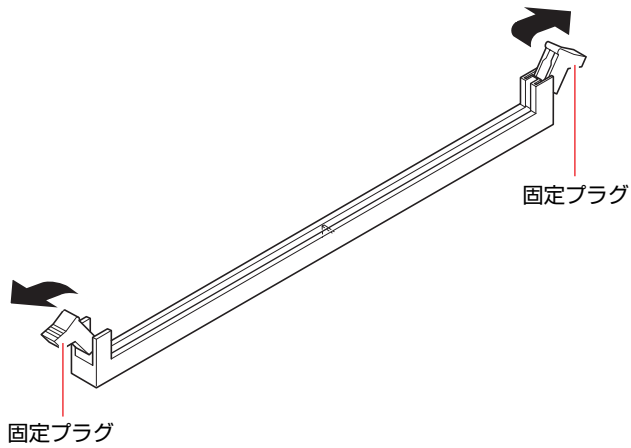
6 作業の妨げにならないように、光ディスクドライブを前面へスライドさせます。

- (1) ロックレバーを矢印の方向へ引きます。
- (2) ロックレバーを引いた状態のまま、光ディスクドライブを前面へスライドさせます。

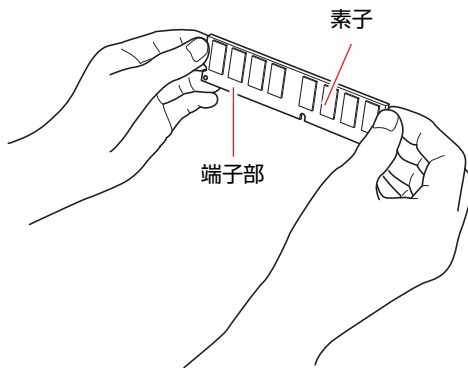
光ディスクドライブの背面が、光ディスクドライブフレームに隠れるまでスライドさせます。



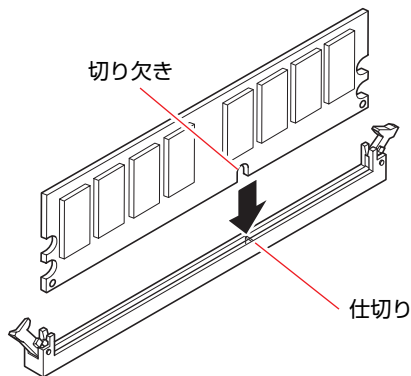
7 メモリスロットの固定プラグを開きます。



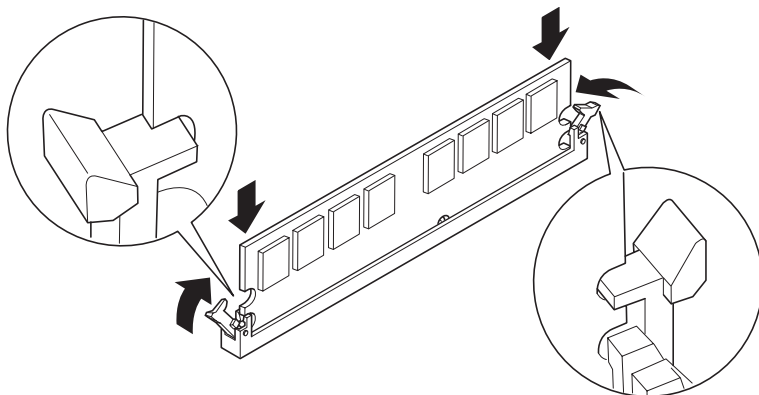
8 メモリを静電気防止袋から取り出します。
メモリの端子部や素子に触れないように注意します。




9 メモリスロットにメモリを差し込みます。
(1) メモリの切り欠きをメモリスロット内の仕切りに合わせます。



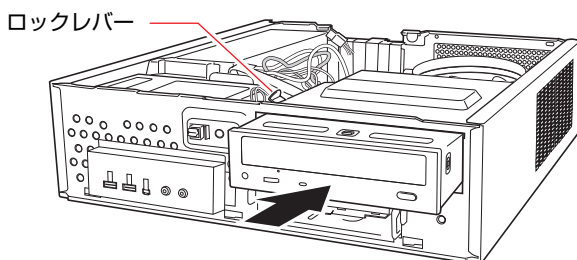
- (2) さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、メモリが固定されます。
メモリが固定されたことを、必ず確認してください。



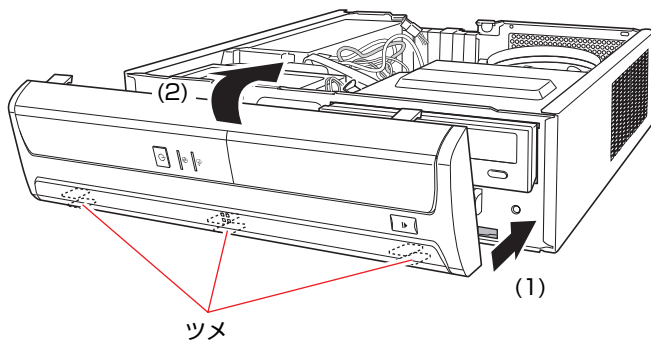
本機では、メモリを2枚単位で取り付けるため、該当するメモリスロット2本に対して、それぞれ作業を行ってください。

 p.133 「メモリ装着の組み合わせと順番」


- 10** 光ディスクドライブを、ロックレバーが「カチッ」というまで押し込みます。




- 11** フロントパネルを取り付けます。
(1) フロントパネル下側の3つのツメを、本体フレームの穴に差し込みます。
(2) フロントパネルを、カチッと音がするまで矢印の方向へ起こします。



- 12** 手順4で拡張ボードを外した場合は、もとおりに装着します。

 p.140 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

13 リンクバー、本体カバーを取り付けます。

 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」

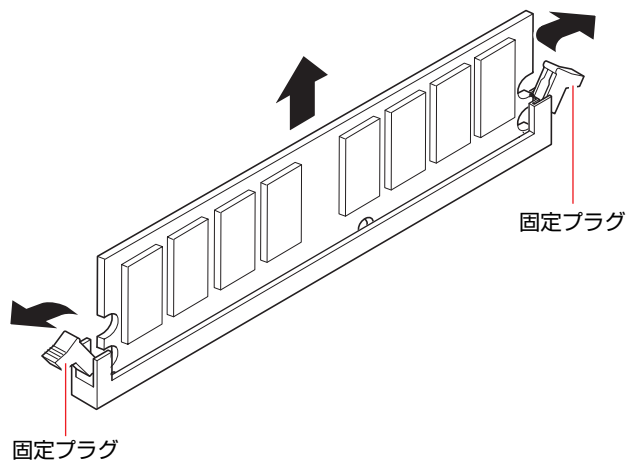
14 取り外したケーブル類を本機に接続します。

続けてp.138 「メモリの増設・交換後の作業」を行います。

取り外し


メモリの取り外し方法は次のとおりです。取り外す際は、「取り付け」の手順7～9を次の手順に読み替えて行ってください。

作業後は、p.138 「メモリの増設・交換後の作業」を行います。

1 メモリの両端を固定している固定プラグを開きます。**2** メモリが外れたら静かに取り外します。

静電気防止袋に入れて保管してください。

本機では、メモリを2枚単位で取り付けるため、該当するメモリスロット2本に対して、それぞれ作業を行ってください。


 p.133 「メモリ装着の組み合わせと順番」

▶メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているか、必ずメモリの容量を確認してください。

メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

1 「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

 p.157 「BIOS Setupユーティリティの操作」

2 「Main」メニュー画面－「System Information」－「Usable Size」に表示されているメモリ容量を確認します。

メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。



メモリ容量の表示

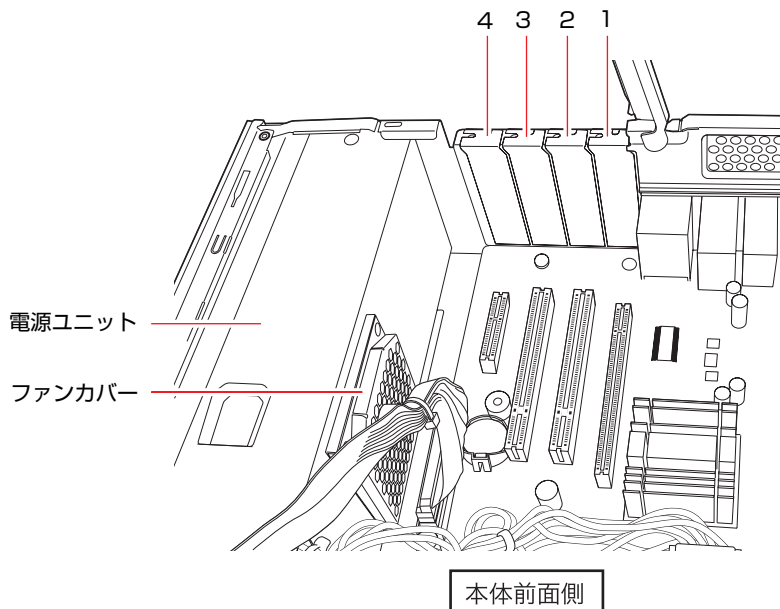
メインボード上のビデオ機能を使用している場合、本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。そのため、メモリ容量は、メインメモリからビデオメモリ（最小8MB）を引いた値が表示されます。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と拡張ボードの取り付け方法について説明します。

▶ 拡張スロットの仕様

本機には、4つの拡張スロットがあります。各スロットの仕様は、次のとおりです。



スロット番号	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
1	PCI Express x16	ボード長：170mm×ボード幅：69mmまで
2	PCI	ボード長：170mm×ボード幅：64mmまで
3	PCI	ボード長：170mm×ボード幅：64mmまで
4	PCI Express x4	ボード長：170mm×ボード幅：69mmまで



「4」のスロットには、電源ユニットやファンカバーに接触してしまうボードを装着しないでください。接触した状態で使用すると、火災の原因となります。



- 本機に装着可能なボードは、Low Profile仕様のみです。それ以外のボードを装着することはできません。
- 拡張する場合は、他の部品と干渉しないように取り付けてください。

▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し



拡張スロットには機器の性能を維持するため、鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業を行ってください。

作業を始める前にp.127「作業時の注意」および拡張ボードに添付のマニュアルを必ずお読みください。

作業は、本機を横置きに行います。




本機内部のコネクタとの接続について

拡張ボードによっては、本機内部のコネクタとの接続が必要な場合があります。拡張ボードに添付のマニュアルで、ご確認ください。

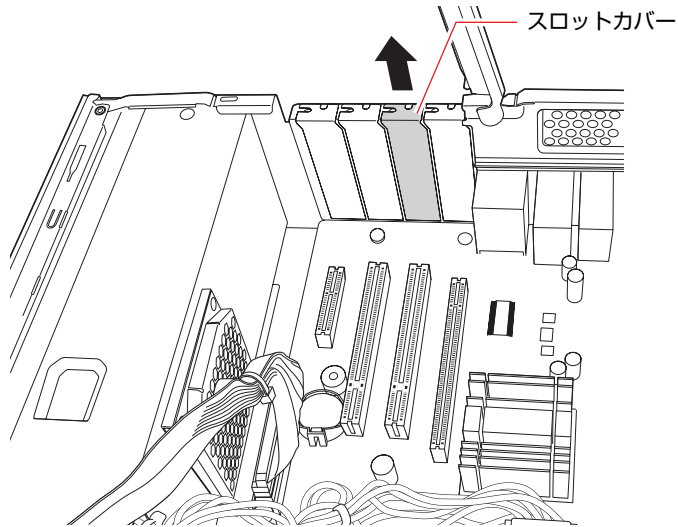
取り付け

拡張ボードの取り付け方法は、次のとおりです。

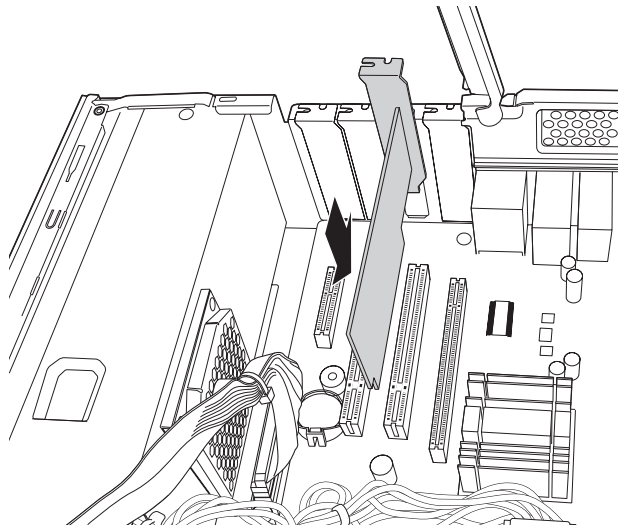
- 1 本機の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。**
- 3 本体カバーとリンクバーを取り外します。**
 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」
リンクバーロックは開けておきます。


4 スロットカバーを取り外します。

外したスロットカバーは、大切に保管しておいてください。

**5** 拡張ボードを拡張スロットに差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていることを確認し、拡張ボードをゆっくり押し込みます。

**6** リンクバーと本体カバーを取り付けます。

 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」

7 取り外したケーブル類を本機に接続します。

続けてp.142 「拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

拡張ボードの取り外しは、「取り付け」の手順4、5を次の手順に読み替えて行ってください。

作業後は、p.142 「拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

- 1** 拡張ボードを引き抜きます。
- 2** 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しない場合は、スロットカバーを取り付けておきます。

▶拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

- ビデオボードの場合

ビデオボードの取り付け・取り外しをした場合、BIOSなどの設定は必要ありませんが、ボードによってはドライバのインストール、アンインストールが必要な場合があります。詳しくは、ボードに添付のマニュアルをご覧ください。

- そのほかのボードの場合

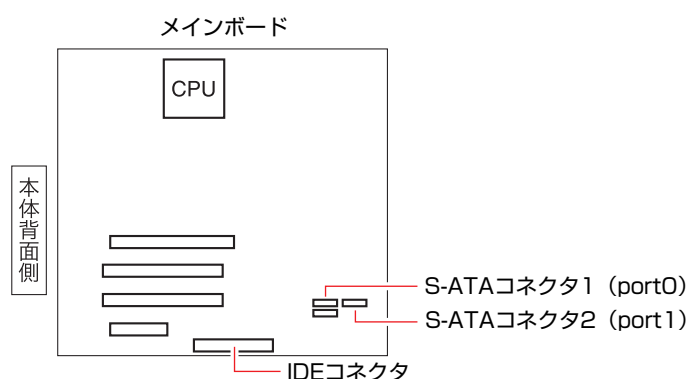
そのほか、拡張ボードによってはBIOSの設定や、ドライバのインストールなどの作業が必要です。詳しくは、拡張ボードに添付のマニュアルをご覧ください。

ドライブ装置の接続

ここでは、コネクタの仕様と各ドライブ装置の接続方法について説明します。本機のメインボード上で使用できるコネクタは次のとおりです。各コネクタには、それぞれの規格に対応したドライブ装置を接続することができます。

コネクタ	数量	接続できる装置
IDEコネクタ	1個	光ディスクドライブを1台接続可能
S-ATAコネクタ	2個	HDDを2台接続可能

各コネクタの位置は次のとおりです。

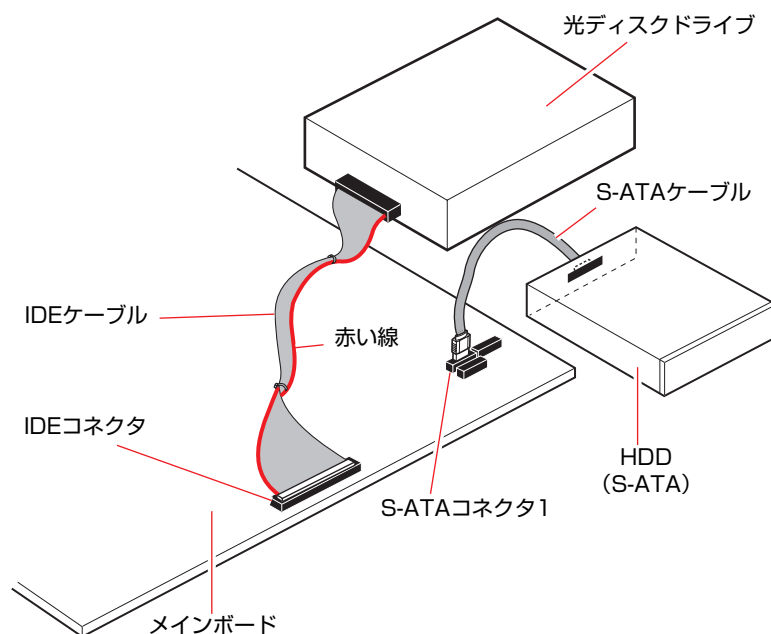


3

▶ ドライブ装置の接続例

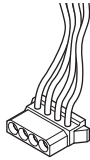
メインボードとの接続

各ドライブ装置とメインボードを接続する一般的な方法は、次のとおりです。

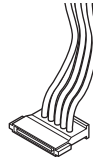


周辺機器用電源ケーブル

電源ユニットには、ドライブベイに装着する装置に電源を供給するための周辺機器用電源ケーブルがついています。周辺機器用電源ケーブルの各コネクタの形状と、接続するドライブ装置は次のとおりです。



光ディスクドライブ



HDD (S-ATA)

▶光ディスクドライブの接続

本機のメインボード上には、IDEコネクタが1個搭載されています。IDEコネクタには、光ディスクドライブを1台接続することができます。

光ディスクドライブを交換する際は、ドライブに添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

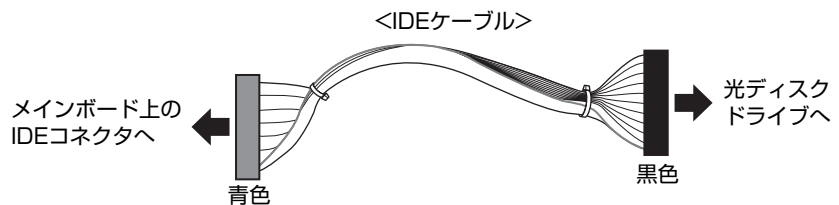
ジャンプスイッチの設定

光ディスクドライブを取り付ける前には、ジャンプスイッチの設定が必要です。ジャンプスイッチの設定には、「マスタ」、「スレイブ」、「ケーブルセレクト」の3種類がありますが、本機に取り付ける光ディスクドライブは、必ず「マスタ」に設定してください。「マスタ」に設定しないと、光ディスクドライブがコンピュータに認識されない場合があります。

ジャンプスイッチの位置や設定方法は、光ディスクドライブに添付のマニュアルを参照してください。

IDEケーブル

本機のIDEコネクタに接続しているIDEケーブルは、次のように接続します。



▶HDDの接続

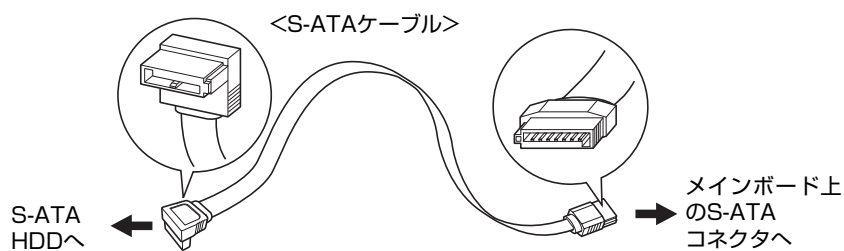
本機のメインボード上には、S-ATAコネクタが2個搭載されています。それぞれのS-ATAコネクタに、S-ATA仕様のHDDを1台ずつ接続することができます。

コネクタの優先順位は、次のとおりです。

順位	コネクタ
1	S-ATAコネクタ1 (port0)
2	S-ATAコネクタ2 (port1)

S-ATAケーブル

S-ATA HDDとメインボード上のS-ATAコネクタは、「S-ATAケーブル」で接続します。「S-ATAケーブル」は、コネクタの向きに合わせて接続してください。



ドライブベイへの装着


ここでは、本機の各ドライブベイに装着されている装置の交換や取り外し・取り付け方法について説明します。

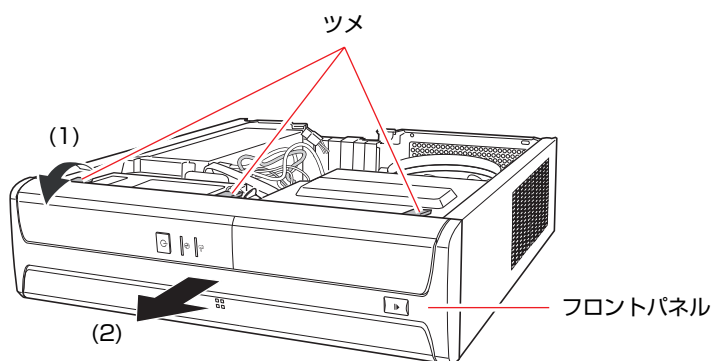
作業を始める前にp.127「作業時の注意」と各ドライブに添付のマニュアルを必ずお読みください。

作業はコンピュータを横置きに行います。

▶光ディスクドライブの交換

5.25型ドライブベイに装着されている光ディスクドライブを交換する手順は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 本機に接続しているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。**
- 3 本体カバーとリンクバーを外します。**
 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」
- 4 フロントパネルを取り外します。**
 - (1) フロントパネルの3つのツメを、本体フレームから外します。
 - (2) フロントパネルを、矢印の方向へ取り外します。

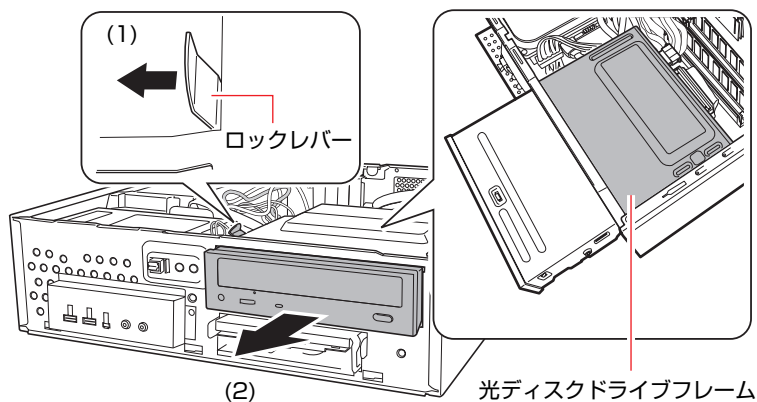


5 ドライブベイから光ディスクドライブを取り外します。

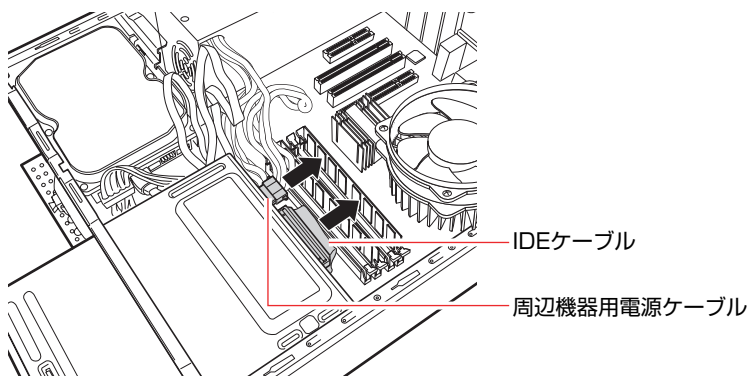
(1) ロックレバーを矢印の方向へ引きます。

(2) ロックレバーを引いた状態のまま、光ディスクドライブを前面へスライドさせます。

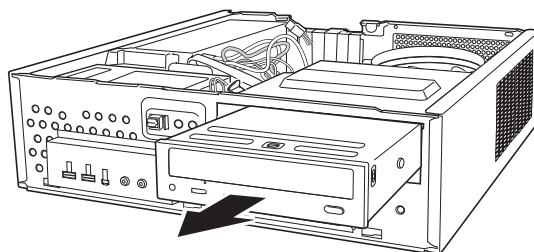
光ディスクドライブの背面が、光ディスクドライブフレームに隠れるまでスライドさせます。




(3) 光ディスクドライブに取り付けられているケーブル類を外します。



(4) 光ディスクドライブを引き抜きます。

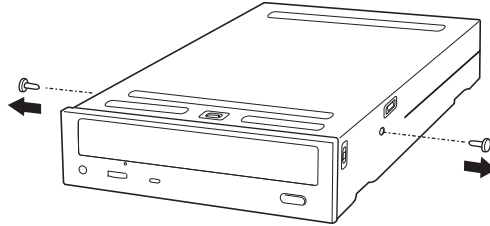


6 取り付ける光ディスクドライブに添付のマニュアルを参照し、ジャンプスイッチを「マスタ」に設定します。

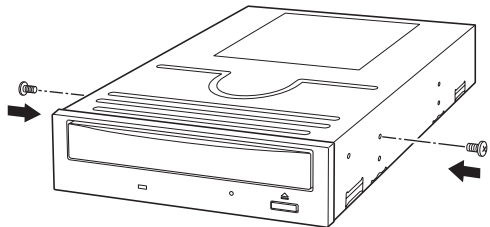
 p.144 「光ディスクドライブの接続」

7 取り付ける光ディスクドライブにネジを取り付けます。

(1) 取り外したドライブ装置からネジ（2本）を取り外します。



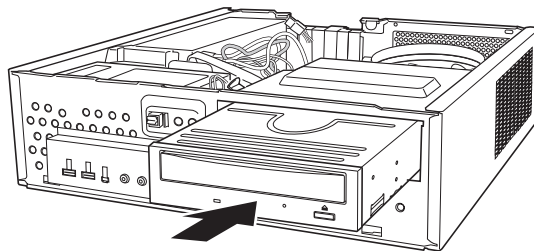
(2) 取り付ける光ディスクドライブにネジ（2本）を取り付けます。



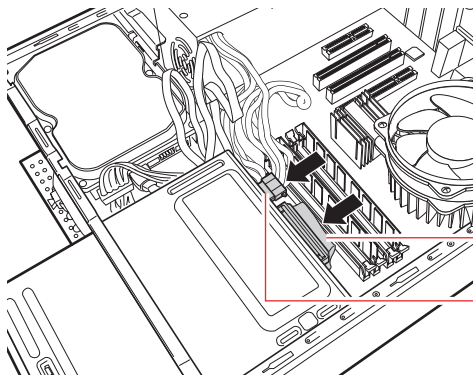
8 光ディスクドライブベイにドライブを取り付けます。

(1) 光ディスクドライブを押し込みます。

このとき光ディスクドライブを前面側に7cm程出しておきます。



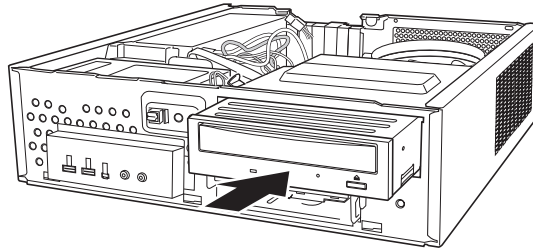
(2) 光ディスクドライブにケーブル類を取り付けます。



IDEケーブル

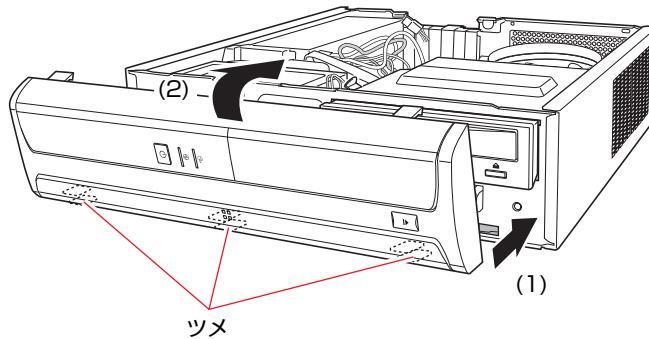
周辺機器用電源ケーブル

(3) ロックレバーが「カチッ」というまで光ディスクドライブを押し込みます。




9 フロントパネルを取り付けます。

- (1) フロントパネル下側の3つのツメを、本体フレームの穴に差し込みます。
 (2) フロントパネルを、カチッと音がするまで矢印の方向へ起こします。



10 リンクバーと本体カバーを取り付けます。

 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」

11 取り外したケーブル類を本機に接続します。

これで光ディスクドライブの交換作業は完了です。
 続けてp.149 「光ディスクドライブ交換後の作業」を行います。

▶光ディスクドライブ交換後の作業

光ディスクドライブの交換を行ったら、次の作業を行ってください。

●光ディスクドライブを交換した場合


光ディスクドライブによっては、ライティングソフトなどのソフトウェア、ドライバをインストールする必要があります。詳しくは、光ディスクドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

上記以外にも、光ディスクドライブによっては必要な作業がある場合があります。光ディスクドライブに添付のマニュアルをご覧になり、必要に応じて作業を行ってください。

▶HDDの取り付け・取り外し

作業を始める前にp.127 「作業時の注意」を必ずお読みください。
作業を行った後は、「HDDの取り付け・取り外し後の作業」を行ってください。

本機のHDDベイには、S-ATA仕様のHDDを2台まで装着することができます。

 p.145 「HDDの接続」



制限

本機では、Ultra ATA 仕様の HDD は使用できません。


HDDの取り付け

HDDの取り付け方法は、次のとおりです。

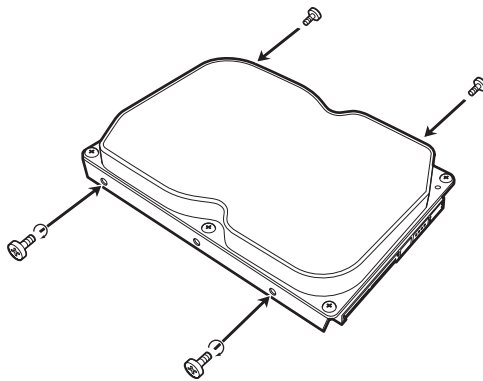


制限


HDD へのアクセス制限を設定している場合は、アクセス制限を解除した状態で HDD の増設・交換作業を行ってください。

 p.172 「Boot メニュー画面」－「Security」－「Hard Disk Protection」

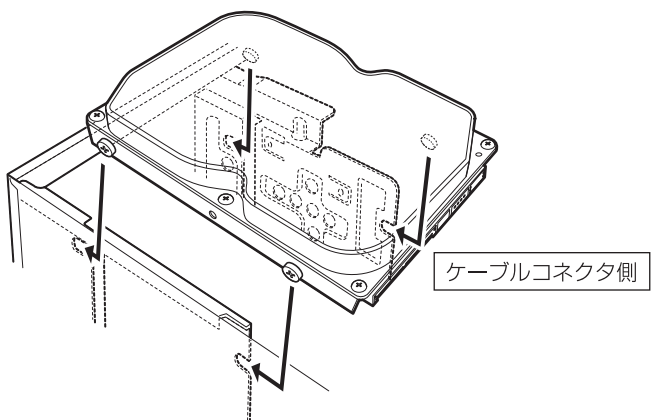
- 1 取り付けるHDDに、ネジを4本取り付けます。



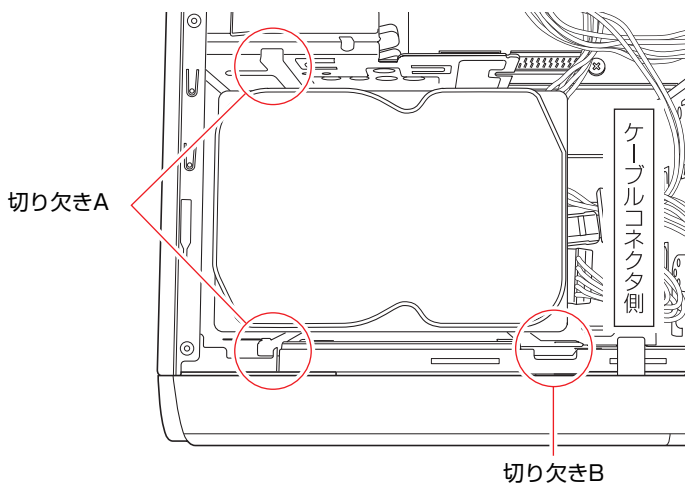
- 2 本機の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 3 本機に接続しているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 4 本体カバーとリンクバーを取り外します。

 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」

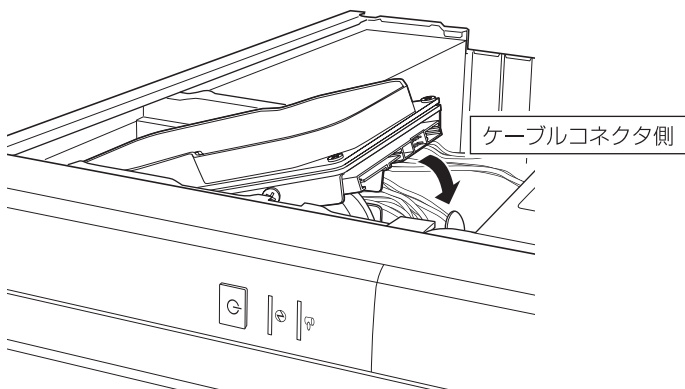
5 HDDを増設します。



(1) ケーブルコネクタ側の反対側のネジ2本を切り欠きAに通します。

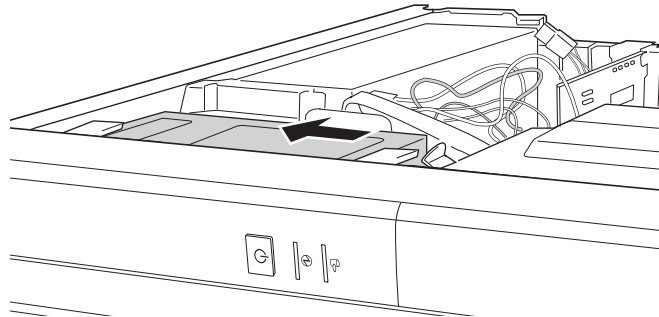


(2) ケーブルコネクタ側のネジを切り欠きBに通します。

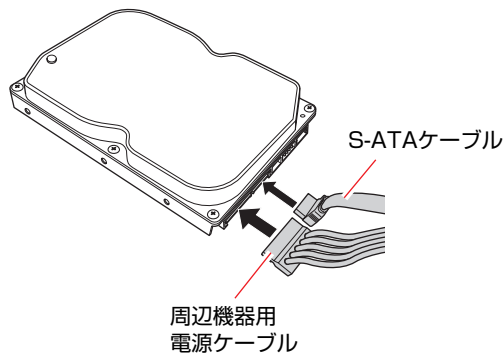


3


(3) HDDを水平にし、「カチッ」と音がするまで矢印の方向に押し込みます。



6 HDDに周辺機器用電源ケーブルとS-ATAケーブルを接続します。



7 リンクバーと本体カバーを取り付けます。

 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」

8 取り外したケーブル類を本機に接続します。

これでHDDの取り付け作業は完了です。


続けてp.154 「HDDの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

HDDの取り外し

HDDの取り外し方法は、次のとおりです。



● HDDへのアクセス制限を設定している場合は、アクセス制限を解除した状態でHDDを取り外してください。


 p.172 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Hard Disk Protection」

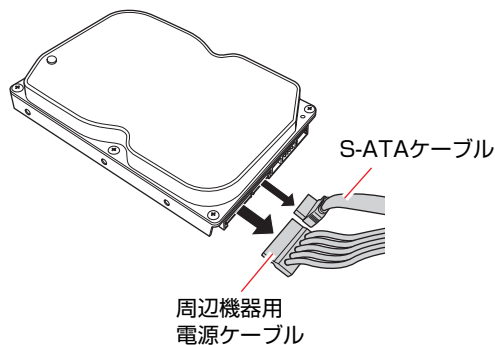
● RAIDを構成しているHDDを取り外す場合は、RAIDを削除してから行ってください。ただし、RAID使用時に破損したHDDを交換する場合は、RAIDの削除は不要です。

 p.74 「RAIDを削除する」

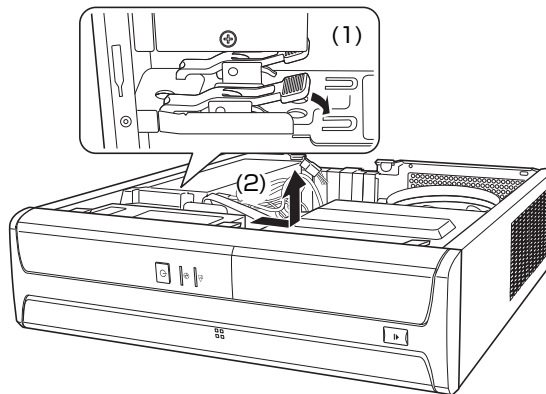
1 本機の電源を切ります。



作業直前まで本機が動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。

- 2 本機に接続しているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3 本体カバーとリンクバーを取り外します。
 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」
- 4 HDDから周辺機器用電源ケーブルとS-ATAケーブルを外します。



- 5 HDDを取り外します。
 - (1) HDDロックレバーを矢印の方向へ押します。
 - (2) HDDロックレバーを押したまま、HDDを矢印の方向へスライドさせて、持ち上げます。
 HDDのネジが、HDDロックレバーから外れるまでスライドさせ、持ち上げてください。



- 6 空いたドライブベイにほかのHDDを取り付ける場合は、HDDを取り付けます。
 p.150 「HDDの取り付け」
- 7 リンクバーと本体カバーを取り付けます。
 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」
- 8 取り外したケーブル類を本機に接続します。
 これでHDDの取り外し作業は完了です。
 続けてp.154 「HDDの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

▶HDDの取り付け・取り外し後の作業

HDDの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

- HDDを取り付けた場合

- 新しいHDDを取り付けた場合は、HDDの領域作成とフォーマットが必要です。RAIDを構成する場合は、HDDのフォーマットは必要ありません。



p.233 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

- RAIDを構成する場合は、次の手順を行ってください。



p.71 「RAIDの構成・削除」

- RAID使用時に破損したHDDを取り替えた場合は、RAIDの修復、またはRAIDの再構成を行ってください。



p.74 「HDDが破損したら（RAID使用時）」

- HDDを取り外した場合

- HDDを取り外し、そのままHDDを取り付けない場合は、使用していたS-ATAケーブルをメインボードから取り外し、大切に保管してください。

第4章 BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」	156
「BIOS Setupユーティリティの操作」	157
「BIOS Setupユーティリティの設定項目」	166

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。


- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- メインボード上の機能を有効/無効にする場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから、変更をしてください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されません。このメモリは、リチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、再起動したりしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。使用状況により異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.239 「リチウム電池の交換」



- 設定値を変更して、動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなった場合に備えて、必ず購入時の設定と変更後の設定値を記録しておいてください。
 p.174 「BIOSの設定値」
- 設定を変更後に、万一動作が不安定になった場合は、「Load Setup Defaults」(初期値に戻す)で、もとの値に戻すことができます。
 p.161 「設定値をもとに戻すには」
- 当社製以外のBIOSを使用すると、Windowsが正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外のBIOSへのアップグレードは、絶対に行わないでください。

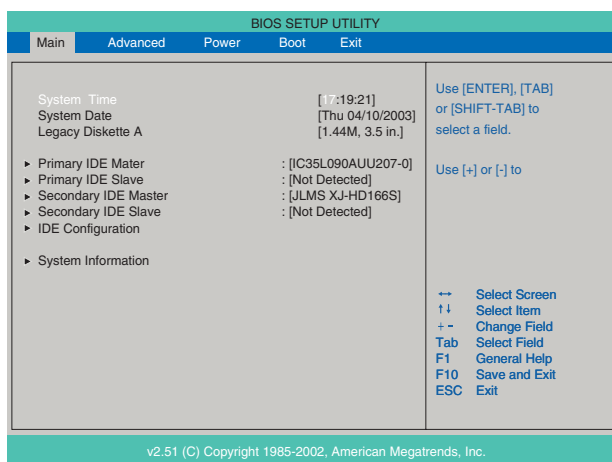
BIOS Setupユーティリティの操作

▶ 起動方法

コンピュータの電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。手順2では、すばやく **[Delete]** を押す必要があります。

BIOS Setupユーティリティの起動方法は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を入れます。**
すでに起動している場合は再起動します。
- 2 コンピュータの起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を押します。**
Windowsが起動してしまった場合は、Windowsを再起動し、再度 **[Delete]** を押してください。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**




BIOS Setupユーティリティ画面 (イメージ)

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合は、コンピュータの電源を入れると、次のメッセージが表示されることがあります。

CMOS Settings Wrong
Press F1 to run SETUP

このメッセージが表示されたら、**[F1]** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。起動後は、通常の場合、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

 p.165 「終了方法」

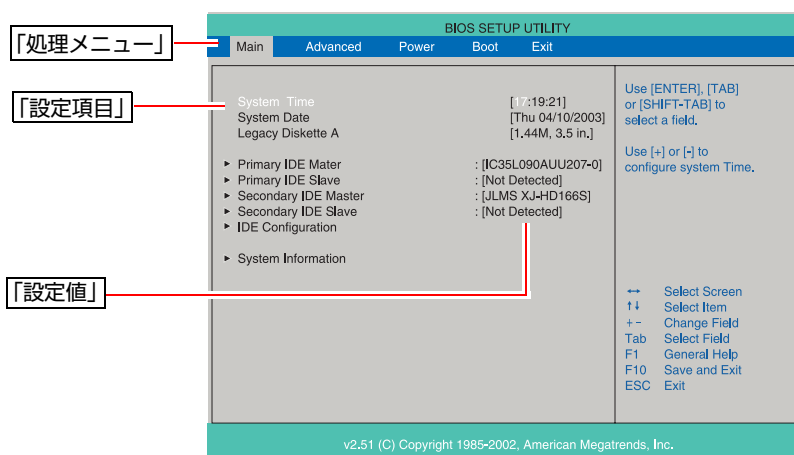
▶操作方法

操作の説明に使用している画面はイメージです。実際の画面内容とは異なります。

実際の各メニュー画面の設定項目は、p.166 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

画面の説明

BIOSセットアップユーティリティを起動すると、次の画面が表示されます。この画面で、設定値を変更することができます。



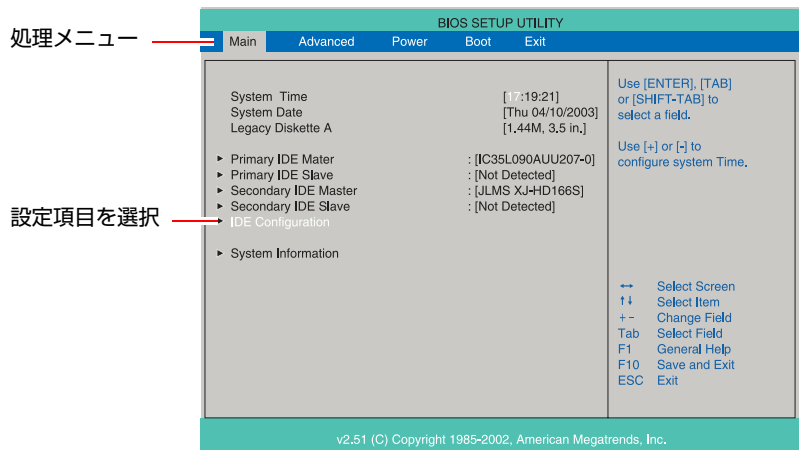
<メニュー画面>

設定値の変更方法

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。
 「BIOS Setupユーティリティ」の設定値を変更する方法は、次のとおりです。

1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。
 ↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

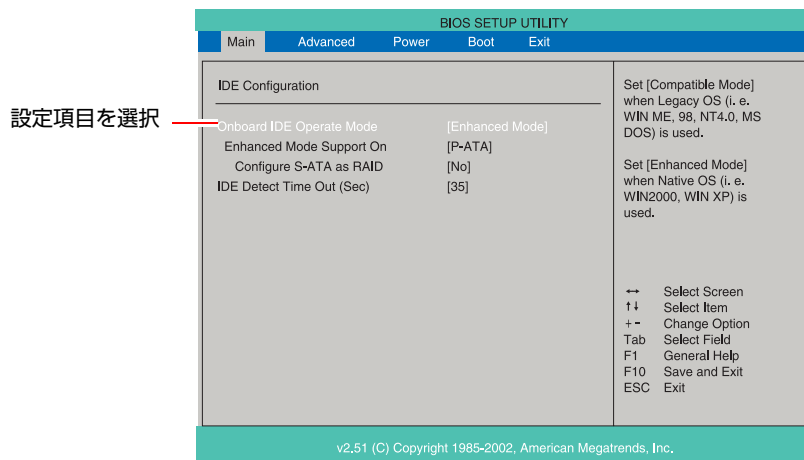


<メニュー画面>

<▶のある設定項目の場合>

▶のある設定項目の場合、← を押すとサブメニュー画面が表示されま

す。
 ↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

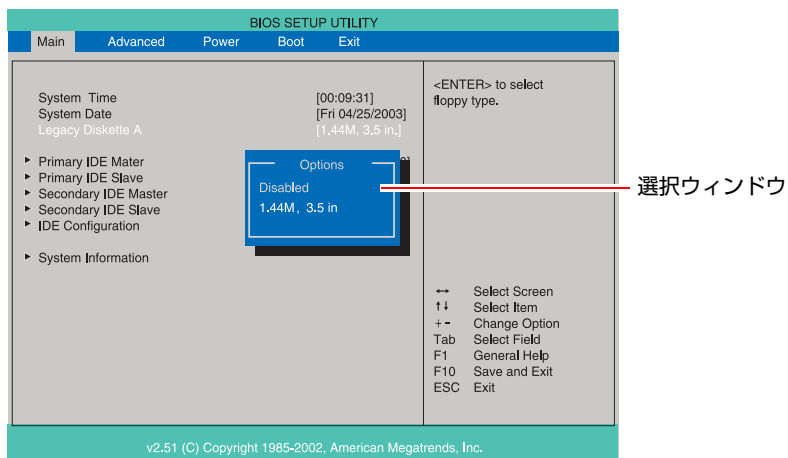


<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには **Esc** を押します。

2 設定値を変更します。

← を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し、← で決定します。



キー操作

キー	操作できる内容
F1	ヘルプを表示します。
Esc	<ul style="list-style-type: none"> ● 変更した内容を破棄し、終了するかを確認するメッセージを表示します。 ● 「サブメニュー画面」から「メニュー画面」に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none"> ● メニュー画面中の▶のある設定項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更できます。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

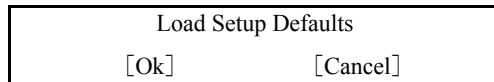
▶設定値をもとに戻すには

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一コンピュータの動作が不安定になってしまった場合などには、「BIOS Setupユーティリティ」の設定を前回保存した値や初期値に戻すことができます。

Load Setup Defaults（初期値に戻す）

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を初期値に戻す手順は、次のとおりです。

- 1 「BIOSセットアップユーティリティ」起動中に **[F5]** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **[OK]** を選択して、**[↵]** を押します。

Load Setup Defaults実行後の作業

次のような場合は、Load Setup Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

- セキュリティチップのセキュリティ機能を使用している場合
メインボード上のセキュリティチップのセキュリティ機能を有効にするため、「Boot」メニュー画面－「Security」－「TPM Function」－「Trusted Platform Module」を「Enabled」に設定します。
- RAID機能を使用している場合
「Main」メニュー画面－「SATA Configuration」－「Configure SATA as」を「RAID」に設定します。
- シリアルコネクタを搭載している場合
メインボード上のシリアルポートの機能を有効にするため、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Serial Port 1 Adress」を「3F8/IRQ4」に設定します。
- ネットワークボードを搭載している場合
メインボード上のネットワーク機能を無効にするため、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Onboard PCIE GbE LAN」を「Disabled」に設定します。

設定が終わったら、変更した内容を保存して終了します。




p.165 「Exit & Save Changes（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

「BIOS Setupユーティリティ」を終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 [Ok] を選択して、 を押します。

▶ Passwordの設定

本機のBIOSでパスワードを設定すると、BIOSやシステム、HDDへのアクセス時にパスワードが要求され、アクセスするユーザーを制限することができます。パスワードの設定は、「Bootメニュー画面」－「Security」で行います。

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password
コンピュータの管理者用のパスワードです。このパスワードでBIOSにログインした場合、BIOSのすべての項目を変更することができます。
- User Password
そのほかのユーザー用のパスワードです。このパスワードでBIOSにログインした場合は、BIOSで変更できる項目が制限されます。


アクセス制限の設定

Supervisor PasswordでBIOSにログインした場合のみ、アクセス制限の種類やHDDへのアクセス制限を設定することができます。

アクセス制限の種類

アクセス制限には次の2種類があります。


- Setup
BIOSへのアクセスを制限します。BIOS起動時にパスワード入力が必要です。
- Always
BIOS、システムへのアクセスを制限します。BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力が必要です。
アクセス制限の選択は、次の項目で行います。

 p.172 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Password Check」

HDDへのアクセス制限

Supervisor Passwordを設定すると、HDDへアクセスする際にパスワードの入力を要求して、HDDへのアクセスを制限することができます。アクセス制限したHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。

HDDへのアクセス制限は、次の項目で設定します。


 p.172 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Hard Disk Protection」




- パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。
登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。
- RAID構成時、HDDアクセス制限は使用できません。
- HDDを増設・交換する際は、HDDへのアクセス制限を解除した状態で行ってください。

パスワードの設定・変更


Supervisor Passwordおよび、User Passwordの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。


Enter Password:

- 2 パスワードを入力し、 を押します。

「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

Confirm Password:

- 4 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

- 5 パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。




万一、パスワードを忘れた場合は、p.242 「CMOS RAMの初期化」を実行します。ただし、アクセス制限したHDDは、パスワードの解除ができないため、使用できません。


登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

パスワードの削除

Supervisor PasswordおよびUser Passwordの削除方法は次のとおりです。
Supervisor Passwordを削除すると、User Passwordも同時に削除されます。


- 1 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.

[Ok]

- 3 [Ok] が選択された状態で  を押します。「Supervisor Password」または「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これでパスワードの削除は終了です。

▶終了方法

「BIOS Setupユーティリティ」の終了方法には、次の2つがあります。

Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit now?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard configuration changes and exit now ?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。「BIOS Setupユーティリティ」のメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面 : 日付、時間、HDDなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Power メニュー画面 : 省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態、セキュリティの設定などを行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

▶Mainメニュー画面

Mainメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

System Time (hh:mm:ss)		時刻を設定します。
System Date (mm:dd:yy)		日付を設定します。
SATA 1/SATA 2 ※「SATA Configuration」が「RAID」の場合は表示されません。	* Device	HDDの種類を表示します。
	* Vendor	HDDの型番を表示します。
	* Size	HDDの容量を表示します。
	* LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) をサポートしているかどうかを表示します。
	* Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	* PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	* Async DMA	IDE 装置のDMA 転送モードとチャンネルを表示します。
	* Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) をサポートしているかどうかを表示します。

SATA 1/SATA 2 ※「SATA Configuration」が「RAID」の場合は表示されません。	LBA / Large Mode	LBA (Logical Block Addressing) を使用するかどうかを表示します。 <u>Auto</u> : LBAを使用します。 Disabled: 使用しません。
	Block (Multi-Sector Transfer)	一度に何セクタ転送できるかを表示します。 Disabled: 使用しません。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な速度に設定します。
	PIO Mode	IDE 装置の転送モード (PIO) を設定します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4: 転送モードを設定します。
	DMA Mode	IDE装置のDMA転送モードを設定します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0/SWDMA1/SWDMA2/MWDMA0/MWDMA1/MWDMA2/UDMA0/UDMA1/UDMA2/UDMA3/UDMA4/UDMA5
	SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のまま使用します。
	32Bit Data Transfer	32Bitデータ転送を使用するかどうかを設定します。 <u>Disabled</u> : 使用しません。 Enabled: 使用します。
SATA Configuration	Configure SATA as	S-ATAをRAIDとして構成するかどうかを設定します。 <u>Standard IDE</u> : HDDを通常のまま使用します。 RAID : HDDをRAIDとして構成します。
System Information 本機の仕様を表示します。	AMI BIOS	BIOSの情報を表示します。
	* Version	BIOS のバージョンを表示します。
	* Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
	Processor	本機に搭載されているCPUの情報を表示します。
	* Type	本機に搭載されているCPUのタイプを自動的に表示します。
	* Speed	本機に搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
	* Count	本機に搭載されているCPUの数です。
	System Memory	本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。
	*Usable Size	本機で使用可能なメモリ容量を、起動時に自動的に計算して表示します。表示される容量は、搭載されたメモリ容量から、あらかじめ割り当てられているビデオメモリ容量 (最小8MB) を引いた値です。

▶ Advancedメニュー画面

Advancedメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	* Manufacturer	メーカーを表示します。
	* Brand String	型番を表示します。
	* Frequency	周波数を表示します。
	* FSB Speed	バススピードを表示します。
	* Cache L1	CPUのL1キャッシュ容量を表示します。
	* Cache L2	CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
	* Cache L3	CPUのL3キャッシュ容量を表示します。
	* Ratio Status	CPUクロックの設定を表示します。
	* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
	Hyper Threading Technology	ハイパースレディング機能の有効/無効を設定します。ハイパースレディング機能を持つプロセッサを搭載しているモデルにのみ表示されます。 <u>Enabled</u> : 有効にします。 <u>Disabled</u> : 無効にします。
Vanderpool Technology	Vanderpool Technology機能の有効/無効を設定します。Vanderpool Technology機能を持つプロセッサを搭載しているモデルにのみ表示されます。 <u>Enabled</u> : Vanderpool Technologyを有効にします。 <u>Disabled</u> : Vanderpool Technologyを無効にします。	
Onboard Graphic Configuration	DVMT Mode Select	初期値 [DVMT Mode] のままで使用します。
	DVMT/FIXED Memory	初期値 [128MB] のままで使用します。
Onboard Devices Configuration メインボード上のデバイスに関する設定を行います。	HD Audio Controller	メインボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。サウンドボード使用時は、[Disabled] に設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 <u>Disabled</u> : 使用しません。
	Onboard 1394 Controller	メインボード上のIEEE 1394機能を使用するかどうかを設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 <u>Disabled</u> : 使用しません。
	Onboard PCIE GbE LAN	メインボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。ネットワークボード使用時は、[Disabled] に設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 <u>Disabled</u> : 使用しません。

Onboard Devices Configuration メインボード上のデバイスに関する設定を行います。	LAN Option ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。「Onboard PCIE GbE LAN」を「Enabled」に設定すると、表示されます。 Disabled ：無効にします。 Enabled ：有効にします。 [Enabled] に設定すると、「Bootメニュー画面」－「Boot Device Priority」の「4th Boot Device」に表示されます。 RAID構成時は、「Enabled」に設定しても使用できません。
	IDE Controller	光ディスクドライブを使用するかどうかを設定します。 Enabled ：使用します。 Disabled ：使用しません。
	Serial Port1 Adress	シリアルポート1のアドレスとIRQ信号を設定します。 Disabled ：シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
	Parallel Port Adress	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled ：パラレルポートを使用しません。 378, 278, 3BC
	Parallel Port Mode	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal ：標準の設定です。 Bi-Directional ：EPP+ECPモードまたは双方向モードに設定します。 EPP ：EPPモードに設定します。 ECP ：ECPモードに設定します。
	EPP Version	「Parallel Port Mode」で[EPP]を選択すると表示されます。初期値 [1.9] のまま使用します。
	ECP Mode DMA Channel	「Parallel Port Mode」で[ECP]を選択すると表示されます。初期値 [DMA3] のまま使用します。
	Parallel Port IRQ	パラレルポートが使用するIRQを設定します。 IRQ7, IRQ5
USB Configuration USBコントローラの設定をします。	USB Function	初期値 [Enabled] のまま使用します。
	USB2.0 Controller	USBの転送速度を設定します。 Disabled ：USB1.1の転送速度で使用します。 Enabled ：USB2.0の転送速度で使用します。
	USB2.0 Controller Mode	初期値 [HiSpeed] のまま使用します。

▶Power メニュー画面

Powerメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

___は初期値


*は項目表示のみ

Suspend to RAM	スタンバイモードの設定をします。 Enabled : メモリ以外の電源が切れます。消費電力はほとんどありません。 Disabled : モニタなどの電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。
ACPI 2.0 Support	初期値 [No] のままで使用します。
ACPI APIC Support	初期値 [Enabled] のままで使用します。

APM Configuration 起動する方法や条件を設定します。	Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Last State : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。コンピュータを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
	Power On By RTC Alarm	コンピュータを指定した時間に起動する設定をします。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
	RTC Alarm Date	「Power On By RTC Alarm」で「Enabled」を設定した場合に表示されます。 起動する日を設定します。
	RTC Alarm Hour	「Power On By RTC Alarm」で「Enabled」を設定した場合に表示されます。 起動する時を設定します。
	RTC Alarm Minute	「Power On By RTC Alarm」で「Enabled」を設定した場合に表示されます。 起動する分を設定します。
	RTC Alarm Second	「Power On By RTC Alarm」で「Enabled」を設定した場合に表示されます。 起動する秒を設定します。
	Power On By PCI Devices	電源切断時、PCI接続のネットワークから起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。
	Power On By PCIE Devices	電源切断時、PCI Express接続のネットワークから起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。

▶ Bootメニュー画面

Bootメニュー画面には、大別すると、システムの起動 (Boot) に関する項目とSecurityの項目があります。Security項目のパスワードの設定方法については、「Passwordの設定」を参照してください。




 p.162 「Passwordの設定」

Bootメニュー画面の設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

*は項目表示のみ

システムを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は「Removable Dev.」(USB FDDなど)です。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は搭載しているHDDの型番が表示されます。
	4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示されます。	ネットワークから起動する場合に使用します。 (リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」の「LAN Option ROM」を「Enabled」に設定し、再起動します。)
Hard Disk Drives	1st Drive	異なる仕様のHDDを2台以上装着すると型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。
	2nd Drive	
Removable Drives	1st Drive	外付けの記憶装置 (USB FDD など) を接続すると型番を自動的に検出して表示します。接続した記憶装置を使用するかどうかを設定します。 外付けの記憶装置：外付け記憶装置を使用します。 Disabled：外付け記憶装置を使用しません。
	2nd Drive	
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	コンピュータ起動時に、ロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled：表示しません。 <u>Enabled</u> ：表示します。
	Bootup Num-Lock	DOS起動時のNumLockの状態を設定します。 Off：NumLockが押されていない状態にします。 <u>On</u> ：NumLockが押された状態にします。

Security システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。	*Supervisor Password/User Password	Supervisor Password と User Password が設定されているかどうかを表示します。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。	
	Change Supervisor Password	Supervisor Passwordを設定します。  p.163 「パスワードの設定・変更」	
	User Access Level	User PasswordでBIOSにログインしたときの制限を設定します。 No Access : BIOSにアクセスできません。 View Only : BIOSを見ることのみ許可されます。 Limited : 一部の設定変更のみ許可されます。 Full Access : Supervisorと同等の権限を許可されます。	
	Change User Password	User Passwordを設定します。  p.163 「パスワードの設定・変更」	
	Password Check	アクセス制限の種類を選択します。 <u>Setup</u> : BIOSへのアクセスを制限します。BIOS起動時にパスワード入力を要求します。 Always: BIOS、システムへのアクセスを制限します。BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。	
	TPM Function	TPM LPC Decode	セキュリティチップ (TPM) を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
		Trusted Platform Module	セキュリティチップ (TPM) のセキュリティ機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
		Clear Trusted Platform Module	「TPM Platform Module」を「Enabled」にすると表示されます。セキュリティチップ (TPM) に保存されている情報を初期化します。初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。セキュリティチップ (TPM) の初期化は、十分に注意し、お客様の責任において行ってください。 初期化する場合は、  を押し、確認画面が表示されたら [Ok] を選択します。情報が初期化され、コンピュータが再起動します。
Hard Disk Protection	HDDへのアクセス制限の有効・無効を設定します。アクセス制限を有効に設定したHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。 有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 Disabled : HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled : HDDへのアクセスを制限します。		
	※Supervisor Passwordを設定すると、設定可能になります。		

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目		購入時の設定	変更内容
SATA 1/ SATA 2	LBA/Large Mode	Disabled Auto	Disabled Auto
	PIO Mode	Auto 0 1 2 3 4	Auto 0 1 2 3 4
	DMA Mode	Auto SWDMA0 SWDMA1 SWDMA2 MWDMA0 MWDMA1 MWDMA2 UMDA0 UMDA1 UMDA2 UMDA3 UMDA4 UMDA5	Auto SWDMA0 SWDMA1 SWDMA2 MWDMA0 MWDMA1 MWDMA2 UMDA0 UMDA1 UMDA2 UMDA3 UMDA4 UMDA5
	32Bit Date Transfer	Disabled Enabled	Disabled Enabled
SATA Configuration	Configure SATA as	Standard IDE RAID	Standard IDE RAID

Advanced メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Hyper Threading Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Vanderpool Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard Devices Configuration	HD Audio Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard 1394 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard PCIE GbE LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	LAN Option ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	IDE Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Serial Port1 Address	Disabled	3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3	Disabled	3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	Disabled	378 278 3BC	Disabled	378 278 3BC
	Parallel Port Mode	Normal EPP	Bi-Directional ECP	Normal EPP	Bi-Directional ECP
	Parallel Port IRQ	IRQ7	IRQ5	IRQ7	IRQ5
USB Configuration	USB 2.0 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Suspend to RAM		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On	Last State	Power Off	Power On	Last State
	Power On By RTC Alarm	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Power On By PCIE Devices	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容			
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled		
	Bootup Num-Lock	Off	On		Off	On		
Security	Supervisor password	Not Installed	Installed		Not Installed	Installed		
	User password	Not Installed	Installed		Not Installed	Installed		
	Password Check	Setup	Always		Setup	Always		
	TPM Function	TPM LPC Decode	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
		Trusted Platform Module	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Hard Disk Protection	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled			

第5章 ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」	178
「ソフトウェアの再インストールを行う」	179

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。再インストールは、「リカバリ」ともいいます。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は行う必要はありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

▶重要事項

再インストールをする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールして、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入してウイルス定義ファイルの更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと、更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

 『セキュリティソフトウェアをご使用前に』


最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

マニュアルびゅうわのバックアップ

電子マニュアル閲覧ツール「マニュアルびゅうわ」は、再インストールをすると消えてしまいます。

再インストールの前に、必ずCドライブの「お知らせ」フォルダをバックアップしてください。

 p.225 「データのバックアップ」

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

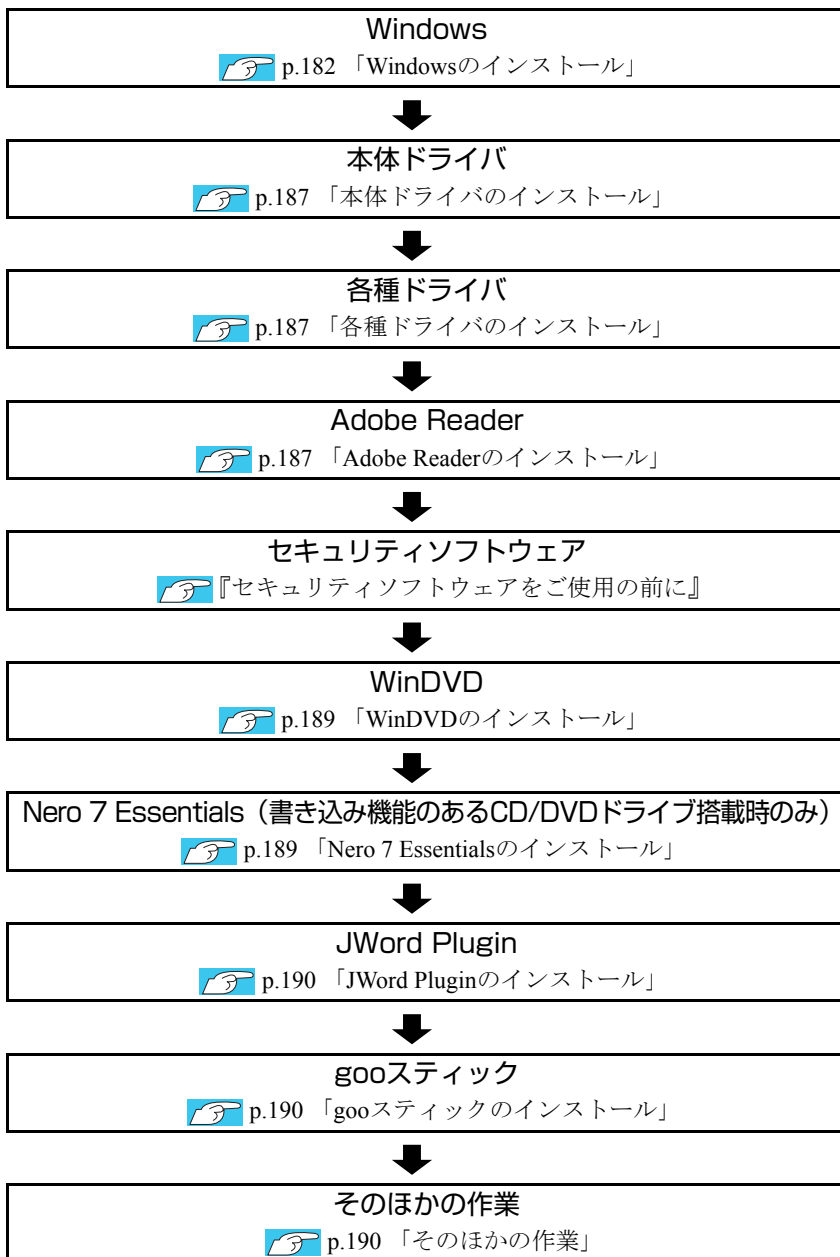
▶必要なメディア

本機では、次のメディアに登録されているデータを使用して、再インストールを行います。

- Windows XプリカバリCD
Windows、RAIDドライバが登録されているCD-ROMです。
- ドライバCD
各種デバイスドライバ、Adobe Reader、セキュリティソフトウェアなどが登録されているCD-ROMです。
- WinDVD CD-ROM
DVD VIDEOを再生するソフトウェアが登録されているCD-ROMです。
- Nero 7 Essentials CD-ROM (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ)
光ディスクドライブのライティングソフトウェアが登録されているCD-ROMです。
- そのほか必要なメディア
お使いのシステム構成によって、必要なメディアは異なります。

▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。



▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

コンピュータの管理者 (Administrator) 権限でログオン

インストール作業は、「コンピュータの管理者」(Administrator) 権限 (または同等の権限を持つユーザーアカウント) でログオンして行ってください。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールでパーティションをフォーマットする際は、必ずNTFSファイルシステムを使用してください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ : FDD (オプションのUSB FDDを接続した場合)

Cドライブ : HDD


Dドライブ : 光ディスクドライブ

Windows CD-ROMを要求されたら

ドライブ類のインストール時に「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。この場合は、「Windows XPリカバリCD」をセットしてください。

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと設定した事項が元に戻ってしまったり、データが消去されたりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

 p.183 「バックアップを取る」

「QuickTech for EPSON DIRECT」画面が表示されたら

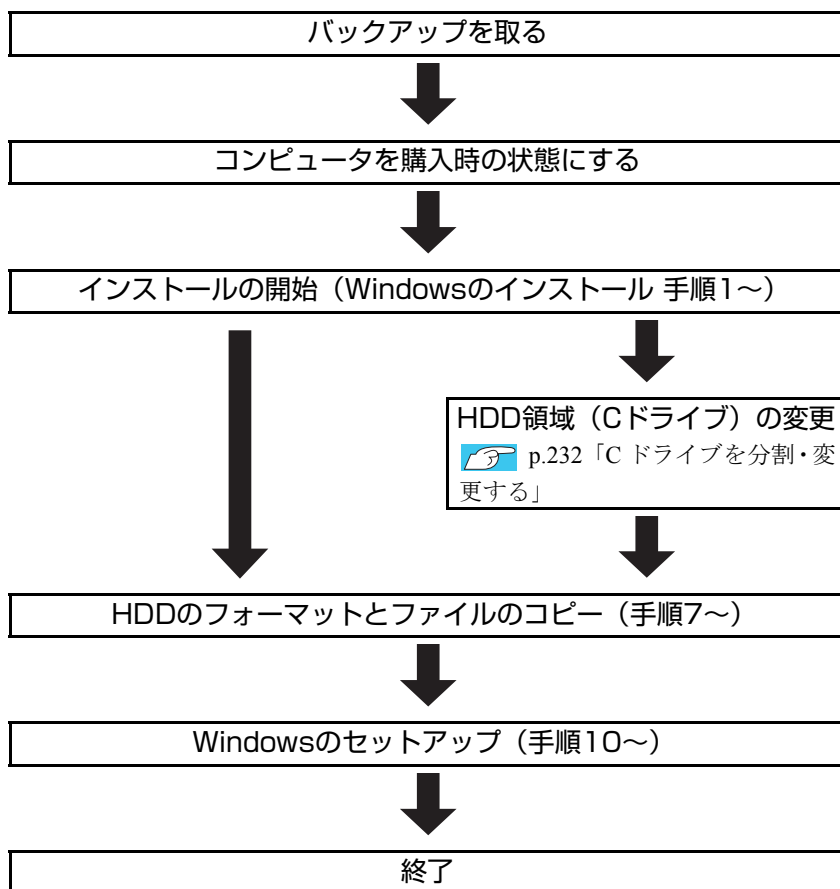
ドライブCDを本機にセットした状態で再起動すると、システム診断ツールの「QuickTech for EPSON DIRECT」画面が表示される場合があります。

この場合は、ドライブCDを取り出してから **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して、再起動を行ってください。

▶Windowsのインストール

インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは、次のとおりです。
インストール作業は、p.183 「Windowsをインストールする」以降の手順に従って行ってください。



HDD領域 (Cドライブ) を変更するには

Windowsのインストール中に、Cドライブ (Windowsがインストールされている領域) のサイズを変更したり、分割したりすることができます。

HDD領域の変更や、分割についての詳しい説明は、p.229 「HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成」をご覧ください。

▶ Windowsをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールをすると消えてしまいます。必要に応じてバックアップしてください。

- マニュアルびゅう


Cドライブの「お知らせ」フォルダをほかのメディアなどにコピーしておいてください。

- ネットワークやモデムの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。

- Internet Explorerの「お気に入り」・Outlook Expressの「アドレス帳」「メールデータ」


詳しいバックアップ方法を、次で紹介しています。

 p.225 「データのバックアップ」

このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- セキュリティチップユーティリティの設定

セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップをしてください。


 『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』 - 「Windowsを再インストールする前に」

- 重要なデータ

ほかのメディアなどにコピーしておいてください。

HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ (HDD領域) のデータのバックアップをすることをおすすめします。

詳しいバックアップ方法を、次で紹介しています。

 p.225 「データのバックアップ」

コンピュータを購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。コンピュータを購入時の状態に戻してから、再インストールをしてください。

Windowsのインストール

Windowsのインストールをすると、RAIDドライバも自動的にインストールされます。

Windowsのインストールは、次の手順で行います。

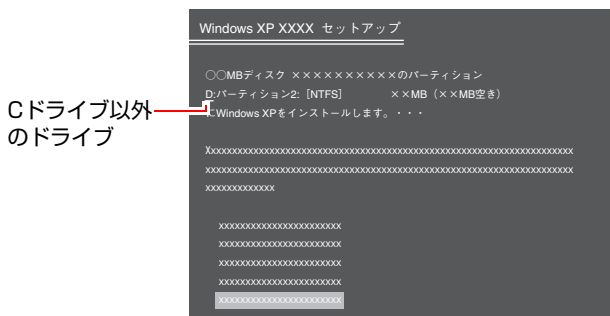
- 1 コンピュータの電源を入れ、Windowsが起動したら「Windows XPリカバリCD」を光ディスクドライブにセットします。

「実行する操作の選択」画面が表示されたら、画面左下の「終了」をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。

2 [スタート] - [終了オプション] - [再起動] をクリックして、コンピュータを再起動します。

3 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、**[↵]** を押します。次の画面が表示されるまで少し時間がかかります。
一定時間内に **[↵]** を押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。

4 HDD を分割している場合は、次の画面が表示されます。この場合は、必ず **[Esc]** を押します。次の画面が表示されない場合は、手順5へ進みます。



上の画面では必ず **[Esc]** を押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。**[↵]** を押してしまうと、Cドライブ以外のドライブにWindowsがインストールされ、そのドライブに登録されているデータはすべて消えてしまいます。注意してください。

5 「次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。・・・」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

<領域変更を行わない場合（通常）>

Cドライブが選択されていることを確認し、**[↵]** を押します。

<領域変更を行う場合>

p.230 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。



6 HDDの領域が複数ある場合、「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示されたら、**[C]** を押します。


HDDの領域が1つの場合は、上記は表示されませんので、手順7に進みます。

7 「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して、**[↵]** を押します。


「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択すると、CドライブにWindowsが追加登録されてしまいます（Windowsが複数になります）ので注意してください。

8 「警告：このドライブをフォーマットすると・・・」と表示されたら、**[F]** を押します。


- 9** フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。
- 10** 「Windowsセットアップウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 11** 「ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定し、[次へ] をクリックします。
「同意しません」を選択すると、インストールが中止されます。
- 12** 「地域と言語のオプション」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 13** 「ソフトウェアの個人用設定」と表示されたら、「名前」と「組織名」を入力し、[次へ] をクリックします。
「名前」は必ず入力してください。
- 14** 「コンピュータ名とAdministratorのパスワード」と表示されたら、必要な項目を入力して、[次へ]をクリックします。
 p.45 「セットアップ中に入力する項目について」
- 15** 「日付と時刻の設定」と表示されたら、表示内容を確認して、[次へ] をクリックします。
コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- 16** 「ワークグループまたはドメイン名」と表示されたら、必要な項目を入力して、[次へ] をクリックします。
- ネットワークに接続する場合
「ワークグループ」または「ドメイン名」を入力します。
 - ネットワークに接続しない場合
「このコンピュータはネットワーク上にはないか…」に任意の英数字（例：「WORKGROUP」など）を入力する必要があります。
- Windows XP Home Editionをお使いの場合や、購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順へ進みます。
- 17** 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 18** 「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 19** 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下のをクリックします。

- 20** 「コンピュータを保護してください」と表示されたら、自動更新を有効にするかを選択し、画面右下のをクリックします。


インターネットに接続している環境の場合は、自動更新を有効にしてください。

- 21** 「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下にある (省略) をクリックします。


購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

- 22** 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けて、をクリックします。

購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

- 23** 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力して、をクリックします。

ユーザー名を少なくとも1つ入力してください。


- 24** 「設定が完了しました」と表示されたら、をクリックします。

- 25** デスクトップ画面が表示されたら、「Windows XPリカバリCD」を取り出します。

これでWindowsのインストールは終了です。

- 26** 手順5でHDD領域 (Cドライブ) を変更した場合は、「未使用の領域」に領域 (パーティション) の作成を行います。

領域 (パーティション) の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行っても構いません。

 p.233 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

▶本体ドライバのインストール

本機のデバイスドライバ類を、一括してインストールします。
インストール手順は、次のとおりです。

- 1** 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2** 表示された項目から「インストール」をクリックします。
- 3** 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[OK]をクリックします。
デバイスドライバのインストールが開始されます。インストールには数分かかります。
- 4** 「インストールが完了しました」と表示されたら、[OK]をクリックします。
- 5** 「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストールがすべて正常終了していることを確認し、[PC再起動]をクリックします。
クリック後は、素早くドライバCDを取り出してください。再起動後にシステム診断ツールの「QuickTech for EPSON DIRECT」画面が表示された場合は、次をご覧ください。



p.181 「QuickTech for EPSON DIRECT」画面が表示されたら

これで本体ドライバのインストールは終了です。

▶各種ドライバのインストール

「一括インストール」ではインストールできないオプション製品（プリンタなど）や、拡張ボード（ビデオボードなど）のドライバをインストールします。インストールにはオプション製品や、拡張ボードなどに添付のディスクが必要です。インストール方法は、オプション製品や拡張ボードに添付のマニュアルをご覧ください。

▶Adobe Readerのインストール

PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェア「Adobe Reader」のインストールとセットアップを行います。

インストール

「Adobe Reader」のインストールは、次の手順で行います。

- 1** 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2** 表示された項目から「Adobe Reader」をクリックします。
- 3** 「Adobe Reader…セットアップ」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 4** 「Adobe Reader…-Japaneseのセットアップへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5** 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6** 「プログラムをインストールする準備ができました・・・」と表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 7** 「セットアップの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
続いて「Adobe Reader」のセットアップを行います。

セットアップ

インストールが終了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップは、次の手順で行います。

- 1** デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「Adobe Reader 使用許諾契約書」画面が表示されたら、「言語を選択」が「日本語」になっていることを確認します。
- 3** 「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。
同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、「Adobe Reader」は使用できません。
- 4** 「Adobe Reader」が起動します。
以上で、「Adobe Reader」のセットアップは終了です。

「Adobe Reader」では、起動時に、新しい機能の追加などを自動的に行う「重要なアップデートの自動化」画面が表示されることがあります。この場合は、「Adobe Reader」を最新に保つために、[はい] をクリックします。「重要なアップデートの自動化」を行うには、インターネットに接続できる環境が必要です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。本機に添付の『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

▶WinDVDのインストール

WinDVDのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「WinDVD CD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。
正しくセットされると自動的に「WinDVD Setupへようこそ」画面が表示されます。
表示されない場合は、「マイコンピュータ」－「CD-ROM」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「WinDVDセットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶Nero 7 Essentialsのインストール

Nero 7 Essentialsは、書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ添付されています。

Nero 7 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。

Nero 7 Essentialsをインストールすると、InCDもインストールされます。

- 1 「Nero 7 Essentials CD-ROM」を光ディスクドライブにセットします。
正しくセットされると、自動的に「Neroマルチインストーラ」画面が表示されます。
表示されない場合は、「マイコンピュータ」－「CD-ROM」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 7 Essentials]をクリックします。
- 3 「Nero 7 Essentialsインストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

JWord Pluginのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から、「JWord Plugin」をクリックします。
- 3 「JWord プラグイン セットアップ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶gooスティックのインストール

gooスティックのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から、「gooスティック」をクリックします。
- 3 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。これで、gooスティックのインストールは終了です。

▶そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

 p.229 「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」

セキュリティチップユーティリティのインストール


セキュリティチップ（TPM）のセキュリティ機能を使用する場合は、BIOSの設定を変更し、セキュリティチップユーティリティをインストールする必要があります。詳しくは、本機に添付の『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』をご覧ください。

フィッシング対策ソフトウェアのインストール

フィッシング対策ソフトウェア「PhishWall」を使用する場合は、「PhishWall」のインストールを行います。インストール方法については、本機に添付の『PhishWall取扱説明書』をご覧ください。

バックアップしたデータや設定の復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータや設定を、元に戻します。

- マニュアルびゅうの復元
バックアップ先のメディアなどから、「お知らせ」フォルダをCドライブにコピーします。
- モデムの設定
FAXモデムボードの取扱説明書をご覧ください。
- ネットワークの設定
ネットワーク管理者に確認してください。
- Internet Explorer、Outlook Expressの設定の復元
復元方法は、次で紹介しています。
 p.225 「データのバックアップ」
- 重要なデータ
バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

そのほかのソフトウェアのインストール

そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法については、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

Windows Update


再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。

Windowsの再インストール後にはじめてインターネットに接続する際は、必ず手動で「Windows Update」を行ってください。

 p.106 「Windows Update」

DEP機能の設定

DEP機能で、セキュリティを強化する設定をしていた場合は、再度設定を行います。

 p.123 「さらにセキュリティを強化する」

第6章 こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。


「トラブルが発生したら」	194
「困ったときに」	195
「トラブル時に役立つ機能」	219
「警告メッセージが表示されたら」	221

トラブルが発生したら

本機ご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法をご確認ください。

- 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

 p.195 「困ったときに」

- とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。



「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。



トラブルが起きた場合の対処の流れ

起こったトラブルに関する項目をクリックします。
トラブルの詳細が表示されたら、詳細項目をクリックし、対処方法を確認します。

参考

サポート・サービスのご案内

別冊子『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

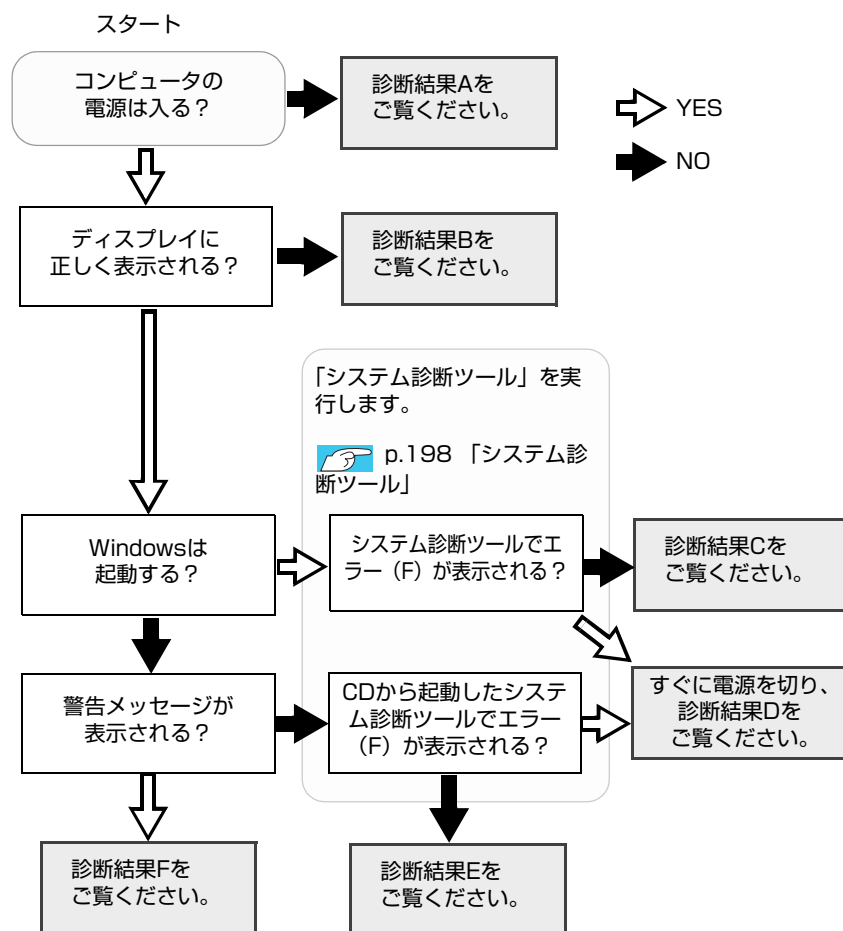
困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。

不具合一覧

- p.196 「コンピュータが起動できない場合」
- p.198 「システム診断ツール」
- p.199 「コンピュータ本体の不具合 (CPU、メインボード)」
- p.204 「インストール時の不具合」
- p.205 「省電力機能に関する不具合」
- p.206 「キーボードの不具合」
- p.207 「マウスの不具合」
- p.207 「ディスプレイ機能の不具合」
- p.209 「HDDの不具合」
- p.210 「光ディスクドライブの不具合」
- p.213 「ネットワークの不具合」
- p.214 「ソフトウェアの不具合」
- p.216 「メモリの不具合」
- p.217 「マルチカードリーダーの不具合」
- p.217 「拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合」
- p.218 「スピーカ (サウンド) の不具合」
- p.218 「セキュリティチップ (TPM) のセキュリティ機能の不具合」

▶コンピュータが起動できない場合

Windowsが起動しない、あるいはエラーが表示されるなど、本機の動作が不安定になり困ったときは、次の診断表をご覧ください。各問いにお答えいただき、たどり着いた診断結果の指示に従ってください。



診断結果A

電源供給に不具合が生じている可能性があります。本体の電源コードや各周辺機器用電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

接続に問題ない場合は、コンピュータ本体に問題がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

診断結果B

ディスプレイまたはコンピュータ本体からの出力に不具合が生じている可能性があります。次の項目を確認してください。


- ディスプレイの電源やケーブルの接続
- コンピュータのディスプレイ出力先

上記の項目に問題がない場合は、ディスプレイまたは本体に問題がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。


診断結果C

ハードウェアに不具合が見当たらないため、Windowsやソフトウェアに不具合が生じている可能性があります。

「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。画面の指示に従ってください。

 p.194 「とらぶる解決ナビ」

「システムの復元」を行うことで不具合が回避できる場合があります。次をご覧ください。「システムの復元」を行ってみてください。

 p.219 「システムの復元」

診断結果D


ハードウェアに不具合が生じています。「システム診断ツール」にてエラー (F) が表示されたハードウェアに対して、次のように対応してください。


<Windowsが起動する場合>


Windowsから「システム診断」を行った場合は、「システム診断ツール」のヘルプをご覧ください。ヘルプには、エラー (F) が表示されたハードウェアごとに対処方法が記載されています。ヘルプの記載の指示に従ってください。


<Windowsが起動しない場合>

「ドライバCD」から「システム診断」を行った場合は、エラー (F) が表示されているハードウェアのページをご覧ください。エラーの原因によっては、記載内容を確認することにより改善される場合があります。改善されない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.199 「コンピュータ本体の不具合 (CPU、メインボード)」


 p.209 「HDDの不具合」

 p.217 「拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合」

 p.219 「トラブル時に役立つ機能」

診断結果E


コンピュータ本体に不具合が生じている可能性があります。
周辺機器の接続が正しくされているか確認し、下記の参照ページをご覧ください。

 p.199 「コンピュータ本体の不具合（CPU、メインボード）」

上記の参照ページをご覧になっても解決できない場合は、コンピュータの電源を切り、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

診断結果F

コンピュータ本体による自己診断テストの結果が表示されています。下記の参照ページをご覧になり、警告メッセージに対する指示に従ってください。

 p.221 「警告メッセージが表示されたら」

▶システム診断ツール

今まで使っていたドライブやメモリなどをシステムが認識しない、Windowsが起動しないなど、故障かな？と思ったら、システムの診断を行います。システムの診断は、本機に添付の「システム診断ツール」で行います。

システム診断ツールの起動

「システム診断ツール」には、Windowsを起動できない場合にCDから起動する診断ツールと、Windowsを起動できる場合にWindows上で診断する診断ツールがあります。

Windowsを起動できない場合

本機に添付の「ドライブCD」を光ディスクドライブにセットし、本機を起動します。システム診断ツールが起動し、自動的に診断を開始します。診断が終了したら、光ディスクドライブから「ドライブCD」を取り出し、電源を切ります。診断は、USB機器を接続した状態で行ってください。USB機器が接続されていないと、USBコネクタの動作確認を行うことができないため、[USB]項目がエラーで表示されます。

Windowsを起動できる場合

デスクトップ上の「システム診断ツール」アイコンをダブルクリックします。「システム診断ツール」画面が表示されたら、[診断開始]をクリックします。詳細は、システム診断ツールのヘルプをご覧ください。

▶コンピュータ本体の不具合（CPU、メインボード）



電源を切ってから、もう一度入れなおす場合には、20 秒程度の間隔を空けてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなる場合があります。

現象

システム診断ツールで、CPUにエラー（F）が表示される。

確認と対処

- 本機に搭載された CPU に、故障などの障害が発生している可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

システム診断ツールで、メインボードにエラー（F）が表示される。


確認と対処

- チップセットドライバが正常に動作していない可能性があります。「チップセットドライバ」を再インストールした後、再度「システム診断ツール」を実行してください。
「チップセットドライバ」の再インストール手順は、次のとおりです。
 - (1) 「ドライバCD」を光ディスクドライブにセットします。正しくセットされると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
 - (2) 表示された項目から「項目別インストール」をクリックします。
 - (3) 「ドライバ・ソフトウェアのインストールと削除」画面が表示されたら、「チップセットドライバ」にチェックを付けて [インストール] をクリックします。
 - (4) 「ドライバ・ソフトウェアのインストール確認」画面が表示されたら、確認画面に「チップセットドライバ」が表示されているのを確認し、[インストール開始] をクリックします。
 - (5) 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[OK] をクリックします。
以降は画面の指示に従ってください。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。


確認と対処

- 電源コードが正しく接続されているか確認します。
 p.32 「コンピュータの設置」
- 電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。
- 電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象


起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。




確認と対処

- 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。
- USB HDDなどの大容量記憶装置を接続したまま、コンピュータの電源を入れると、Windowsが起動するまでに5分ほど時間がかかる場合があります。この場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で「大容量記憶装置」の順番を「Windowsの入っているHDD」より下に設定してください。
 p.172 「Bootメニュー画面」
- コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。

CMOS Settings Wrong
Press F1 to run SETUP

このメッセージが表示されたら、**F1**を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。起動後は、通常の場合、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

 p.157 「BIOS Setupユーティリティの操作」




- 起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
 p.221 「警告メッセージが表示されたら」
- スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しなくなります。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。
- BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。
 p.157 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 「BIOS Setupユーティリティ」の値を初期値に戻しても問題が解決しない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。
 p.242 「CMOS RAMの初期化」
- 警告音（ビープ音）が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストで異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter Password:

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。
 p.162 「Passwordの設定」
- パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。
 p.60 「キーロック表示ランプ」

- パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.242 「CMOS RAMの初期化」

強制的に解除した場合、BIOSの設定が初期化されてしまい、BIOSを再度設定する必要があります。「BIOSの設定値」に変更内容を記入している場合は、「BIOSの設定値」をご覧になり、設定してください。

 p.155 「BIOSの設定」


現象

起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsが起動しない。

- DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- Operating system not found

確認と対処

- HDDを増設したあと起動しなくなった場合には、HDDが正しく装着されているか確認してください。

 p.143 「ドライブ装置の接続」

- システムが登録されていないFDをUSB FDDにセットしている場合は、FDを抜いてください。

- メモリカードをスロットにセットしていたり、USBフラッシュメモリなどの周辺機器をUSBコネクタに接続していたりする場合は、一旦電源を切って周辺機器を取り外してから、再度電源を入れてください。

現象

ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処

- タスクマネージャで応答のないプログラムを終了させます。
応答のないプログラムを終了させる手順は、次をご覧ください。

 p.56 「ハングアップしたときは」

- 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再度起動してください。

- 電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。このあと、20秒程待つてから、電源を入れなおします。電源を入れても起動しない場合は、本機背面の電源コードを抜いて、1分程待つてから差しなおしてください。

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。



p.239 「リチウム電池の交換」

現象

起動時にWindowsを選択する画面が表示される（Windowsが2つになってしまっている）。

確認と対処

- Windowsの再インストールの際に手順を誤ったと考えられます。再度、手順どおりにWindowsの再インストールを行ってください。ポイントとなる手順は、次のとおりです。
 - p.183 「Windowsのインストール」の手順4では必ず **Esc** を押す。
 - p.183 「Windowsのインストール」の手順5、p.230 「Cドライブを分割・変更する」の手順1では必ずCドライブを選択する（Cドライブ以外にWindowsが入ってしまっている場合は、そのドライブをフォーマットする）。
 - p.183 「Windowsのインストール」の手順7、p.230 「Cドライブを分割・変更する」の手順7では必ず「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択する。

▶インストール時の不具合

現象

インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書では、インストール手順中の光ディスクドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。光ディスクドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。「マイコンピュータ」で光ディスクドライブのドライブレターを確認してください。
- 本書の手順は、p.20 「本製品の仕様とカスタマイズについて」で記載している製品仕様にインストールを行うことを前提に説明しています。オプションの拡張ボードや周辺機器を増設している場合は、手順が異なることがあります。各機器に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。
- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows XPリカバリCDを光ディスクドライブにセットしてもWindowsの再インストールが開始されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブの起動順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。



 p.172 「Bootメニュー画面」

▶省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない。

確認と対処



- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- 「BIOS Setupユーティリティ」の「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」を「Disabled」に設定してください。
 p.170 「Power メニュー画面」
- スタンバイを実行しているときや、休止状態のときは、キーボードやマウスの操作では、省電力モードから復帰しません。電源スイッチを押して本機を復帰させてください。
 p.120 「省電力モードから復帰する」
- 省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。


▶キーボードの不具合

現象

数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処

- 数値キーは  の状態により機能が変わります。 を押して、オンの状態にします。


 p.60 「キーロック表示ランプ」

現象


どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、本機の電源を入れる前に行ってください。

 p.32 「コンピュータの設置」

- マウスを操作してみてください。マウスで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。

 p.56 「再起動」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。


▶マウスの不具合

現象


マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。PS/2接続のマウスは、本機の電源を入れる前にPS/2コネクタへ接続してください。

 p.32 「コンピュータの設置」

- キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。

 p.56 「再起動」

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

- 表面が反射する場所、または表面がざらざらしているような場所で使用していないか確認してください。マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。


▶ディスプレイ機能の不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。

確認と対処



- ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- ディスプレイのケーブルがコンピュータに正しく接続されているか確認します。
ビデオボード装着時は、ビデオボードに接続されているか確認してください。
 p.32 「コンピュータの設置」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

使用中に何も表示されなくなった。


確認と対処

- ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードを操作してみてください。電源ランプが点滅している場合は、スタンバイになっています。この場合は、電源スイッチを押すと、元に戻ります。
 p.115 「省電力機能を使う」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイのケーブルがコンピュータに正しく接続されているか確認してください。
ビデオボード装着時は、ビデオボードに接続されているか確認してください。
 p.32 「コンピュータの設置」
- ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売元にご確認ください。

現象

画面がちらつく、文字がにじむ。

確認と対処


- リフレッシュレートを調節してみてください。
 p.95 「リフレッシュレートの設定」

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなつた。

確認と対処

- ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。
- 使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動して、解像度を変更してみてください。

 p.219 「セーフモードでの起動」

▶HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、マニュアルに記載されている容量と異なって表示される。

確認と対処


- 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、マニュアルに記載されているHDD容量より少なく表示されます。
これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」(0と1の2つの数字を用いる表記法)を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」(0~9の数字を用いる表記法)を使用していることによる違いです。
2進法で表記した1KB(キロバイト)は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象


それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処

- HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、HDDの状態を確認してください。

 p.166 「Mainメニュー画面」



- RAIDを構成している場合、「RAID Configuration Utility」でRAIDの状態を確認してください。

 p.71 「RAID Configuration Utilityの起動と終了」

現象

増設したHDDが使用できない。


確認と対処

- HDDに接続しているS-ATAケーブル、電源ケーブルを確認します。
 p.150 「HDDの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順6
- 新しいHDDを使用する場合には、装着後にHDDの領域作成とフォーマットを行う必要があります。
 p.229 「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- 起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
 p.172 「Bootメニュー画面」

▶光ディスクドライブの不具合

現象

セットした光ディスクメディアにアクセスできない。

確認と対処


- 光ディスクメディアが正しくセットされているか確認してください。
- 光ディスクメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は、読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面に傷などがいないか確認してください。
- 本機に添付されているCD-ROM（データが登録されているCDなど）にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできない光ディスクメディアに問題がある可能性があります。
- 特殊なフォーマット形式の光ディスクメディアは、ソフトウェアが対応していない可能性があります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- セットした光ディスクメディアが書き込み済みのメディアの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

光ディスクメディアをセットすると画面が開いてしまう。







確認と対処

- セットした光ディスクメディアに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。メディアに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル] や、 をクリックして、画面を閉じます。その後、[スタート] - 「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンを右クリックして、「開く」を選択します。


現象

光ディスクメディアへの書き込みができない。

確認と対処

- DVD-ROMドライブでは、メディアへの書き込みができません。
- 書き込みソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされていない場合は、インストールをしてください。
 p.189 「Nero 7 Essentialsのインストール」
- メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『Neroユーザーズガイド』を参照してください。
 「マニュアルびゅーわ」 - 『Neroユーザーズガイド』
- データの書き込みをドラッグアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
 p.83 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- 「InCD」で使用できるメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
 p.83 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- 「InCD」でフォーマットしたメディアは、「Nero 7 Essentials」での書き込みができません。「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。
 p.83 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- Windowsが省電力モードに切り替わると、書き込み可能な光ディスクメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力機能を無効にしてください。
 p.118 「時間経過で移行させない」

- お使いの光ディスクドライブ対応のメディアを使用しているか確認してください。対応メディアは、次のマニュアルを参照してください。

 「マニュアルびゅーわ」－『光ディスクドライブ取扱説明書』


- 光ディスクメディアが正しくセットされているか、確認してください。
- 光ディスクメディアの表面に汚れや傷などがいないか確認してください。
- 光ディスクメディアの残量があるか確認してください。
- ヘッドレンズの汚れによって書き込みができない場合があります。
- 光ディスクドライブとの相性によって、セットした光ディスクメディアに書き込めない場合があります。

現象


オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- 本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、アンプ内蔵スピーカを本機背面のサウンドコネクタに接続してください。

 p.37 「スピーカの接続」

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。

 p.96 「サウンド機能を使う」

現象

セットした光ディスクメディアが取り出せない。

確認と対処


- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。
- ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

現象


DVDの再生ができない。

確認と対処

- DVD VIDEOを再生するには場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。本機には、「WinDVD」が購入時にインストールされています。DVD VIDEO再生に関する不具合については、次のマニュアルを参照してください。

 「マニュアルびゅーわ」－『WinDVDユーザーズマニュアル』

- 解像度や色数、リフレッシュレートを変更してみてください。

 p.94 「解像度や表示色を変更するには」


 p.95 「リフレッシュレートの設定」

現象

DVDの再生が不安定になる。

確認と対処

- WinDVD を起動して、「セットアップ」－「ビデオ」タブ－「ビデオハードウェアの構成」の「ハードウェアデコードアクセラレーション使用」と「ハードウェアカラーアクセラレーション使用」のチェックを外してみてください。詳しくは、次のマニュアルをご覧ください。

 「マニュアルびゅーわ」－『WinDVDユーザーズマニュアル』

▶ ネットワークの不具合

現象


「システム診断ツール」にて、「ネットワーク」にエラー (F) が表示された。

確認と対処

- 本機のネットワーク機能に不具合が生じている可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。

**参考****ネットワークの不具合**

ネットワークの不具合については「とらぶる解決ナビ」にも掲載しています。「とらぶる解決ナビ」もあわせてご覧ください。

 p.194 「とらぶる解決ナビ」

▶ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、もしくは、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。
- ハングアップしてしまったら、応答のないプログラムを終了してからコンピュータを再起動します。



p.56 「ハングアップしたときは」

現象

アプリケーションやプログラムの実行が停止され、「データ実行防止」画面が表示された。

確認と対処

- セキュリティソフトウェアで、ウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、テクニカルセンターまでお問い合わせください。



p.122 「データ実行防止機能（DEP機能）」

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要なとされるシステムリソース（メモリ容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。
- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

Internet Explorerの使用時に「警告」（情報バー）画面が表示される。

確認と対処

- Internet Explorerは、購入時、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう、設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」（情報バー）画面が表示されたら、[OK]をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

Internet Explorerの使用時に「セキュリティの警告」画面が表示される。

確認と対処

- セキュリティ強化のために、Active Xなどの意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう、購入時に設定されています。プログラムやダウンロードを実行する場合は、「セキュリティの警告」画面の内容をよくお読みください。

Internet Explorerの設定は次の場所で確認できます。

- [セキュリティセンター] - 「インターネットオプション」 - 「セキュリティタブ」をクリック
- Internet Explorerの「ツール」 - 「インターネットオプション」 - 「セキュリティタブ」をクリック

現象

Outlook ExpressでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処


- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。
HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。
添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。
Outlook Expressの [ツール] - 「オプション」 - 「セキュリティ」 タブ - 「ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

- バックアップした「マニュアルびゅーわ」を復元してください。
バックアップ先のメディアなどから、「お知らせ」フォルダをCドライブにコピーします。
- 「マニュアルびゅーわ」のバックアップをしていなかった場合、「マニュアルびゅーわ」を復元することはできません。この場合は、当社で作成したマニュアルのみ、当社のユーザーサポートページからダウンロードすることができます。
ダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

 p.227 「電子マニュアルのダウンロード」


▶メモリの不具合


現象

メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

- 起動時のメモリチェックやWindows上では、メモリ容量が正しく表示されないことがあります。BIOS Setupユーティリティを起動し、「Main」メニュー画面 - 「System Information」 - 「Usable Size」で使用可能なメモリ容量を確認してください。

 p.166 「Mainメニュー画面」



- メインボード上のビデオ機能を使用している場合、本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量（最小8MB）を差し引いて表示されます。
- メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、スロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。また、メモリのスロットの組み合わせが正しいか確認してください。
 p.132 「メモリの増設」
- 購入時から不具合がある場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

▶マルチカードリーダーの不具合

現象

メモリカードが使用できない。

確認と対処

- メモリカードを裏表逆に入れていないか確認します。
- メモリカードがメモリスロットの仕様に対応しているか確認します。本機のメモリスロットでは、5VのSmartMediaを使用することができません。
 p.85 「使用可能なメモリカード」
- タスクトレイの「取り外し」アイコンからメモリカードを取り出すと、メモリカードスロットが認識されなくなります。Windowsを再起動してから、再度メモリカードをセットしてください。
 p.88 「メモリカードのセットと取り出し」

▶拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合

現象

拡張ボード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処

- 増設した機器が、対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。
- 周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。



- 拡張ボードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要な場合があります。拡張ボードのマニュアルを確認してください。
- 拡張ボードを使用するためのユーティリティなどが正しく実行されているか確認してください。拡張ボードのマニュアルおよびソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- 以上の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張ボード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

▶スピーカ（サウンド）の不具合

現象

音が鳴らない。

確認と対処

- 本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、アンプ内蔵スピーカを本機背面のサウンドコネクタに接続してください。
 p.37 「スピーカの接続」
- ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。
 p.96 「サウンド機能を使う」

▶セキュリティチップ（TPM）のセキュリティ機能の不具合

現象


セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。


確認と対策



セキュリティチップの情報を初期化すると、暗号化されたデータを利用できなくなります。

セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOSセットアップユーティリティ」の次の項目で行います。

「Boot」メニュー画面－「Security」－「TPM Function」－「Clear Trusted Platform Module」で  を押し、確認画面で [Ok] を選択します。

 p.172 「Bootメニュー画面」

トラブル時に役立つ機能

ここでは、トラブルが発生した場合に役立つ、Windowsの機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

コンピュータが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。

セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F5** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
F5 を押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。


セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

▶システムの復元

コンピュータの動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってコンピュータを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムの復元を行う前に、HDDのデータを他のメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

 p.225 「データのバックアップ」

システムを復元する

復元ポイントの状態にシステムを戻す方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2 「システムの復元」が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」を選択し、[次へ] をクリックします。

- 3** 「復元ポイントの選択」と表示されたら、復元ポイントを選択します。
復元ポイントのある日が、カレンダーに太字で表示されるので、まず日付を選択し、次に画面右側の復元ポイントの一覧より、復元ポイントを選択し、[次へ] をクリックします。
- 4** 「復元ポイントの選択の確認」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
コンピュータが再起動します。
- 5** 再起動後、「復元は完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「システムの復元」画面が表示されたら、「復元ポイントの作成」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3** 「復元ポイントの作成」と表示されたら、「復元ポイントの説明」に説明を入力し、[作成] をクリックします。
- 4** 「新しい復元ポイント」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
以上で復元ポイントの作成は完了です。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。処置を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください、テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER	HDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから電源を入れてください。
CPU Over temperature Error!	CPUが高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。
CPU Fan Error!	CPUファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから電源を入れてください。
CPU Over Voltage Error!	CPUの電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。

付録

本機をご使用になる際に役立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

「お手入れ」	224
「データのバックアップ」	225
「電子マニュアルのダウンロード」	227
「セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化」	228
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」	229
「リチウム電池の交換」	239
「CMOS RAMの初期化」	242
「コンピュータ内部のケーブル接続」	244
「機能仕様一覧」	245
「用語集」	246

お手入れ

▶本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

Cドライブ内の「マイ ドキュメント」やInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」と「とらぶる解決ナビ」で詳しく紹介しています。

●「PCお役立ち情報」の見方

バックアップ方法は、次の場所から見るができます。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「安全に安心して使おう！」項目の「バックアップ」



<画面の内容は予告なく変更される場合があります>

●「とらぶる解決ナビ」の見方

バックアップ方法は、次の場所から見ることができます。

「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」－「よくある質問」
項目の「よくある質問を見る」－「操作・設定方法」



見たい情報を
クリック

<画面の内容は予告なく変更される場合があります>

マニュアルびゅうわのバックアップ

マニュアルびゅうわのデータは、Cドライブの「お知らせ」フォルダにあり、Windowsを再インストールすると削除されます。Windowsを再インストールする前に、Cドライブの「お知らせ」フォルダをほかのメディアなどに必ずコピーして保存してください。

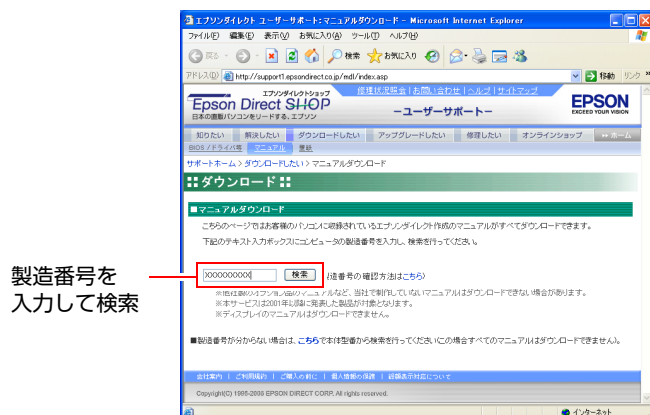
ほかのメディアなどに保存した「お知らせ」フォルダは、Windowsを再インストールした後にCドライブにコピーして元に戻します。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを消してしまった場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」－「マニュアル」



※ 画面の内容は予告なく変更する場合があります。



制限

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見ることができません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- 壁紙

セキュリティチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機では、セキュリティチップ (TPM) のセキュリティ機能を使用して、本機に保存されているデータや電子メールに対し、暗号化を行うことができます。セキュリティチップのセキュリティ機能の設定方法や使用方法については、本機に添付の『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。



セキュリティチップのセキュリティ機能を使用するには、いくつかのパスワードの設定が必要です。パスワードを忘れてしまった場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。セキュリティ機能を使用する際は、十分に注意し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

セキュリティチップのセキュリティ機能を使用するための準備

セキュリティチップのセキュリティ機能を使用するには、BIOS設定と、「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

● BIOSの設定

購入時、BIOSでセキュリティチップのセキュリティ機能は、「Disabled」(無効)に設定されています。セキュリティ機能を使用するには、次の設定を行ってください。

BIOS Setupユーティリティの「Boot」メニュー画面－「Security」－「TPM Function」－「Trusted Platform Module」を「Enabled」(有効)に変更

 p.172 「Bootメニュー画面」

● セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機にセキュリティチップのセキュリティ機能の設定を行うための「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。セキュリティチップのセキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行ってください。

インストール方法は、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

HDD領域（ドライブ）の分割

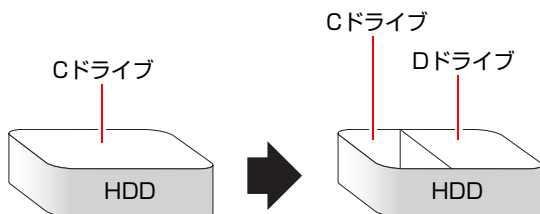
HDD領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

分割したHDD領域は、「パーティション」とも呼びます。

また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。

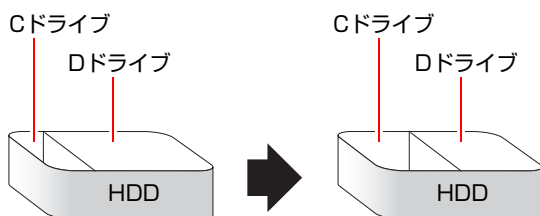


HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

<ドライブのサイズを変更する>

例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

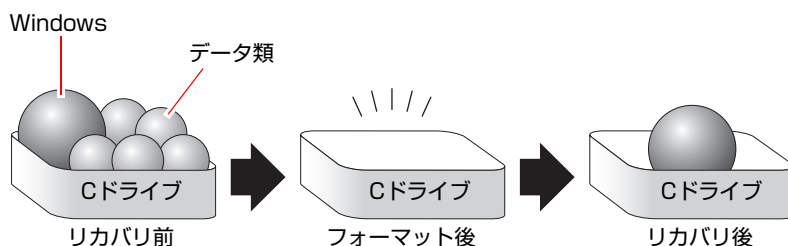
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

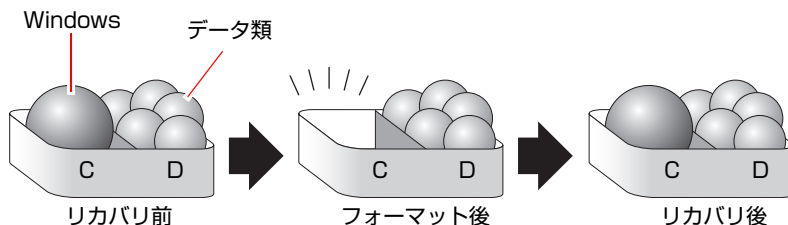
●メリット

HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で、元の環境に復帰することができます。

<HDD領域が1つの場合>



<HDD領域を分割した場合>



たとえば、WindowsやアプリケーションはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。



制限

HDD 領域を分割した HDD のリカバリをする場合は、万一に備えて D ドライブの重要なデータをバックアップしてください。

●デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

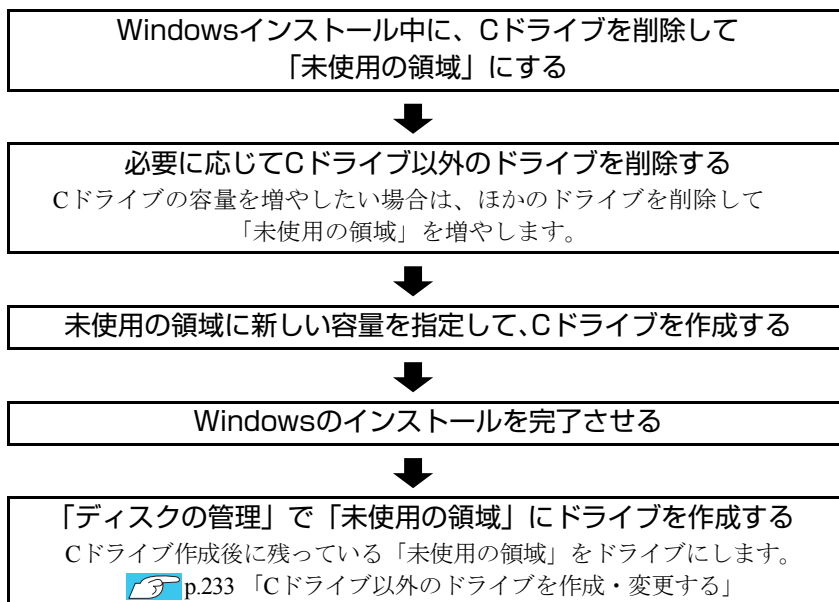
Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してから、サイズを指定して、再作成します。

Cドライブ以外のドライブの変更方法は、p.233 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。



ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。


Cドライブの分割・変更の流れは、次のとおりです。



Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsのインストールが必要です。p.183
「Windowsのインストール」の手順5～7を、次の手順に読み替えて、Windowsのインストールを行ってください。

- 1 「次の一覧には、このコンピュータ上の・・・」と表示されたら、Cドライブを選択し、**[D]**（削除）を押します。
- 2 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、**[↵]**を押します。
- 3 「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら、**[L]**を押します。
ドライブが未使用の領域になります。
- 4 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。
<Cドライブを分割したい場合>
(1) 「未使用の領域」を選択して、**[C]**を押します。
手順5に進みます。
<Cドライブの容量を増やしたい場合>
(1) Cドライブ以外のパーティション（ドライブ）を選択して、**[D]**（削除）を押します。
(2) 手順2、3を実行します。
選択したパーティションが「未使用の領域」になります。
(3) 「未使用の領域」を選択して、**[C]**を押します。
手順5に進みます。
- 5 Cドライブの容量を決めます。「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ (MB)」に表示されている数字を **[Back space]** で削除し、任意の数値を入力して、**[↵]**を押します。
Cドライブには、最低でも3GB（3000MB）を割り当てることをおすすめします。
- 6 「次の一覧には、コンピュータ上の…」と表示されたら、「C：パーティション1（未フォーマット）」を選択して、**[↵]**を押します。
未使用の領域は、ここではフォーマットできません。インストール後、「ディスク管理」で行います。

- 7** 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して、を押します。

p.183 「Windowsのインストール」の手順8に進みます。

Windowsのインストールが完了したら、「ディスクの管理」で未使用の領域をドライブにします。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。

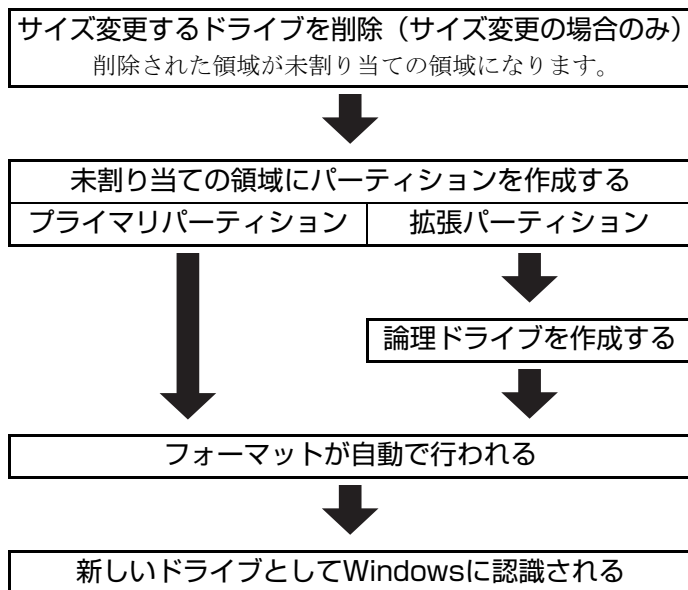
次のような場合にご覧ください。

- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合。
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成された「未使用の領域」をドライブにして使用する場合。
- 増設したHDDを初めて使用する場合。

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、p.230「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成・変更は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。
ドライブの作成の流れは次のとおりです。



HDD内の「未割り当ての領域（未使用の領域）」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

ドライブの作成方法は、p.235 「HDD領域（パーティション）の作成手順」をご覧ください。

ドライブの削除方法は、p.238 「Cドライブ以外のドライブを削除する」をご覧ください。

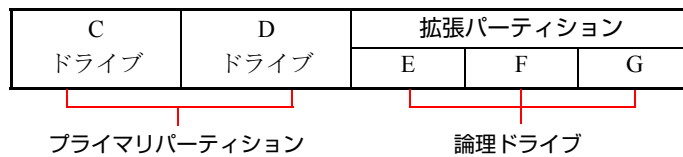

参考

パーティションとは

- Windowsの「ディスクの管理」では、HDD領域のことを「パーティション」と呼びます。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。そのうち拡張パーティションは、最大で1つです。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせると、次のように、1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

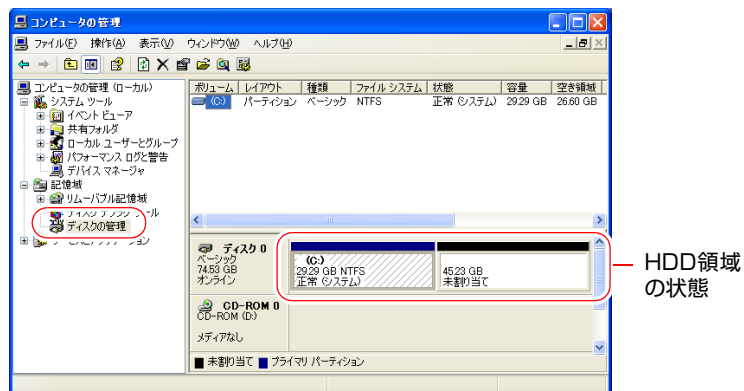
<パーティションの組み合わせの例>



HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。ここでは、拡張パーティションの作成方法を説明します。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

増設したHDDが「不明」と表示されている場合



ディスク1を右クリックして、表示されたメニューから「初期化」をクリックします。

- パーティションを設定したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション」をクリックします。
- 「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「拡張パーティション」を選択して、[次へ] をクリックします。
プライマリパーティションを選択した場合は、手順6の次にp.236 「論理ドライブの作成」の手順5に移ります。
- 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。
拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。続いて「空き領域」に論理ドライブを作成します。

論理ドライブの作成

拡張パーティション内に論理ドライブを作成する手順は、次のとおりです。

- 「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」をクリックします。
- 「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ] をクリックします。
- 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ」に任意の値を入力して、[次へ] をクリックします。
複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。

- 5** 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「次のドライブ文字を割り当てる」に任意のドライブレターを選択して、[次へ] をクリックします。
「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。
- 6** 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で、[次へ] をクリックします。
表示されている設定値を変更する必要はありません。
- 7** 「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
- 8** [完了] をクリックすると、自動的にフォーマットが行われます。
フォーマットが終了すると論理ドライブの作成は終了です。
複数の論理ドライブを作成する場合は、手順1～8の作業を繰り返します。

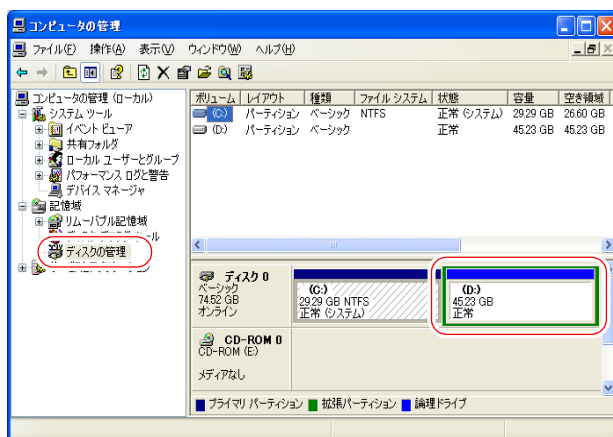
▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブのサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。


- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。



<イメージ>

- 3 削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「論理ドライブの削除」または「パーティションの削除」をクリックします。
- 4 「・・・続行しますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。

論理ドライブを削除すると、「空き領域」になります。空き領域をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

 p.235 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032（または同等品）

リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。

リチウム電池の残量が少なくなると、情報を保持できなくなり、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した値が、何もしないのに変わってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

交換手順

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。交換作業は、本機を横置きにして行います。

- 1** 本機の電源を切り、本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。

作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。

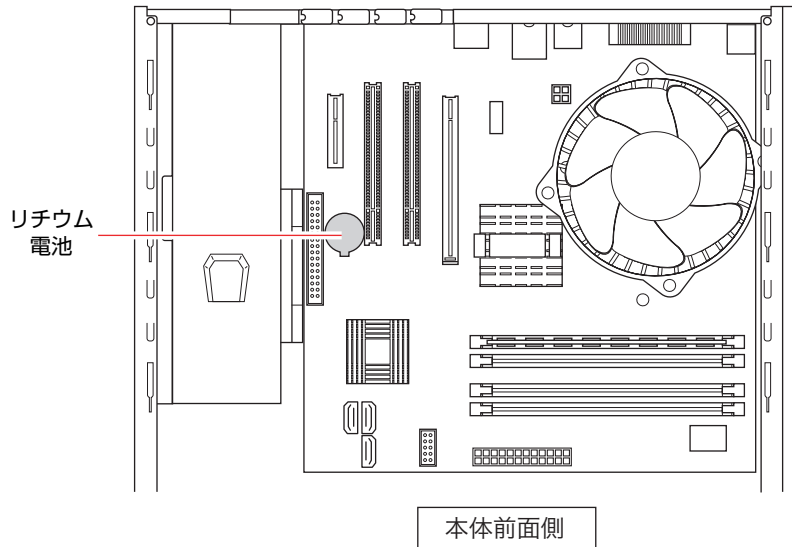
- 2** 本体カバー、リンクバーを取り外します。




p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」

3 リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。



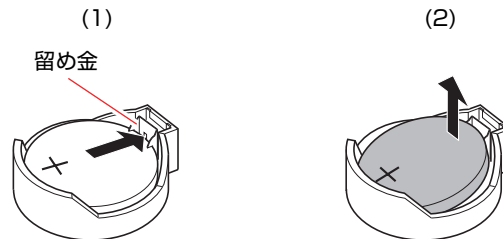
4 必要に応じて、作業の妨げになる拡張ボードを取り外します。

 p.140 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

5 リチウム電池を取り外します。

(1) 電池ホルダの留め金を押します。

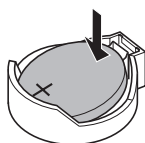
(2) リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。




6 新しいリチウム電池を取り付けます。




刻印面（+側）が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。

電池ホルダの留め金で固定されるとき、「カチッ」と音が鳴ります。



7 手順4で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。

 p.140 「拡張ボードの取り付け・取り外し」

- 8** リンクバー、本体カバーを取り付けます。
- 9** コンピュータを使用できるように、本機のケーブル類をもとどおりに接続します。
- 10** コンピュータの電源を入れます。
- 11** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS checksum error - Defaults loaded」と表示されたら、**Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.157 「起動方法」
- 12** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.161 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 13** 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 14** **Esc** を押し、「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」で「Ok」を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
 p.165 「終了方法」

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして、本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。本機の電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから作業を行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり倒れたりして、けがをする危険があります。




- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.174 「BIOSの設定値」
- BIOSで管理者パスワードを設定し、HDDのアクセスを制限していた場合、CMOS RAMの初期化を行っても、HDDへのアクセス制限を解除することはできません。HDDへのアクセス制限を設定したHDDは、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
 p.162 「Passwordの設定」 - 「アクセス制限の設定」 - 「HDDへのアクセス制限」








CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。作業は、本機を横置きに行います。

- 1** 本機の電源を切り、本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。

作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。

- 2** 本体カバー、リンクバーを取り外します。

 p.128 「本体カバーとリンクバーの取り外し・取り付け」

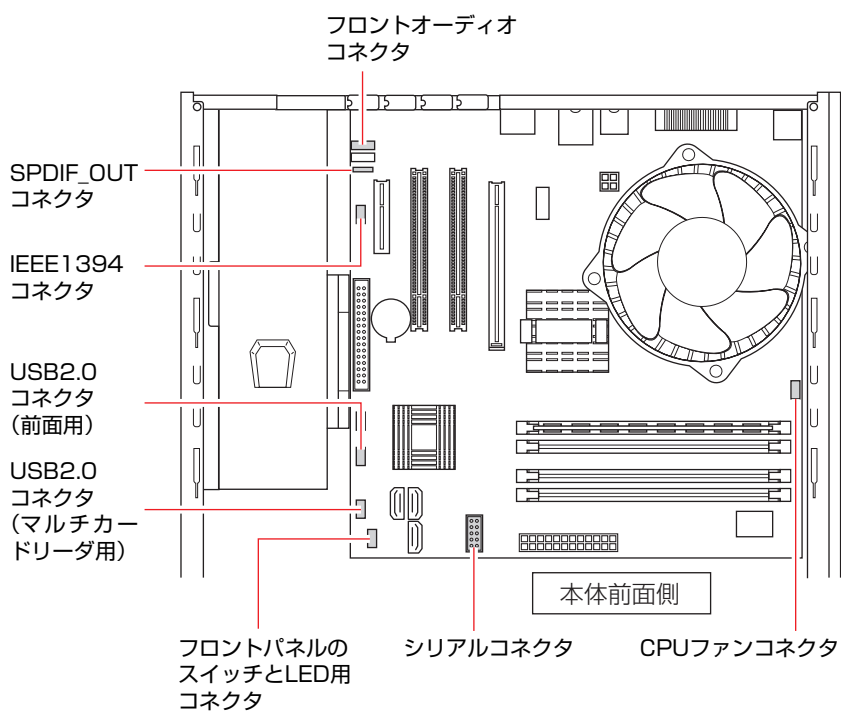
- 3** 必要に応じて、拡張の妨げになる拡張ボードを取り外します。
 p.140 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 4** リチウム電池を取り外します。
 p.239 「リチウム電池の交換」手順5
- 5** 約1分間放置します。
- 6** リチウム電池を取り付けます。
 p.239 「リチウム電池の交換」手順6
- 7** 手順3で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。
 p.140 「拡張ボードの取り付け・取り外し」
- 8** リンクバー、本体カバーを取り付けます。
- 9** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類をもとどおりに接続します。
- 10** コンピュータの電源を入れます。
- 11** 「EPSON」と表示後、「CMOS checksum error - Defaults loaded」と表示されたら、**Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.157 「起動方法」
- 12** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.161 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 13** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 14** **Esc** を押し、「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」で**Ok** を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
 p.165 「終了方法」

コンピュータ内部のケーブル接続

本機の内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤ってこれらのケーブルを外してしまった場合には、次の図を参照して、正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。



機能仕様一覧

CPU	プロセッサ	インテルCore 2 Duoプロセッサ、インテルPentium Dual Coreプロセッサ、インテルPentium Dプロセッサ、インテルPentium4プロセッサ、インテルCeleronプロセッサまたはインテルCeleron Dプロセッサ（購入時の選択による）
	ソケット	LGA775Socket
チップセット		インテルG965 Express+ICH8R
BIOS		AMI BIOS
セキュリティチップ (TPM)	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLB9635TT
メインメモリ		PC2-5300 (DDR2-667 SDRAM) を使用して最大3GBまで搭載可能
ビデオコントローラ/メモリ		インテルG965 Intel Graphics Media Accelerator 3000 / 8MB (最小)
サウンドコントローラ		チップセット内蔵 (インテル ハイ・デフィニション・オーディオ) リアルテック7.1chオーディオCODEC
記憶装置	HDD	1台内蔵 (S-ATA II 対応)
	光ディスクドライブ	1台内蔵 (種類は購入時の選択による)
	マルチカードリーダー	1台内蔵 (メモリスティック、スマートメディア、コンパクトフラッシュ、SDメモ리카ード、マルチメディアカード対応)
インタフェース	USB	6 : USB2.0 (前面側×2、背面側×4)
	LAN	1 : RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応 自動認識
	サウンド	前面側 : ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1 背面側 : フロントスピーカ/ライン出力コネクタ×1、センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ×1、リアスピーカ出力コネクタ×1、サイドスピーカ出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1
	ディスプレイ	1 : アナログRGB ミニD-SUB 15ピン
	IEEE1394	2 : 前面側4ピン、背面側6ピン
	キーボード	1 : IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	マウス	1 : IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	パラレル	1 : セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECC/EPPサポート
ドライブベイ	5.25型ドライブベイ	1 : 光ディスクドライブ1台を装着済み
	HDDベイ	2 : S-ATA HDD1台を装着済み
外部拡張スロット	PCI Express x16	1 : ボード長170mm×ボード幅69mmまで装着可能
	PCI Express x4	1 : ボード長170mm×ボード幅69mmまで装着可能
	PCI	2 : ボード長170mm×ボード幅64mmまで装着可能
キーボード		日本語対応106PS/2コンパクトキーボード (種類は購入時の選択による)
マウス		ホイール付USBオプティカルマウス (種類は購入時の選択による)
カレンダー時計		内蔵 (リチウム電池によりバックアップ)
電源容量		275W
入力電圧		AC100V±10% 50/60 Hz
温湿度条件		温度 : 10~35℃ 湿度 : 20~80% (ただし、結露しないこと)
外形寸法 (縦置き時)		本体 : 約98 (幅) ×401 (奥行) ×357 (高さ) mm (突起部、縦置きスタンド除く)
質量		本体 : 約8.6kg (本体のみ)
消費電力		393W (最大) / 5.0W (スタンバイ時) / 4.0W (電源OFF時)

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

● ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

● ADSL

Asymmetric Digital Subscriber Line（非対称デジタル加入者線）の略。一般の電話回線を利用した高速通信サービスです。電話中でもインターネット接続ができ、高速通信が可能で、月々の料金は定額で利用することができます。ブロードバンドの接続方法のひとつです。

● AGP

Advanced Graphics Portの略。CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

● BIOS（バイオス）

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

類義語 CMOS RAM

● BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOSRAMに保存されます。

● Blu-ray Disc

DVDを超える容量を持つ光ディスク。「次世代DVD」の1つ。容量は片面1層タイプで25GB、片面2層タイプ（DL）で50GB。

メディアの種類は、CDやDVDと同じく、読み込み専用のBD-ROM、1度だけ書き込み可能なBD-R、BD-R DL、繰り返し書き込み可能なBD-RE、BD-RE DLがあります。

● Boot（ブート）

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。「起動する」とも言います。

● CD

Compact Discの略。最大700MBの容量を持つ光ディスクです。

メディアの種類は、読み込み専用のCD-ROM、1度だけ書き込み可能なCD-R、繰り返し書き込み可能なCD-RWがあります。

● CPU

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

● DDR SDRAM

「DDR」とは、「Double Data Rate」の略。従来のSDRAMよりもデータ転送が2倍速くなります。

● DMAチャンネル

DMAでデータを転送する場合の通りのこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります。

● DMA転送

Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うことです。

● DRAM (ディーラム)

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

● DVD

Digital Versatile (Video) Discの略。

CDよりも大容量のデータを保存できる光ディスクです。容量は片面1層タイプで4.7GB、片面2層タイプ(DL)で8.5GB、両面1層タイプで9.4GB。

メディアの種類は、読み込み専用のDVD-ROM、1度だけ書き込み可能なDVD±R、DVD±R DL、繰り返し書き込み可能なDVD±RW、FDのように書き込み/書き換えが可能なDVD-RAMがあります。

● DVI

デジタルディスプレイを接続するためのインタフェースのことです。DVI-Dはデジタル専用、DVI-Iはアナログ/デジタル両用のインタフェースです。

● FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます。

● FTTH (光ファイバー)

Fiber To The Home(家庭向け光ファイバー)の略。光ファイバーを利用した超高速通信サービスです。電話中でもインターネット接続ができ、高速通信が可能な上、月々の料金は定額で利用することができます。ブロードバンドの接続方法のひとつです。

● HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができます、それぞれドライブとして利用できます。

● I/Oポート

I/OはInput/Outputの略。CPUとデバイス間でデータをやりとりするポートです。

● IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。

● IEEE1394

コンピュータと周辺機器をシリアル通信で接続するための規格のこと。USBインタフェースより、データ転送速度が速く、大容量のデータ転送も可能です。

● IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

● IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0~IRQ15の16種類が用意されています。

● ISDN

NTTが提供する高速デジタル回線のこと。普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータを送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、1本で2回線分を使用することができます。

● LAN

Local Area Networkの略。会社内や学校内など比較的限られたエリア内のコンピュータ同士をつなげた状態のことです。

● Low Profile

省スペース型PC向の小型のPCIカードの規格。幅が64.4mmまで、奥行が119.9mm (MD1)/167.6mm (MD2) までのもの。

● MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

● NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

● OS (オーエス)

Operating System (オペレーティングシステム)の略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアで、Windows XPなどのことです。

● PCI Express

PCI、AGPの後継となるバス規格。従来のPCIのようなパラレル転送ではなく、高速なシリアル転送となります。インタフェースとしての最小構成を1レーン (×1) と呼びますが、レーンをまとめて利用し、帯域を拡張することが可能です。たとえば、16レーン対応のスロットに1レーンや8レーンなど、レーン数の少ない拡張カードを挿入することもできます。ホットプラグに対応しています。

● PCIバス

拡張バス的一种。一般的に採用されている拡張バス。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張カードに使用されます。

● RAID (レイド)

Redundant Arrays of Independent (Inexpensive) Disksの略。複数のHDDをまとめて1台のHDDとして管理するシステムのこと、いくつかの種類があります。

● RAID0

RAIDの種類の一つ。ストライピングとも呼ばれ、2台のHDDを1台のHDDとして使用できます。データ書き込みを、2台のHDDに分散して同時に処理を行うため、高速に書き込み処理を行うことができます。

● RAID1

RAIDの種類の一つ。ミラーリングとも呼ばれ、2台のHDDに同じデータを書き込み、データバックアップを行うためのシステムです。1台のHDDが破損しても、もう1台のHDDからデータを復旧することができます。

● RAM (ラム)

Random Access Memoryの略。RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

● ROM (ロム)

Read Only Memoryの略。読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

● RS232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA（ターミナルアダプタ）などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやりとりするときに用いられています。

● SCSI (スカジー)

Small Computer System Interfaceの略。コンピュータと周辺機器のデータの入出力方法（インタフェース）を定めた規格の一種です。よく使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

● SDRAM

外部バスインタフェースが、一定周期のクロック信号に同期して動作するように改良されたDRAMです。

● Serial ATA

Ultra ATAなどの従来のATA仕様で採用されていたパラレル転送方式をシリアル転送方式に変更したものです。1.5Gbpsの超高速データ通信が可能です。本機のHDDは、Serial ATA IIに対応していません。

● S/P DIF

Sony Philips Digital InterFaceの略。デジタル信号に変換された音声データをやりとりするためのインタフェースのことです。

● SXGA

Super eXtended Graphics Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、1280×1024ピクセルの解像度のこと。「Super-XGA」と表記されることもあります。

● TA

Terminal Adapterの略。コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

● URL (ユーアールエル)

Uniform Resource Locatorの略。インターネット上の情報資源（文書や画像など）の場所を示す記述方式で、インターネットのアドレスのことです。

● USB

Universal Serial Busの略。周辺機器をシリアル通信で接続するための規格。USB対応機器を接続します。USB2.0はUSB1.1と完全互換ですが、USB2.0の動作速度で動作するには、コンピュータ、周辺機器の両方がUSB2.0に対応している必要があります。

● VGA

Video Graphics Arrayの略。640×480ピクセル、16色を表示するDOS/V機の基本的なビデオ表示機能です。

Windowsなどで高解像度表示が可能なコンピュータでも起動時には必ずこのモードで表示されます。

VGAコネクタは、アナログディスプレイを接続するためのインタフェースです。

- **WXGA**
Wide eXtend Graphic Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、ワイドディスプレイ対応の解像度のことを言います。
- **XGA**
eXtend Graphic Arrayの略。ディスプレイの表示能力を示す名称で、1024×768ピクセルの解像度のこと。解像度が高いほど、画像に多くの情報を表示することができます。
- **アカウント**
ネットワーク上で利用者を識別するための名前（記号や番号）のことです。
- **アクセス**
データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。
- **アクセスポイント**
インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。
- **アクセスランプ**
HDDやFDD、メモリカードスロット、光ディスクドライブにアクセスしていることを示すランプのことです。
- **アップロード**
手元のコンピュータにあるデータを、通信回線を利用して、遠隔地のコンピュータに転送することです。
- **アドレス**
メモリやI/Oポートに付けられた番地（場所）のことです。一般的に16進数で示されます。
- **アプリケーションソフト**
プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのようにユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。
- **インストール**
ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。
- **インタフェース**
コンピュータと周辺装置の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。
- **ウイルス**
コンピュータウイルスと呼ばれ、第三者による悪質なプログラムのことを言います。ウイルスには、データを削除したりするもの、メールを介して第三者にデータを送信したりするものなど様々な種類があります。コンピュータがウイルスに感染してしまった場合は、ウイルス対策ソフトウェアで検索・駆除する必要があります。
- **オフライン**
コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。
- **オンライン**
他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。
- **解像度**
画面表示の細かさのことです。
- **外部キャッシュメモリ**
CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。
類義語 キャッシュ RAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

● 拡張スロット

拡張ボードを装着するためのスロットです。拡張ボードには、AGP用拡張ボード、ISAバス用拡張ボード、PCIバス用拡張ボードなどがあります。

● カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

● 起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

類義語 立ち上げる、ブート (Boot)

● キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

● コマンド

コンピュータに与える命令です。命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

● サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

● システム

コンピュータ (ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト (ソフトウェア) など全体のことを示します。

● ジャンプスイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのことです。ジャンプスイッチの設定はジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

● シリアルポート

シリアルインタフェース規格にのっとった周辺機器を接続するためのポート。外付けモデムやT A (ターミナルアダプタ) などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

● スпамメール

広告メールや悪質なメールなど、一般的に迷惑メールのことを言います。近年では、プロバイダやソフトウェアで受信拒否などを行うことができます。

● ダイヤルアップ接続

モデムを用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するために、プロバイダに接続することを言います。

● ダウンロード

遠隔地のコンピュータのデータなどを、通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

● ディザリング

複数の画素を組み合わせて、1つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

● ディスプレイ

表示装置のことです。モニタともいいます。ディスプレイには、CRTディスプレイ、液晶ディスプレイなどがあります。

類義語 モニタ

● ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

● ドライブレター

FDD、HDDや光ディスクドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが1台搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」が光ディスクドライブに割り当てられます。

● 内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

● ナローバンド

電話回線や携帯電話・PHSからプロバイダのAP（アクセスポイント）へダイヤルアップ接続してインターネットへ接続する環境のことです。

● ハイパー・スレディングテクノロジー

Windowsに1つのCPUを仮想的に2つにみせることで、異なる2つの命令を快適に処理する機能のことです。

● バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電氣的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

● パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

● パラレルポート

パラレルインターフェース規格にのった周辺機器を接続するためのポート。主にプリンタを接続します。

● ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

● ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの（自然空冷）や放熱ファンを回す（強制空冷）のものがあります。

● ピクセル

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

● ビデオメモリ

別名グラフィックスメモリ。ディスプレイに表示される内容を保持しているメモリのこと。画面の最大解像度や最大同時発色数はビデオメモリの容量に左右されます。メインメモリの一部をビデオメモリとして使用する機種もあります。

● ファイアウォール

インターネットなど、通信の制御をするシステムのことを言います。ネットワークやインターネットを介して第三者や悪質なプログラムがコンピュータにアクセスすることを阻止します。

● ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

● フィッシング

金融機関などのメールやホームページを装い、ユーザーにログインIDやパスワードを入力させて個人情報を詐取する詐欺行為のことです。

● 物理ドライブ

HDD1台や、光ディスクドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

● ブラウザ

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページをみることを「ブラウジング」といいます。

● プラグアンドプレイ

取り付ける (Plug) だけで動作する (Play) こと。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能のことです。

● ブロードバンド

光ファイバーやADSLおよびCATVでの接続方法でインターネットに接続する環境のことです。

● プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

● プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のこと。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

● ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

● ボリュームラベル

HDDやFDにつけた名称のことです。

● 無線LAN

LANケーブルを使わずに、電波などの無線で通信を行うLANのことです。

● メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのこと。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

● メッセージ

コンピュータが、入力されたコマンドに対して出力する回答のこと。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

● メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

● メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

● モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

● リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語のことです。

類義語 システム資源

● **リフレッシュレート**

ディスプレイの表示において、1秒間に何回画面を更新するかの値です。リフレッシュレート60Hzとえば、1秒間に60回画面を更新することを意味します。

● **ログオン**

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

類義語 ログイン／ログアウト

● **論理ドライブ**

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

数字

106PS/2コンパクトキーボード	58
キーボードユーティリティ	26
5.25型ドライブベイ	126
7.1ch	96

A

Administrator	45
Adobe Reader	26
インストール	187
セットアップ	188
Advancedメニュー画面	168

B

BIOS	155
BIOS Setupユーティリティ	157
起動	157
設定項目	166
設定値	174
BIOSアクセス制限	
Passwordの設定	162
Bootメニュー画面	172

C

Caps Lock	60
CDメディア	
書き込み	82
読み込み・再生	81
CMOS RAMの初期化	242
COAラベル	23
Compact Flash	85
CPU	24
Cドライブ	66, 184
分割・変更する	230
Cドライブ以外のドライブ	
削除する	238

作成・変更する	233
---------------	-----

D

DDR2-533 SDRAM	132
DEP機能	122
DVD VIDEO再生ソフト	81
DVDメディア	
書き込み	82
読み込み・再生	81

E

Exit & Discard Changes	165
Exit & Save Changes	165
Exitメニュー画面	174

F

FD(フロッピーディスク)	
製品保護上の注意	8

G

gooスティック	26
インストール	190

H

HDD設定変更サービス	66
HDD領域	66
分割・変更・作成	229
HDD・光ディスクドライブアクセスランプ	28
HDD(ハードディスクドライブ)	65
購入時の状態	66
取り付け・取り外し	150
取り付け・取り外し後の作業	154
不具合	209
ベイ	126
Hyper Threading Technology	122

I

IDEケーブル	144
IDEコネクタ	143
IEEE1394コネクタ	29, 31, 121
InCD	84
Informationキー	61
Intel Matrix Storage Manager	25
Internet Explorer	109
「お気に入り」にページを登録する	110
起動時に表示されるページ	110
起動と終了	109
検索	110
使い方	109
見たいホームページを開く	110
文字のサイズを変更する	111
リンクしているページにジャンプする	110

J

Java2 Runtime Environment	26
JWord Plugin	26, 111
インストール	190

L

LANケーブル	40, 101
接続	40
LANコネクタ	31, 40
Low Profile	139

M

Mainメニュー画面	166
Memory Stick	86
Microsoft .NET Framework	26
MS-IME	59
Multi Media Card	87

N

Nero 7 Essentials	27, 82
インストール	189
使い方	83
Nero 7 Essentials CD-ROM	27, 179
NetBEUI	101
NetWareサーバ	101
Next Trackキー	61
Norton Internet Security 90日版	26
インストール	189
NTFSファイルシステム	181, 184
Num Lock	60

O

OS	17
Outlook Express	109
起動と終了	112
使い方	112

P

Passwordの設定	162, 173
PCI Express	126, 139
PCお役立ち情報	52
PDF	49
PhishWall	26
インストール	191
Play/Pauseキー	61
Powerメニュー画面	170
Powerキー	61
Previous Trackキー	61
PS/2ポートアダプタ	39

R

RAID	68
RAIDドライバ	25

S

S-ATA HDD.....	65, 145
S-ATA ケーブル.....	145
S-ATA コネクタ.....	143
S-ATA (Serial ATA).....	65
Scroll Lock.....	60
SD Memory Card.....	86
SDカードスロット.....	29, 88
SDメモリーカード.....	86
Sleepキー.....	61, 119
Smart Media.....	85
Stopキー.....	61
Suspend to RAM.....	116

T

TPM.....	228
----------	-----

U

U1キー.....	61
U2キー.....	61
U3キー.....	61
USB.....	91
USB2.0コネクタ.....	29, 30
USB機器.....	91
接続と取り外し.....	91
使う.....	91

V

VGAケーブル.....	36
VGAコネクタ.....	30, 36
Volume Downキー.....	61
Volume Upキー.....	61

W

Wakeup On LAN.....	102
Windows	

インストール.....	182, 183
強制終了.....	56
終了.....	55
セットアップ.....	43, 45
Windows CD-ROM.....	54
Windows Media Player.....	26, 100
Windows Update.....	48, 106
Windows XP.....	25
インストール.....	182, 183
セットアップ.....	46
Windows XPリカバリCD.....	25, 179
登録されているソフトウェア.....	25
Windowsキー.....	62
WinDVD.....	27, 81
インストール.....	189
WinDVD CD-ROM.....	27, 179

あ

アース線.....	41
アース端子.....	41
アイコン.....	18
アウトロックエクスプレス.....	109
アクティベーション.....	47
アップデート	
Adobe Reader.....	188
Windows.....	106
アドミニストレーター.....	45
アドレスバー.....	110
アプリケーションキー.....	62
アプリケーションの強制終了.....	56

い

インストール	
Adobe Reader.....	187
gooスティック.....	190
JWord Plugin.....	190

Windows	182, 183	カテゴリの表示	54
WinDVD.....	189	かな入力	59
セキュリティソフトウェア.....	189	き	
セキュリティチップユーティリティ	190, 228	キーボード	58
フィッシング対策ソフトウェア	191	接続.....	38
不具合.....	204	不具合	206
本体ドライバ.....	187	キーボードコネクタ	30
インターネット	103	キーボードユーティリティ	26
接続.....	103	アイコン	61
注意.....	105	キーロック表示ランプ	58
インターネットエクスプローラ	109	キーワード	110
インテル 965G Expressチップセット用ドライバ.....	25	起動順位の変更	172
インフォメーションメニュー	26, 51	機能キー	58
お		機能仕様一覧	245
オーディオ機器の接続.....	96	休止状態	116
お気に入り	110	有効にする.....	117
お手入れ	224	強制終了	56
お問い合わせ情報シール.....	23	Windows.....	56
オペレーティングシステム	17	アプリケーション.....	56
音量の調節	99	記録メディア	8
か		く	
解像度	94	クラシック表示	54
外部オーディオ機器	96	クリック	43, 63
書き込み		け	
光ディスクメディア.....	82	警告	111
各種設定やデータのバックアップ	181	警告メッセージ	221
拡張スロット	31, 126, 139	ケーブル	
拡張パーティション	235	IDE.....	144
拡張ボード		S-ATA.....	145
増設に関する不具合.....	217	周辺機器用電源.....	144
取り付け・取り外し.....	140	ケーブル接続	
取り付け・取り外し後の作業.....	142	コンピュータ内部.....	244
各部の名称と働き	28		
カスタマイズ	20		

こ

交換

光ディスクドライブ	146
リチウム電池	239

交換後の作業

光ディスクドライブ	149
-----------	-----

コピーコントロールCD	77
-------------	----

困ったときに	194, 195
--------	----------

コントロールパネルの表示	54
--------------	----

コンパクトフラッシュ	85
------------	----

コンパクトフラッシュスロット	29, 88
----------------	--------

コンピュータウイルス	105
------------	-----

コンピュータ内部のコネクタ	244
---------------	-----

CPUファンコネクタ	244
------------	-----

IEEE1394 コネクタ (前面)	244
--------------------	-----

USB2.0 コネクタ (前面)	244
------------------	-----

シリアルコネクタ	244
----------	-----

フロント オーディオコネクタ	244
----------------	-----

マルチカードリーダー用 USB2.0 コネクタ	244
-------------------------	-----

コンピュータの管理者	46, 181
------------	---------

コンピュータ本体

不具合	199
-----	-----

コンピュータを購入時の状態にする	183
------------------	-----

コンピュータ名	45
---------	----

さ

再インストール	178
---------	-----

必要なメディア	179
---------	-----

再起動	56
-----	----

再生

CDメディア	81
--------	----

DVDメディア	81
---------	----

音声	100
----	-----

サイドスピーカ出力コネクタ	30, 97
---------------	--------

サウンド機能	96
--------	----

サウンドコネクタ	29, 30, 96, 97
----------	----------------

サウンドドライバ	25
----------	----

サウンドユーティリティ	99
-------------	----

サウンドレコーダー	100
-----------	-----

サポート情報検索	53
----------	----

サポート・サービスのご案内	23, 194
---------------	---------

し

システム診断ツール	26, 196, 198
-----------	--------------

システムの拡張	125
---------	-----

システムの復元	219
---------	-----

ジャンプスイッチ	144, 147
----------	----------

周辺機器

増設に関する不具合	217
-----------	-----

電源ケーブル	144
--------	-----

使用可能なメモ리카ード	85
-------------	----

使用できるマイク	97
----------	----

省電力機能	53, 115
-------	---------

移行方法	118
------	-----

不具合	205
-----	-----

復帰方法	120
------	-----

情報バー	111
------	-----

使用・保管時の注意	7
-----------	---

終了	55
----	----

初期設定ツール	48
---------	----

初期値に戻す	161
--------	-----

シリアルコネクタ (オプション)	31, 121
------------------	---------

す

数値キー	58
------	----

スクロール	63
-------	----

スタンバイ	116
-------	-----

スピーカ	96
------	----

接続	37
----	----

不具合	218
-----	-----

スピードステップ機能	120
------------	-----

スマートメディア	85
----------	----

スマートメディアスロット	29, 88
スロットカバー	141

せ

制御キー	58
製品保護上の注意	7
セーフモード	93, 219
セキュリティ機能	228
セキュリティソフトウェア	
インストール	189
セキュリティ対策	53
セキュリティチップユーティリティ	25
インストール	190, 228
設定	183
セキュリティチップ(TPM)	228
ドライバ	25
不具合	218
セキュリティロックスロット	31, 124
接続と取り外し	
USB機器	91
設定値をもとに戻すには	161
セットアップ	
Adobe Reader	188
Windows	43, 45
セットアップ終了後の作業	48
セットと取り出し	
メモリカード	88
センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ	30, 97
前面	28

そ

増設	
HDD	150
拡張ボード	140
メモリ	132
増設・交換後の作業	

メモリ	138
ソフトウェア	25
不具合	214

た

タスクトレイ	18
タスクバー	18
縦置きスタンド	33
縦置きにする場合	33
タブ	18
ダブルクリック	63

ち

チップセット	25
直接入力モード	59

つ

通風孔	31
-----------	----

て

ディスクの管理	190, 235
ディスプレイ	93
接続	36
設定	95
不具合	207
データ実行防止機能	122
データの暗号化	228
デスクトップ	18
電源コードの接続	41
電源コネクタ	31
電源スイッチ	28
電源の入れ方	44
2回目	50
電源の切り方	55
電源ランプ	28
表示	117

電池ホルダ	240
添付されているソフトウェア	25

と

ドライバ

RAID	25
インテル 965G Expressチップセット用.....	25
サウンド	25
セキュリティチップ	25
ネットワーク	25
マルチカードリーダー	25
ドライバCD	25, 179
登録されているソフトウェア	25
ドライブベイ	126
ドライブ名	181
ドラッグアンドドロップ	63
とらぶる解決ナビ	194
トラブルが解決しなかったら	53
トラブルが発生したら	194
取り付け・取り外し	
HDD	150
拡張ボード	140
本体カバー・リンクバー	128
メモリ	133
取り付け・取り外し後の作業	
HDD	154
拡張ボード	142
「取り外し」アイコン	92

に

日本語入力システム	59
日本語入力モード	59
入力キー	58

ね

ネットワーク	101
--------------	-----

接続	40
不具合	213
ネットワークドライバ	25

は

パーティション	235
ハードディスクドライブ (HDD)	65
ハイパー・スレディング機能	122
背面	30
パスワード	45, 162
設定	173
バックアップ	65, 183, 225
パラレルコネクタ	30, 121
ハングアップ	56

ひ

光ディスクドライブ	28
交換	146
使う	77
不具合	210
光ディスクドライブアクセスランプ	28
光ディスクドライブイジェクトボタン	28
光ディスクメディア	
書き込み	82
製品保護上の注意	8
ビデオドライバ	25
ビデオボード	36, 142
ビデオメモリ	138
表示機能	93
表示装置	95

ふ

ファイルシステム	
NTFS	184
フィッシング対策ソフトウェア	
インストール	191

不具合

HDD	209
インストール時	204
拡張ボード、周辺機器の増設	217
キーボード	206
起動できない	198, 219
コンピュータ本体	199
省電力機能	205
スピーカ(サウンド)	218
セキュリティチップ(TPM)	218
ソフトウェア	214
ディスプレイ	207
ネットワーク	213
光ディスクドライブ	210
マウス	207
マルチカードリーダー	217
メモリ	216
復元ポイントを手動で作成する	53, 220
復帰する	
省電力モード	120
プライマリパーティション	235
フロントスピーカ/ライン出力コネクタ	30, 97
フロントドア	28, 29
フロントパネル	134

へ

ヘッドフォン出力コネクタ	29, 96
--------------	--------

ほ

ホームページを開く	110
ボタン	18
ホットキー	58, 61
ボリューム	99
本体カバーの取り外し・取り付け	128
本体ドライバのインストール	187

ま

マイク入力コネクタ	29, 30, 96, 97
マウス	63
製品保護上の注意	9
接続	39
使い方	43
不具合	207
マウスコネクタ	30
マウスポインタ	43
マニュアルダウンロード	227
マニュアルびゅうわ	52
バックアップ	226
マルチカードリーダー	29, 85
アクセスランプ	29
ドライバ	25
不具合	217
マルチメディアカード	87

み

右クリック	63
-------	----

め

メインボード	143
メモリ	
仕様	132
スロット	126
増設	132
増設・交換後の作業	138
取り付け・取り外し	133
不具合	216
メモリースティック	86
メモリースティックスロット	29, 88
メモリカード	
セットと取り出し	88
メモリカードアイコン	90

も

文字キー	58
文字を入力するには	59

ゆ

ユーザーサポートページ	52
ユーザー登録	47
ユーザー名	45

よ

横置きにする場合	34
読み込み・再生	
CDメディア	81
DVDメディア	81

ら

ライセンス認証	47
ライティングソフト	82
ライン出力コネクタ	30, 97

ライン入力コネクタ	30, 97
-----------------	--------

り

リアスピーカ出力コネクタ	30, 97
リカバリ	178
リチウム電池の交換	239
リフレッシュレートの設定	95
リムーバブルディスク	90
リモートブート	102
領域の作成	190
リンク	110
リンクバー	128

ろ

ローマ字入力	59
録音	
音声	100
論理ドライブ	235
作成	236

Memo

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でのご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保障期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

PCリサイクルマークについて



PCリサイクルマーク付きの当社製品は、当社が無償で回収、再資源化いたします。

詳細は下記ホームページをご参照ください。

<http://www.epson.jp/ecology/>

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を越えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、MS、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、インテル、Intelロゴ、Pentium、Celeron、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStepは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet SecurityおよびNorton Antivirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Adobeロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKのロゴ「i」は、ソニー株式会社の商標です。

Memory Stick、マジックゲート、Memory Stickのロゴは、ソニー株式会社の商標です。

Multi Media Card(tm)は、ドイツInfineon Technologies AG社の商標です。

SDロゴは商標です。

SmartMediaTM、及びそのロゴは、株式会社 東芝の商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



大豆油インキを
使用しています。

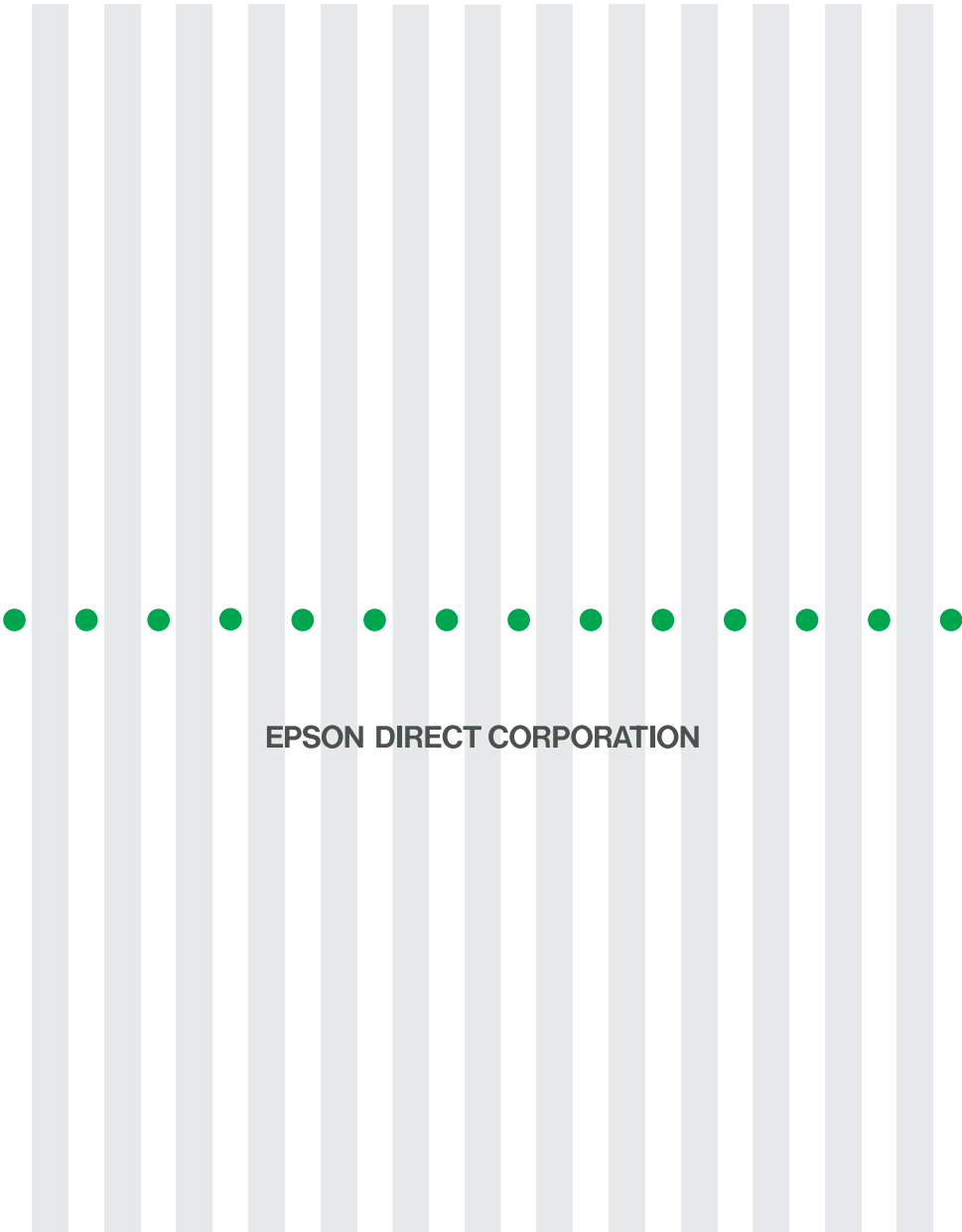


このユーザーズマニュアルは
古紙配合率100%再生紙を使用しています。



C77457002 07.07-20(SO)


epsondirect.jp



EPSON DIRECT CORPORATION